漢字から文章へ

第五冊

全十八回　三百六十字

回　親　風　絵

漢字の意味と熟語を確かめ、
短文や文章の中で使いながら学びます。

和会塾

読み、書き、考えるための漢字教材

この本の使い方

各回で中心となる八字と、いっしょに覚える十二字を扱います。前の冊で出会った字も含みます。一字の意味を手がかりに、熟語、短文、長文へと進みます。表を見ながら解いてもかまいません。

一・二　扉と漢字表

まず、気になる漢字を探してみましょう。次の表で、読み、意味、熟語を確かめます。表の読みは主なものです。一字の意味を足すだけで決めず、熟語全体の意味も確かめてください。

三・四　漢字の働きと熟語

漢字が熟語の中でどう働くかを考え、文に合う語を選びます。大問四では、□の数が答える語の文字数を示しています。送り仮名のある語は、それも含めて解答欄に書きます。

五　使い分けと自分の一文

似た語が、この文では何を表しているかを考えます。意味が重なる場合もあります。自分で書く問題は、経験したことでも、想像した場面でもかまいません。

六　短文で使う練習

文の中で漢字を書き、熟語を読みます。間違えた字だけでなく、なぜその語を使うのかも確かめ、必要なら表へ戻って読み直しましょう。

七　文章を読んで考える

物語や記録を読み、言葉の意味、人物の変化、事実と推測の違いなどを考えます。記述では、本文の具体的な手がかりを理由や判断に結びつけて書いてください。

答えを確かめる

解答と解説は各回の最後にあります。記述の解答例と別解例は、考え方を確かめるためのものです。同じ言い方でなくても、指定語と字数を守り、問われた内容を根拠と結んで書けていればよいものです。

記述のマス　句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

本書の物語・資料・記録・数値は、学習のために作成したものです。

目次 第一回から第九回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第一回	年代と単位を読む	百年と九回の祭り	5	10	12
第二回	国土と境界	県境の宿のスープ	14	19	21
第三回	身分と関係	時計を作らない跡継ぎ	23	28	30
第四回	感覚と身体の働き	背中を向けた肖像画	32	37	39
第五回	喜怒と葛藤	怪談のあとの笑い声	41	46	48
第六回	記述と応答	丸印の向こうの返事	50	55	57
第七回	抽象と判断	巨人が答えられない問い	59	64	66
第八回	強い行為と移動	船を落とさない嵐	68	73	75
第九回	成長・衰退・変質	破れたページの向こう	77	82	84

目次 第十回から第十八回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第十回	慣習と身分	舞台の下へ行きたい竜	86	91	93
第十一回	権力と争い	剣を抜かない夜	95	100	102
第十二回	労働・蓄積・取引	売り切れたのに足りない店	104	109	111
第十三回	地球の激しい動き	滝を描かなかった絵はがき	113	118	120
第十四回	作物と生態	虎が抜かなかった草	122	127	129
第十五回	形状と加工	屋根を外す贈り物	131	136	138
第十六回	食文化と装い	餅を載せなかった皿	140	145	147
第十七回	技法・工程・輸送	向こう岸までの三十秒	149	154	156
第十八回	歴史・芸術・慣習	宮殿を出たあとの一曲	158	163	165

漢字から文章へ 第五冊

第一回

年代と単位を読む

百年前に始まった祭りが、今年は九回目。
百年と九回は、どうつながるのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

回	台	先	午
めぐる 回数	物を載せる 機械の数	前 さき	正午に関わる時
再	歳	旦	弐
もう一度	年 年齢	夜明け 朝	二の改まった字

いっしょに覚える漢字

九	分	四	百	毎	羽
才	尺	俵	匹	厘	壱

この回で読むお話

百年と九回の祭り

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
回	カイ まわる まわす	めぐる／行った数を数える 回数・今回・巡回・一回	再	サイ サ ふたたび	もう一度 再建・再度・再開・再現
台	ダイ タイ	物を載せるもの／機械を数える 台数・台帳・土台・一台	歳	サイ セイ	年／年齢 歳月・何歳・歳末・歳入
先	セン さき	前にある／前の時代 先代・先月・先頭・祖先	旦	タン ダン	夜明け／朝 元旦・旦夕・一旦
午	ゴ	正午を中心とする時刻 午前・正午・午後・午前中	弐	ニ	二の改まった書き方 弐枚・弐番・金弐円

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
九	キュウ ク ここの ここのつ	数の九 九回・九年・九人・九月	才	サイ	生まれつきの力／年齢 才能・天才・秀才・十才
分	ブン フン ブ わける わかる	分ける／時間の単位 分間・部分・区分・十分	尺	シャク	昔からの長さの単位 一尺・尺度・尺貫法
四	シ よ よつ よっつ	数の四 四年・四人・四月・四方	俵	ヒョウ たわら	わらで編んだ袋／俵を数える 一俵・米俵・土俵・俵物
百	ヒャク ビャク ピャク	数の百 百戸・百年・数百・百科	匹	ヒツ ひき	小動物などを数える 一匹・匹数・二匹・匹敵
毎	マイ ごと	そのたび／一つ一つ 毎年・毎回・毎日・毎月	厘	リン	ごく小さな量を表す単位 一厘・厘毛・九分九厘
羽	ウ は はね	鳥のはね／鳥などを数える 一羽・羽毛・羽音・千羽	壱	イチ	一の改まった書き方 壱枚・壱番・金壱円

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「回数」が表すものを選びなさい。
ア　始まった年と終わった年の差　　イ　同じ種類のことを行った数
ウ　使った機械の重さ　　エ　参加した人の年齢

(2)「先代」に合うものを選びなさい。
ア　これから必ず生まれる人　　イ　同じ家にいる全員
ウ　最初に会場へ来た人　　エ　今の人の一代前に、その家や役目を継いでいた人

(3)「再建」に合うものを選びなさい。
ア　壊れたり失われたりした建物などを建て直すこと　　イ　祭りの回数を一つ増やすこと
ウ　全ての材料を必ず新品にすること　　エ　古い記録を捨てること

(4)「歳月」が表すものを選びなさい。
ア　集まった人の数だけ　　イ　朝の日光の強さ
ウ　年月として流れる時間　　エ　祭りの名前を記した札

(5)「弐枚」の読み取りに合うものを選びなさい。
ア　二枚を改まった数字で記している。　　イ　二枚より必ず多い。
ウ　数字でない記号だけを示す。　　エ　百枚を省略した表記である。

(6)「元旦」に合うものを選びなさい。
ア　毎月の最初の夜　　イ　正午から夕方まで
ウ　祭りを再開した日ならいつでも　　エ　一月一日の朝

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　九回　先頭　百戸　歳月　回数　一羽　弐枚
再建　四年　台数　毎年　元旦　午前　分間

文	解答	文	解答
(1) 行った数を示す□□を確かめる。		(8) 古い札に「二枚」を□□と記す。	
(2) 車を数えた□□を記録する。		(9) 今回が九度目なら□□目である。	
(3) 列のいちばん前の□□に立つ。		(10) 三十□□は三十分の長さだ。	
(4) 正午より前の□□に集まる。		(11) 前回から□□が過ぎた。	
(5) 壊れた建物の□□を進める。		(12) 百の家を□□と数える。	
(6) 長い□□を経た道具を使う。		(13) 一年ごとに□□開く。	
(7) 一月一日の朝を□□という。		(14) 池の鳥を□□と数える。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「百年」と「九回」の読み方に合うものを選びなさい。

始まりから百年が過ぎた祭りは、今回が九回目だ。

ア　百年間、毎年欠かさず開いた。
イ　百年と九回は同じ長さを表す。
ウ　経過した時間と、開催した回数を別々に示している。
エ　九回目なので始まりは九年前である。

（2）この「午前」と「正午」に合うものを選びなさい。

午前九時から準備し、正午に幕を開ける。

ア　準備開始から三時間後に開演する。
イ　準備も開演も同じ時刻である。
ウ　午前は必ず日の出の瞬間を指す。
エ　正午は午前九時の別名である。

（3）この「才」の読み分けに合うものを選びなさい。

写真には「九才の手伝い」とあり、隣の文は人形を動かす才能をほめていた。

ア　才はどちらも重さを表す。
イ　年齢なら才能はないという意味だ。
ウ　才能が九つあることを二度述べた。
エ　前は年齢、後ろは生まれつきの力に関わる。

（4）この「尺」と「厘」の読み方に合うものを選びなさい。

板の幅は一尺、割合の差は一厘と記した。

ア　どちらも物を数えた個数である。
イ　前は長さ、後ろは割合の小さな差を表す。
ウ　一尺は必ず一厘より人数が多い。
エ　厘はどの文でも長さだけを表す。

（5）「再開」を使い、いったん止めたことをまた始める場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「先代」を使い、代を受け継ぐ関係が分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 係が会場を**ジュンカイ**して確かめた。	
(2) 港の入口にある**トウダイ**を地図で探した。	
(3) 今月の一つ前の**センゲツ**に訪ねた。	
(4) 昼の十二時を表す**ショウゴ**に集合する。	
(5) 昔の友人と駅で**サイカイ**した。	
(6) 喜んで両手を上げ、「**バンザイ**」と叫んだ。	
(7) 朝と夕方を表す**タンセキ**という語を調べた。	
(8) 人形を動かす**サイノウ**を伸ばしたい。	
(9) 紙を**シカク**に切って札を作る。	
(10) 代金の**ヒャクエン**を払った。	
(11) 古い写真に、わらで編んだ**コメダワラ**が写っていた。	
(12) 昔の長さの単位の**イッシャク**を調べる。	
(13) 庭に犬が**イッピキ**いる。	
(14) 資料で、昔の長さの単位の**イチリン**を調べた。	
(15) 古い札に一番を改まった数字で**イチバン**と記す。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 弐番	(17) 九月	(18) 毎週	(19) 匹敵	(20) 歳末

この回を終えたら もう一度確かめる

年数、回数、個数は、何を数えた数でしょうか。
数字の前後の言葉と単位まで確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

百年と九回の祭り

机の上で、アヒルがこちらを見ていた。私が「百回目の祭り」と案内に書くと、人形師のおじいさんは、その首を横へ振った。「九回目だよ。」アヒルに訂正されたようで、私は鉛筆を止めた。

町の人形祭りの案内を作っている。台帳の最初は一九二六年、今年は二〇二六年。百年たったのだから百回だろうと、私は「毎年続く」という言葉まで添えていた。

先代の記録を開くと、第二回は一九三〇年。第一回から四年後だった。舞台が壊れ、再建を待った時期もある。始まりから過ぎた歳月と、開いた回数は同じではない。私は年表の横に台帳を置き、案内の「毎年」を消した。

台帳に残る記録の一部

年	回の表記
一九二六年	第壱回
一九三〇年	第弐回
二〇二六年	第九回

壱と弐は、一と二の改まった書き方だ。古い切符の「弐枚」も二枚。写真の裏には「九才の手伝い」とあり、若いおじいさんが写っていた。「才能を九つ持っていたわけじゃないよ。」写真では真面目な顔なのに、今のおじいさんは笑っている。

米俵を運ぶ荷車の台数を数える人や、一匹の犬も見えた。人形をしまう箱には、幅一尺という古い長さが残る。細かな修理には一厘の違いも気になるという。何の単位なのか、数字の前後まで読む必要があった。箱のふたには、写真の犬に似た絵が描いてあった。

今年の元旦も、午前九時から三十分間、おじいさんはアヒルを動かしたそうだ。祭りを開かない年にも、点検は毎年続けた。私は、開催のない年を真っ白にした自分の年表を見た。

舞台に出ない時間にも、人形を守る仕事があったのだ。

案内は「百年の間に、九回の祭りを開いてきました」へ直した。空白の年には、分かっている修理や点検の記録だけを添える。全ての年の事情が判明したわけではない。帰る前に来年の開催日を聞くと、それは未定だった。

では、今年会えるこのアヒルを紹介しよう。「今年も一緒に、この一羽を動かしてみませんか。」書き終えると、おじいさんがアヒルの首を動かした。今度は、うなずいたように見えた。

町・人物・祭り・記録は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

年数と回数、開催のない年の記録を分けて答えなさい。

（1）本文から、祭りの年や回の表記を書き留めた帳面を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）異常などがないかを一つずつ確かめる「テンケン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）台帳の表から分かることを選びなさい。

ア　第一回と第二回の間には四年ある。
イ　毎年欠かさず開いている。
ウ　弐は九を表す。
エ　第一回は二〇二六年である。

（4）開催のない年について、本文に合うものを選びなさい。

ア　全ての年に舞台を再建した。
イ　何の仕事も行われなかった。
ウ　全ての年の事情が判明した。
エ　点検など、開催以外の仕事が続いていた。

（5）「私」が年表の空白を見直した理由を、点検の話と結び、
45〜55 字で書きなさい。

（6）祭りの案内を、「百年」「九回」を使って 70〜90 字で書きなさい。
数の意味と、開催のない年の仕事も伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第一回　年代と単位を読む

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　何を何度行ったかを表す。年月の長さとは別の数である。
（2）エ　代を受け継ぐ関係で、一代前の人を指す。祖先全体を指す語ではない。
（3）ア　建て直すこと。元の材料をどこまで使うかは、この語だけでは決まらない。
（4）ウ　年月や、流れていく時間。行事を行った回数とは分けて確かめる。
（5）ア　弐は二を表す。字形が違っても数は変わらない。壱は一を表す。
（6）エ　元旦は一月一日の朝をいう。年の初めの一日を指す使い方もある。

四　熟語を広げよう

（1）回数　（2）台数　（3）先頭　（4）午前　（5）再建
（6）歳月　（7）元旦　（8）弐枚　（9）九回　（10）分間
（11）四年　（12）百戸　（13）毎年　（14）一羽
（3）先頭は列などのいちばん前。先代は一代前の役目を担った人。元旦は一月一日の朝。壱・弐は一・二の改まった表記で、数は変わらない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　何年たったかと何度開いたかは別。毎年開催したかは、記録で確かめる。
（2）ア　この文では午前九時と昼の十二時。時間帯を表す語と一点の時刻を区別する。
（3）エ　同じ字でも語の中で表す意味が異なる。年齢は一般に歳とも書く。
（4）イ　厘には長さ・重さ・貨幣・割合などの用法がある。単位は文脈とともに読む。

五　自分で書く問題

（5）解答例

雨がやんだので中庭での練習を再開し、昨日決めた動きを確かめた。

☆自分で確かめる点　何を止め、再び始めたかが分かるか。

（6）解答例

今の店主は先代が残した道具を手入れし、同じ看板で店を続けている。

☆自分で確かめる点　単に年上の人ではなく、一代前の役目を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）巡回　（2）灯台　（3）先月　（4）正午　（5）再会
（6）万歳　（7）旦夕　（8）才能　（9）四角　（10）百円
（11）米俵　（12）一尺　（13）一匹　（14）一厘　（15）壱番
（16）にばん　（17）くがつ　（18）まいしゅう　（19）ひってき　（20）さいまつ
（7）旦夕は朝夕。（12）（14）は、長さを表す昔の単位。（14）の厘は、どの単位を基にするかで大きさが違う。（15）は「壱番」と書く。（19）匹敵は比べて劣らないほどつり合うこと。

七　文章の中で考えよう

（1）台帳　祭りの年と回の表記が記録されている。私が作った案内や年表を確かめ直す手がかり。
（2）点検　人形に異常などがないか確かめること。開催のない年も毎年続けた。
（3）ア　一九三〇年から一九二六年を引くと四年。
（4）エ　点検は毎年続けた。ただし全ての年の事情は分かっていない。

七　記述問題の考え方

（5）　年表の空白を見直す理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

祭りを開かなかった年にも毎年人形の点検を続けたと知り、開催のない年が何もない時間ではないと気づいたから。

（5）別解例　50 字

開催した回数だけでは見えなかった、人形を守る毎年の点検があり、その仕事も年表で伝えたいと考えたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 開催のない年にも点検が続いたことを書いたか。
② 回数だけでは見えない仕事と年表を結んだか。
③ 全ての空白年の事情が分かったとはしていないか。

百年ずっと毎年開催したという意味ではない。開催と、その間の仕事を分けて読む。

（6）　祭りの案内 70〜90 字

（6）解答例　85 字

百年の間に九回開かれた人形祭りです。百年は始まりからの時間で、毎年開催したわけではありません。開かない年も点検を続けて守ってきたアヒルを、今年は一緒に動かしてみませんか。

（6）別解例　85 字

今回が九回目の人形祭りは、始まりから百年がたちました。舞台の再建を待つ時期もありましたが、開催のない年にも点検は続きました。長く守られた人形と出会い、動かしてみませんか。

☆（6）自分で確かめる点

①「百年」「九回」を使い、時間と回数を分けたか。
② 開催のない年にも仕事があったことを伝えたか。
③ 本文にない次回の開催日を約束していないか。

表の数字だけでなく、点検を続けた話を案内へ結ぶ。呼びかけの言い方は変えてよい。

漢字から文章へ 第五冊

第二回

国土と境界

食堂の真ん中を、県境が通る宿があります。
女王さまは、二つの県の料理を注文しました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

北	県	西	丁
方角の北	地域を分ける県	方角の西	町の区画など

阪	頂	郷	渓
坂 地名に使う	最も高い所	村里 ふるさと	山あいの谷川

いっしょに覚える漢字

界	横	際	障	陛	陥
沼	隆	坪	堤	畝	嵐

この回で読むお話

県境の宿のスープ

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
北	ホク きた	方角の北 北部・北方・北国・東北	阪	ハン さか	坂／地名に用いる 大阪・京阪・阪神
県	ケン	都道府県の一つ 県境・県内・県庁・県道	頂	チョウ いただく いただき	いちばん高い所 山頂・頂上・絶頂・頭頂
西	セイ サイ にし	方角の西 西岸・西部・西方・東西	郷	キョウ ゴウ さと	村里／ふるさと 郷土・故郷・郷里・在郷
丁	チョウ テイ	町の区画／物を数える語 丁目・丁数・包丁・丁寧	渓	ケイ たに	山あいの谷川 渓谷・渓流・雪渓・渓間

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
界	カイ	区切り／ある範囲 境界・世界・限界・業界	沼	ショウ ぬま	水がたまった所 沼地・湖沼・沼沢
横	オウ よこ よこたわる よこたえる	左右の方向／わき 横断・横幅・横道・縦横	隆	リュウ	盛ん／高くなる 隆起・隆盛・興隆・隆々
際	サイ きわ	境目／ある時 水際・国際・実際・間際	坪	ヘイ つぼ	土地や建物の面積の単位 坪数・一坪・建坪・坪庭
障	ショウ さわる	さえぎる／妨げ 障壁・障害・支障・保障	堤	テイ つつみ	水を防ぐ土手 堤防・防波堤・堤岸・築堤
陛	ヘイ	宮殿の階段／敬称に用いる 陛下・陛辞・階陛	畝	せ うね	土を盛った列／土地の単位 畝・畝間・畝立て・十畝
陥	カン おちいる おとしいれる	落ち込む／はまり込む 陥没・陥る・欠陥・陥落	嵐	ラン あらし	激しい風雨 嵐・春嵐・砂嵐・嵐山

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「県境」に合うものを選びなさい。
ア　山の最も高い所　　イ　同じ県の全ての道路
ウ　県と県の境目　　エ　世界の全ての海岸

(2)「故郷」に合うものを選びなさい。
ア　生まれ育った土地や、心のよりどころとなる土地　　イ　旅先の宿泊費
ウ　地図で最も北にある県　　エ　食堂を二つに分ける板

(3)「渓谷」に合うものを選びなさい。
ア　平らな屋上だけ　　イ　山あいの深い谷
ウ　県庁の建物全体　　エ　海の中の国境線

(4)「隆起」に合うものを選びなさい。
ア　地面が下へ落ち込むこと　　イ　川を横に渡ること
ウ　土地の面積を測ること　　エ　地面などが持ち上がって高くなること

(5)「障壁」が表すものを選びなさい。
ア　地図の北を示す矢印　　イ　夕方に吹く風だけ
ウ　進むことや交流を妨げる壁や条件　　エ　一坪の面積だけ

(6)「水際」に合うものを選びなさい。
ア　水と陸の接する所　　イ　山の最も高い所
ウ　料理を作り終えた時　　エ　地図の作成年だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　境界　西岸　隆起　山頂　北部　沼地　渓谷
京阪　堤防　県境　陥没　郷土　丁目　横断

文	解答	文	解答
(1) 地域の北側に当たる□□を歩く。		(8) 川が流れる深い□□を眺める。	
(2) 県と県の□□を地図で見る。		(9) 二つの範囲の□□を示す。	
(3) 川の西側の□□に立つ。		(10) 道を横に渡って□□する。	
(4) 住所を小阪一□□と記す。		(11) 水を防ぐ□□を点検する。	
(5) 京都と大阪の間を□□という。		(12) 地面が持ち上がる□□の跡を調べる。	
(6) 山の最も高い□□に着く。		(13) 地面が落ち込んだ□□を記録する。	
(7) 地方に受け継がれた□□の料理を作る。		(14) 水のたまる□□を避けて歩く。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「境界」と「障壁」に合うものを選びなさい。

地図には境界があるが、道をふさぐ障壁はない。

ア　境界があれば必ず通れない。
イ　線があることと、通行の妨げがあることを分けている。
ウ　二語は必ず同じ物を表す。
エ　障壁がないので地図の線は全て誤りだ。

（2）この二つの地図の読み方に合うものを選びなさい。

赤線は県の区分、黒線は店へ荷物を運ぶ道を示す。

ア　二つの線は同じ目的で引かれた。
イ　黒線だけが正しい境界である。
ウ　赤線があれば荷物を運べない。
エ　線ごとに、何を表しているかを確かめる。

（3）この「山頂」と「頂上」に合うものを選びなさい。

案内には山頂とあり、登った人は頂上に着いたと言った。

ア　この場面では同じ山の最も高い所を指し得る。
イ　どちらかの表現が必ず誤りだ。
ウ　山頂は必ず山のふもとだ。
エ　頂上には高さの意味がない。

（4）この「隆起」と「陥没」に合うものを選びなさい。

古い記録には、持ち上がった土地と、落ち込んだ土地が別々に描かれていた。

ア　原因が違えば上下の向きは読まなくてよい。
イ　どちらも必ず人が掘った穴だ。
ウ　前は隆起、後ろは陥没と表せる。
エ　隆起は落ち込む変化だけを表す。

（5）「故郷」を使い、土地と人との関わりが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「水際」を使い、水と陸の境の様子を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 雪の多い**キタグニ**から手紙が届いた。	
(2) この**ケンナイ**にある宿を調べる。	
(3) 町の**セイブ**を流れる川を地図で見る。	
(4) 道具を**テイネイ**に扱う。	
(5) 府名の**オオサカ**を漢字で書く。	
(6) 山のいちばん高い**チョウジョウ**に着いた。	
(7) 激しい風雨の**アラシ**が過ぎた。	
(8) 山あいを流れる**ケイリュウ**を眺める。	
(9) 使える時間の**ゲンカイ**を確かめた。	
(10) 棚の**ヨコハバ**を測る。	
(11) 通行に**シショウ**がないか確かめる。	
(12) 物語で、王を「**ヘイカ**」と呼んだ。	
(13) 道具に**ケッカン**がないか調べる。	
(14) 小さな庭である**ツボニワ**を眺めた。	
(15) 畑で土を細長く盛った**ウネ**を作る。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 国際	(17) 湖沼	(18) 隆盛	(19) 畝間	(20) 阪神

この回を終えたら もう一度確かめる

地図の線は、何を分け、何をつないでいるのでしょう。
線の意味を、その目的と一緒に読みましょう。

七　文章の中で考えよう

県境の宿のスープ

女王の前へ、二皿のスープが置かれた。同じ色で、同じ湯気が上がっている。地図係のミナも鍋をのぞいた。小さな王国の北の青葉県から、南の夕波県へ向かう旅の途中だ。小阪一丁目の宿では食堂の床を赤い県境が通っていた。女王は両方の県の料理を一皿ずつ頼んだのに、主人は一つの鍋から盛ったのだ。

故郷が違えば、味も違うはずではないか。尋ねると、主人の祖母は青葉県、祖父は夕波県の出身で、この鍋の作り方を二人で決めたそうだ。女王は、二皿のうちどちらを先に食べるか、しばらく迷っていた。

ミナは壁の古地図を開く。宿の北部には山頂が並び、西岸には堤がある。県の境界は昔の川筋に沿うが、川は嵐の後に流れを変えた。この国では、話し合って古い川筋を境として残したという。今の水際と赤線がずれるのは、そのためだった。

地面の隆起や陥没を示す記録もあり、渓谷の道は以前より遠回りになっていた。新しい地図には通れる道と沼地を書き足す。畑の畝を踏まずに回る道もある。一坪ほどの小さな橋を渡れば、隣の県の市場が近い。主人の靴には、乾いた土が付いていた。

別の地図の黒線は、川の両側を行き来する。「配達の道です、陛下。」パンも野菜も両県から届くという。横には郷土の料理の献立。県ごとに鍋を分ける決まりは、この宿にはない。ミナは赤線を消して一つにしようと思ったが、道路の修理を頼む県を調べるには、赤線も必要だった。

「区切りと、行き来をふさぐ障壁は同じではありません。」主人は、地図の端を重しで押さえた。ミナは二枚を並べ、赤線には県の範囲、黒線には配達の道と書く。一枚だけを正しい地図に選ぶ必要はなかった。

女王は二皿目も味わい、今度は二人が鍋を作った日の話を聞いている。ミナは食堂の赤線をまたぎ、あいた椅子を持ってきた。地図はそのまま壁へ戻す。鍋の話を聞く席は、県ごとには分かれていなかった。

王国・人物・県・地図は創作です。実在の境界制度の説明ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

この王国の二枚の地図と、宿の暮らしを結んで答えなさい。

（1）本文から、進むことなどを妨げる壁や条件を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）壊れた所を直す「シュウリ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）赤線と今の水際がずれる理由を選びなさい。

ア　県境が必ず毎日移るから。
イ　全ての地図が上下逆だから。
ウ　川筋が変わっても、古い川筋を境として残したから。
エ　主人が全ての線を消したから。

（4）二枚の地図について、本文に合うものを選びなさい。

ア　配達は同じ県の中だけで行われる。
イ　県の範囲と配達の道という、異なる内容を示す。
ウ　赤線がある所は全て通れない。
エ　スープの材料の産地だけを示す。

（5）ミナが赤線を消さず、黒線の地図と並べた理由を、
それぞれの役割に触れ、45〜55 字で書きなさい。

（6）宿を紹介する文章を、「県境」「往来」を使って 70〜90 字で書きなさい。
スープの話と、二枚の地図を結びます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第二回　国土と境界

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　県という区分の境目。実際に壁があるかは、この語だけでは決まらない。
（2）ア　ふるさと。単に今いる場所という意味とは限らない。
（3）イ　山間の谷。渓流は、そのような場所を流れる川をいう。
（4）エ　上へ持ち上がる変化。陥没は落ち込むことに着目する。
（5）ウ　物としての壁にも、言葉などの妨げにも使う。境界と同じ意味とは限らない。
（6）ア　水のほとり。この語では際が境目の意味で使われている。

四　熟語を広げよう

（1）北部　（2）県境　（3）西岸　（4）丁目　（5）京阪
（6）山頂　（7）郷土　（8）渓谷　（9）境界　（10）横断
（11）堤防　（12）隆起　（13）陥没　（14）沼地

（7）郷土は、その人の生まれ育った土地などをいう。県境は県と県の境、境界は区切りを広く表す。京阪は京都と大阪、またはその間の地域。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　何を分ける線かと、何が行き来を妨げるかは別に確かめる。
（2）エ　色だけで意味を決めず、凡例や説明を読む。目的の違う線は重ならない場合がある。
（3）ア　意味は重なる。山頂は山の頂、頂上は山以外の最も高い所などにも使う。
（4）ウ　地面がどう変わったかに着目する。語だけで変化の原因まで決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖母は故郷の川で遊んだ話をしながら、その町の古い写真を見せた。

☆自分で確かめる点　地名だけでなく、その土地との関わりを書いたか。

（6）解答例

水際には小さな石が並び、寄せては返す波で色が濃くなっていた。

☆自分で確かめる点　水と陸の接する場所の様子を表したか。

六　短文で使ってみよう

（1）北国　（2）県内　（3）西部　（4）丁寧　（5）大阪
（6）頂上　（7）嵐　（8）渓流　（9）限界　（10）横幅
（11）支障　（12）陛下　（13）欠陥　（14）坪庭　（15）畝
（16）こくさい　（17）こしょう　（18）りゅうせい　（19）うねま　（20）はんしん

（4）は丁寧、（5）は大阪、（7）は嵐。（11）支障は、差し障りや妨げ。（14）坪庭は小さな庭で、一坪ぴったりとは限らない。（15）は畑の畝。（17）湖沼は湖や沼。（20）阪神は大阪と神戸、またはその間の地域。

七　文章の中で考えよう

（1）障壁　区切りと、行き来の妨げを分けている。

（2）修理　壊れた所を直すこと。本文では、道路を直す仕事をどちらの県へ頼むか調べるために、赤線を使う。

（3）ウ　この国では話し合いで古い川筋を境として残した。

（4）イ　線の目的が違うため、重ならない部分もある。

七　記述問題の考え方

（5）　二枚の地図を並べる理由 45〜55 字

（5）解答例　49 字

赤線は修理を頼む県を調べるために必要で、黒線は県を越えた配達を示し、両方で宿の暮らしが分かるから。

（5）別解例　49 字

県の範囲を示す赤線には役割があり、配達の道の黒線と並べれば、区切りと行き来の両方を伝えられるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 赤線が県の範囲を示す役割を書いたか。
② 黒線が県を越えた配達を示す点と結んだか。
③ 一方だけが正しい線だと決めていないか。

全ての境界に障壁がないという一般論ではなく、この宿と地図について説明する。

（6）　県境の宿の紹介 70〜90 字

（6）解答例　88 字

県境が食堂を通る宿ですが、両県の人や品物の往来があります。二つの県出身の夫婦が決めたスープを、一つの鍋で作ります。県の区分と配達の道を示す二枚の地図で、暮らしも紹介しています。

（6）別解例　84 字

食堂の県境を挟んでも、出てくるスープは同じ鍋から盛られます。両県出身の夫婦が作り方を決め、人や品物の往来も続きます。県の範囲と配達の道は、別の地図で確かめられる宿です。

☆（6）自分で確かめる点

①「県境」「往来」を使ったか。
② 両県出身の二人と同じ鍋のスープに触れたか。
③ 二枚の地図の目的の違いを伝えたか。

県の違いが無意味とはしない。区分の役割と、区分だけでは見えない交流を結ぶ。

漢字から文章へ 第五冊

第三回

身分と関係

父の時計工房を継ぐのは、兄のはずでした。
ところが兄は、時計を作る席には座りません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

弟	親	母	父
年下の兄弟 弟子	父母 近しい	母 生み出すもと	父

媛	仁	僕	翁
女性に使う字	人を慈しむ	自分を指す 仕える	年を取った男性

いっしょに覚える漢字

並	孝	妊	如	匠	奴
紳	傍	寡	戚	嫡	族

この回で読むお話

時計を作らない跡継ぎ

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
弟	テイ ダイ デ おとうと	年下の兄弟／弟子 弟子・兄弟・義弟・門弟	媛	エン ひめ	美しい女性／才能ある女性 才媛・媛女・媛君
親	シン おや したしい したしむ	父母／近しい 親族・両親・親子・親密	仁	ジン ニ	人を思いやる徳 仁愛・仁義・仁政・仁術
母	ボ はは	女性の親／物事を生むもと 母系・母親・祖母・母体	僕	ボク	自分を指す語／人に仕える者 僕・下僕・公僕
父	フ ちち	男性の親 父系・父親・祖父・父母	翁	オウ おきな	年を取った男性 老翁・翁・漁翁・翁面

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
並	ヘイ なみ ならべる ならぶ ならびに	横にそろう／普通 並列・並ぶ・人並み・並行	紳	シン	身分や教養のある男性に用いる 紳士・紳士服・郷紳
孝	コウ	父母を大切にする 孝行・親孝行・不孝・孝養	傍	ボウ かたわら そば	すぐそば／中心から外 傍系・傍ら・路傍・傍観
妊	ニン ジン はらむ	子を身ごもる 妊婦・妊娠・懐妊・妊産婦	寡	カ	少ない／配偶者を失う 寡黙・多寡・寡婦
如	ジョ ニョ ごとし	同じようである 如実・突如・欠如・如来	戚	セキ	身内／親しい関係 親戚・縁戚・姻戚・外戚
匠	ショウ たくみ	技術に優れた職人 工匠・巨匠・意匠・師匠	嫡	チャク	家を正式に継ぐ系統など 嫡子・嫡男・嫡流
奴	ド	使役される人／人を低く呼ぶ語 奴隷・農奴・奴僕	族	ゾク	共通のつながりを持つ人々 家族・親族・民族・氏族

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「弟子」に合うものを選びなさい。
ア　必ず実の弟である人　　イ　同じ家に生まれた全員
ウ　財産を受け取る人だけ　　エ　師について学問や技術を学ぶ人

(2)「母系」に合うものを選びなさい。
ア　母方のつながりを基準にたどる系統　　イ　女性だけしか含まれない集団
ウ　父方だけの親戚　　エ　工房の道具を並べる順番

(3)「仁愛」に合うものを選びなさい。
ア　仕事を全て他人に任せること　　イ　年齢を比べて順位を付けること
ウ　人を慈しみ、思いやる心　　エ　自分の家の利益だけを求める心

(4)「寡黙」に合うものを選びなさい。
ア　配偶者を失った女性であること　　イ　口数が少ないこと
ウ　親戚が多いこと　　エ　職人の腕が優れていること

(5)「嫡子」の説明に合うものを選びなさい。
ア　家を継ぐ者とされた子などを指す。　　イ　年下の弟を必ず指す。
ウ　師から技術を学ぶ人なら全てそう呼ぶ。　　エ　家族の中で最も価値のある人を指す。

(6) 歴史上の「奴隷」の説明に合うものを選びなさい。
ア　自分の希望で習い事に通う人　　イ　仕事を丁寧に教える人
ウ　全ての職人の敬称　　エ　自由を奪われ、他者の所有物のように扱われた人

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　妊婦　母系　奴隷　仁愛　門弟　孝行　並列
才媛　下僕　親族　如実　老翁　父系　工匠

文	解答	文	解答
(1) 師の教えを受ける□□が集まった。		(8) 二つの項目を□□に置く。	
(2) 血縁などでつながる□□に連絡する。		(9) 子を身ごもった□□の役を演じる。	
(3) 母方のつながりを□□でたどる。		(10) 腕のよい職人である□□に学ぶ。	
(4) 父方のつながりを□□でたどる。		(11) 昔の物語で、主人に仕える□□が出てくる。	
(5) 優れた才能のある女性を□□と呼ぶ。		(12) 自由を奪われた□□の歴史を読む。	
(6) 人を慈しむ□□の心を描く。		(13) 様子をありのままに□□に示す。	
(7) 年を取った男性である□□が語る。		(14) 親を大切にする□□について話す。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「嫡子」と「弟子」に合うものを選びなさい。

兄は嫡子として家の帳簿を預かり、親族ではない弟子が時計の作り方を学ぶ。

ア　弟子には学ぶ力がない。
イ　兄が家族でなくなった。
ウ　家を継ぐ立場と、技術を学ぶ関係を分けている。
エ　嫡子は必ず時計作りの名人だ。

（2）この「僕」と「下僕」の読み分けに合うものを選びなさい。

兄は「僕が帳簿を見る」と言う。古い物語には、主人に仕える下僕が登場する。

ア　前は自分を指し、後ろは仕える者を表す。
イ　前も後ろも必ず兄自身の身分を示す。
ウ　僕は物の数を表す。
エ　下僕は弟子の敬称である。

（3）この「並列」の受け取りに合うものを選びなさい。

記録では、帳簿の仕事と、時計作りの仕事を並列に置いた。

ア　二つの仕事は中身も完全に同じだ。
イ　一方の仕事を消した。
ウ　家族の人数を二倍にした。
エ　二つを並べて示したが、仕事内容まで同じとは限らない。

（4）この「孝行」の読み取りに合うものを選びなさい。

母を助けたい弟に、母は「私の望みも聞いて」と言った。

ア　親の希望は聞かなくてよい。
イ　大切にする方法は、相手の望みも確かめて考える。
ウ　親を助けるなら、職業は必ず同じにする。
エ　孝行は金銭を渡すことだけを表す。

（5）「弟子」を使い、何を誰から学ぶかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「傍ら」を使い、人や物のすぐそばの様子を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 二人は年の離れた**キョウダイ**だ。	
(2) 父と母をまとめて**リョウシン**と呼ぶ。	
(3) **ハハオヤ**から手紙が届いた。	
(4) 友人の**チチオヤ**と話した。	
(5) 県名の**エヒメ**を地図で探す。	
(6) 家の写真を見ながら**シンセキ**の話を聞く。	
(7) 公のために働く人を表す**コウボク**という語を学ぶ。	
(8) 年を取った男性への呼び名の**オキナ**を漢字一字で書く。	
(9) 二つの作業を**ヘイコウ**して進める。	
(10) 親を悲しませたことを**フコウ**だと悔やんだ。	
(11) 日記には、**ニンシン**中の母を家族が支えたとある。	
(12) 優れた芸術家である**キョショウ**の作品を見る。	
(13) 礼儀正しい男性を**シンシ**と呼ぶ。	
(14) 口数が少なく**カモク**な人だ。	
(15) 歴史の本で、家を継ぐ**チャクシ**という語を調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 傍系	(17) 家族	(18) 欠如	(19) 仁義	(20) 嫡男

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ家に関わる人でも、結び付き方や仕事はさまざまです。
どんな関係を示す言葉なのか、行動とともに確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

時計を作らない跡継ぎ

兄が座ったのは、父の作業机ではなく、客の話を聞く椅子だった。「僕が作れば、もっと壊しそうだ。」弟のユウへそう言い、帳簿を開く。昔のある国の時計工房だ。職人の父が亡くなり、家の記録では、兄が跡継ぎの嫡子になっている。

父の席には、誰が座るのだろう。

寡婦となった母の傍らで、リナが歯車を直していた。父の弟子として長く学んだ工匠で、親族ではない。町では才媛と評判だった。ユウは、その手元を見た。家族でない人に父の席を渡すのが、少し寂しかった。

父方の親戚は、父系の名を残すことが大切だという。母は細い針を磨き、「これは私の母に教わったのよ」と話した。母系の技も時計の中に残る。妊婦の客が待つ間、兄は修理の仕上がる日を相談した。机の下へ落ちた歯車を、ユウが拾った。

紳士の客が、リナを「この家の下僕か」と呼んだ。兄は、父の技を学んだ職人だと答えた。この国には、自由を奪われ売り買いされた奴隷の歴史がある。仕える者という呼び方だけでは、誰が何をしているかが見えなくなる。リナは、仕事を終えてから自分の名を告げた。

ユウは祖父へ、父への孝行なら、自分が時計を作るべきかと尋ねた。町で老翁と呼ばれる祖父は、父の手紙を出した。

「ユウには、ユウの好きなものを作ってほしい。」

仁愛に富む職人だったと人は父をほめる。その短い言葉は、ユウにはもっと近く感じられた。兄は家を受け継ぐ仕事と時計を作る仕事を、紙へ並列に書いた。母の針作り、リナの歯車の修理も記す。三人の仕事が、今の工房を如実に示していた。

夕方、ユウは木の鳥を作って机へ置いた。リナが首を動かす仕掛けを尋ねる。兄は値段を付けるならと笑った。時計の針の動きとは違うが、鳥の首もちゃんと動いた。

父の席にはリナが座っている。ユウは隣へ小さな椅子を運んだ。低いので、座布団も借りた。

国・人物・工房は創作です。身分語は歴史的な文脈で扱っています。

七　文章の中で考えよう 問い

家を継ぐ立場と、それぞれが担う仕事を分けて答えなさい。

（1）本文から、金銭の出入りや取引などを書き留める帳面を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）どうすればよいか話し合う「ソウダン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）兄が実際に担っている仕事を選びなさい。

ア　父の全ての技を一人で完成させる。
イ　工房の帳簿を見て、客と相談する。
ウ　全ての修理を断る。
エ　母系の技術を全て消す。

（4）母の話から分かることを選びなさい。

ア　父方だけから技術が伝わった。
イ　母は時計作りに関わっていない。
ウ　リナは必ず母の実の娘だ。
エ　母方から伝わった針作りの技術も時計に生きている。

（5）ユウが木の鳥を作る結末を、最初の寂しさと父の手紙を結び、
45〜55 字で説明しなさい。

（6）工房を紹介する文を、「継ぐ」「仕事」を使って 70〜90 字で書きなさい。
兄・母・リナの役割の違いを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第三回　身分と関係

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　年下の兄弟を表す弟とは、語全体で意味が異なる。血縁があるかは別のこと。
（2）ア　どちら側のつながりをたどるかを表す。母系に男性がいないという意味ではない。
（3）ウ　人を思いやること。具体的にどう表れるかは、場面とともに読む。
（4）イ　寡は少ないという意味でも使う。口数から、考えがないとは決めない。
（5）ア　歴史的な家の継承などに関わる語。人の能力や価値の順位を表す語ではない。
（6）エ　自由を奪う制度に関わる語。学びや、自由な意思による仕事と同じに扱わない。

四　熟語を広げよう

（1）門弟　（2）親族　（3）母系　（4）父系　（5）才媛
（6）仁愛　（7）老翁　（8）並列　（9）妊婦　（10）工匠
（11）下僕　（12）奴隷　（13）如実　（14）孝行

（1）門弟は、師について学ぶ弟子。（11）下僕と（12）奴隷は、使う時代や関係を確かめる。「族」は第二冊第十二回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　誰が何を受け継ぐかを具体的に読む。同じ人が二つの関係を持つ場合もある。
（2）ア　同じ字の意味を、その語と文脈から確かめる。一人称の僕だけで身分は決まらない。
（3）エ　並べる関係と、内容の同一性を分ける。違う役割を並べて示すこともできる。
（4）イ　親を大切にすること。具体的な方法を一つに決めず、相手とのやり取りも考える。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖父の弟子になった人が、古い時計の歯車を直す技術を学んでいる。

☆自分で確かめる点　年下の兄弟ではなく、師から学ぶ関係を示したか。

（6）解答例

作業机の傍らに椅子を置き、母が書類を読む間、弟は道具を磨いた。

☆自分で確かめる点　どこのすぐそばか、そこで何が起きたかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）兄弟　（2）両親　（3）母親　（4）父親　（5）愛媛
（6）親戚　（7）公僕　（8）翁　（9）並行　（10）不孝
（11）妊娠　（12）巨匠　（13）紳士　（14）寡黙　（15）嫡子
（16）ぼうけい　（17）かぞく　（18）けつじょ　（19）じんぎ　（20）ちゃくなん

（5）は愛媛、（8）は翁。（7）公僕は、公衆に奉仕する者の意で、公務員を指す。（9）並行は、ここでは二つの作業を同時に進めること。（16）傍系は直系から分かれた系統。（20）嫡男は、正妻から生まれた男子、特に長男や跡継ぎを指す歴史的な語。家系上の位置と人の価値を同じにしない。

七　文章の中で考えよう

（1）帳簿　金銭の出入りや取引などの記録。兄が家の仕事として見ている。
（2）相談　どうするか話し合うこと。兄は客と、修理が仕上がる日を相談した。
（3）イ　帳簿と客との相談を担っている。
（4）エ　母は自分の母から針作りを教わったと語る。

七　記述問題の考え方

（5）　ユウが木の鳥を作る結末 45〜55 字

（5）解答例　51 字

初めは父の席をリナに渡すのが寂しかったが、好きなものを作ってほしいという手紙を受け、自分の鳥を作った。

（5）別解例　50 字

父の席に家族でない人が座る寂しさから、父の手紙を通じて、自分も好きなものを作って工房に関わり始めた。

☆（5）自分で確かめる点

① 初めの寂しさが何に向いていたかを書いたか。
② 父の手紙と、自分の鳥を作る行動を結んだか。
③ 寂しさが全て消えたと断定していないか。

自分が時計作りを継ぐことだけが孝行だ、という結末にはしない。

（6）　工房の紹介 70〜90 字

（6）解答例　87 字

家を継ぐ兄は帳簿と客との相談を担い、母は母方から学んだ針を作ります。父の弟子だったリナは歯車を直します。看板の名だけでは分からない、異なる仕事をする人々に支えられた工房です。

（6）別解例　85 字

父の工房を継ぐ兄が、時計も全て作るわけではありません。兄は帳簿と注文の相談、母は針作り、リナは歯車の修理という仕事を担います。家族かどうかだけでは見えない役割があります。

☆（6）自分で確かめる点

①「継ぐ」「仕事」を使ったか。
② 兄・母・リナの役割を区別したか。
③ 嫡子や血縁だけで、技術や人の価値を決めていないか。

家の継承と技術の継承は重なることもあるが、この工房では役割が分かれている。

漢字から文章へ 第五冊

第四回

感覚と身体の働き

退院した父を、笑顔で描くつもりでした。
でも父は、背中を向けて座りました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

健	背	症	肪
すこやか 丈夫	背中 反対を向く	病気のしるし	体にあるあぶら
疾	痢	瞳	瘍
病気 速い	下痢に関わる字	目のひとみ	できもの ただれ

いっしょに覚える漢字

浴	毒	項	渋	剤	臭
陰	痴	潜	睡	裾	癖

この回で読むお話

背中を向けた肖像画

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
健	ケン すこやか	丈夫／すこやか 健康・健全・健診・保健	疾	シツ	病気／速い 疾病・疾患・疾走
背	ハイ せ せい そむく そむける	背中／反対を向く 背部・背中・背景・背骨	痢	リ	下痢に関わる字 下痢・痢疾・赤痢
症	ショウ	病気のしるしや状態 症状・軽症・重症・炎症	瞳	ドウ ひとみ	目のひとみ 瞳・瞳孔・双瞳
肪	ボウ	体内のあぶら 脂肪・脂肪分・体脂肪・脂肪酸	瘍	ヨウ	できもの／ただれ 腫瘍・潰瘍・膿瘍

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
浴	ヨク あびる あびせる	水などを身に受ける 入浴・浴室・日光浴・海水浴	陰	イン かげ かげる	光の当たらない所／表に出ない 陰性・日陰・陰影・陰湿
毒	ドク	体を害するもの 中毒・毒性・消毒・解毒	痴	チ	おろか／思い迷う 愚痴・音痴・痴情
項	コウ うなじ	一つのまとまり／首の後ろ 項部・項目・事項・別項	潜	セン ひそむ もぐる	水中へ入る／表に現れない 潜水・潜伏・潜在・潜入
渋	ジュウ しぶ しぶい しぶる	なめらかでない／ためらう 渋味・渋滞・難渋・渋る	睡	スイ	眠る 睡眠・熟睡・睡魔・午睡
剤	ザイ	調合した薬など 薬剤・洗剤・製剤	裾	すそ	衣服などの下端 裾・裾野・裾上げ・裾回り
臭	シュウ くさい におう	におい／悪いにおい 臭気・悪臭・無臭・消臭	癖	ヘキ くせ	繰り返し現れる傾向 口癖・習癖・癖毛・悪癖

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「症状」に合うものを選びなさい。
ア　病気やけがなどに伴って現れる心身の状態　　イ　病院の建物の名前だけ
ウ　必ず確定した病名だけ　　エ　生まれつきの性格だけ

(2)「脂肪」に合うものを選びなさい。
ア　目のまわりの毛だけ　　イ　服の下の縁
ウ　睡眠の回数　　エ　体に含まれるあぶらなど

(3)「瞳孔」がある所を選びなさい。
ア　首の後ろ　　イ　目の中心
ウ　衣服の下端　　エ　舌の表面

(4)「腫瘍」の説明に合うものを選びなさい。
ア　全て同じ一種類の病気である。　　イ　必ず体の外から見える。
ウ　細胞が異常に増えてでき、良性や悪性などがある。　　エ　においを消す道具である。

(5)「潜在」に合うものを選びなさい。
ア　全てがはっきり表に出ていること　　イ　必ず海の底で暮らすこと
ウ　眠らずに一日過ごすこと　　エ　表には現れず、内に存在すること

(6)「口癖」に合うものを選びなさい。
ア　曲がった髪の毛だけ　　イ　話すときに繰り返し使う言葉や言い方
ウ　口に入れる薬全て　　エ　口に関わる病名の総称

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　入浴　症状　項目　下痢　健康　睡眠　腫瘍
疾病　臭気　背部　渋滞　瞳孔　脂肪　洗剤

文	解答	文	解答
(1) すこやかな体の□□について学ぶ。		(8) 良性も悪性もある□□という語を学ぶ。	
(2) 背中の部分を□□という。		(9) 風呂に入る□□の時間を楽しむ。	
(3) 痛みなどの□□を言葉で伝える。		(10) 食器を洗う□□を使う。	
(4) 体にある□□の働きを学ぶ。		(11) においを表す□□という語を読む。	
(5) 病気を表す□□という語を調べる。		(12) 書類の□□を一つずつ読む。	
(6) 腹を下す□□という語を読む。		(13) 車が詰まる□□を避ける。	
(7) 目の中心の□□を図で示す。		(14) 夜は十分な□□を取り、朝早く目覚めた。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「症状」と「疾病」に合うものを選びなさい。

記録には下痢の症状があると書かれているが、疾病の名はまだ記されていない。

ア　病名がないので症状も存在しない。
イ　症状と病名は必ず同じ言葉である。
ウ　体の状態は書かれているが、病名までは示されていない。
エ　一つの症状だけで病名を決めてよい。

（2）この「臭気」と「無臭」に合うものを選びなさい。

においは感じられなかったが、無臭だから安全だとは説明されていない。

ア　においがないことと安全性の確認を分けている。
イ　無臭なら全て食べられる。
ウ　臭気は色の濃さだけを指す。
エ　においのない物は全て同じ材料だ。

（3）この「陰」の使い方に合うものを選びなさい。

庭の日陰で本を読む。絵には木の陰影がある。

ア　どちらも性格が暗い人を指す。
イ　日陰には必ず病気がある。
ウ　どちらも水中へ潜ることを表す。
エ　光の当たり方に関わる意味で使われている。

（4）この「愚痴」と「症状」に合うものを選びなさい。

父は「退屈だな」と愚痴を言った。それだけを新しい症状として記録しなかった。

ア　不満を口にしたので病名が確定した。
イ　不満の言葉と、体の状態の記録を同じ扱いにしていない。
ウ　愚痴は全て事実と違う。
エ　話した人の気持ちは必ず一つに決まる。

（5）「日陰」を使い、光の当たり方が分かる場面を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

（6）「口癖」を使い、繰り返す言い方が分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 心身がすこやかな**ケンゼン**な成長を願う。	
(2) 父は庭へ**セナカ**を向けて座った。	
(3) 症状が軽いことを**ケイショウ**という。	
(4) 食品に含まれる**シボウブン**を資料で調べた。	
(5) 馬が草原を**シッソウ**する場面を読む。	
(6) 明るい光が猫の**ヒトミ**に映った。	
(7) 道具の**ショウドク**について説明を読んだ。	
(8) 説明書の注意**ジコウ**を確かめる。	
(9) 皮をむいた**シブガキ**を干した。	
(10) 資料に書かれた**ヤクザイ**の名前を読む。	
(11) においがないことを**ムシュウ**という。	
(12) 思うように進まず、少し**グチ**をこぼした。	
(13) 海の中へ入る**センスイ**の映像を見る。	
(14) 山のふもとへ広がる**スソノ**を眺める。	
(15) 眠気を表す**スイマ**という語を調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 重症	(17) 音痴	(18) 陰影	(19) 熟睡	(20) 癖毛

この回を終えたら もう一度確かめる

体の状態を表す言葉と、その人が伝えたいことは同じでしょうか。
分かることを確かめつつ、本人の言葉にも耳を傾けましょう。

七　文章の中で考えよう

背中を向けた肖像画

結衣が用意した絵の題は、「健康になったお父さん」だった。腫瘍の治療で入院していた父が帰ってきたので、退院の記念に肖像画を描こうと思ったのだ。美術部で使う画板を出し、父の座る椅子を庭へ運んだ。

父は、結衣へ背中を向けて座った。

瞳に光を入れ、元気そうに笑ってもらうつもりだったのに。父はシャツの裾を整え、「今日は、この木を見ていたい。この背中から描いてくれる」と頼んだ。新しい葉が風で裏返る。結衣は鉛筆を持ったまま、木と父の肩を見比べた。

入院中のノートは借りていた。下痢などの症状、睡眠、入浴という項目が並ぶ。薬剤の名や、消毒の臭いが苦手だった日も記されている。疾病の説明や脂肪と筋肉の働きも本で調べた。これを読めば、父の一日が分かると思っていた。

ところが、別のページには「窓の日陰に、小鳥が来た」とだけあった。体の記録の間に、小さな出来事が潜んでいる。父は、あの日はずっと鳥を待っていたと言った。数字や病名を増やしても、その待つ時間までは表せそうになかった。

結衣は顔をのぞき、暗く見えるのは気持ちが晴れないからかと尋ねた。父は逆光のせいだと答えた。「退屈だな、と愚痴も書いたよ。でも、全部が同じ気持ちの一日ではなかった。」木の枝には、今は鳥がいない。父は枝の先を見ている。

母が持ってきた茶は、少し渋い。父は口癖の「いいねえ」を言い、今日はこの味が好きだと付け足した。結衣は、明るい笑顔だけを帰ってきた父の姿にしようとしていた。今、何を見たいかは、まだ聞いていなかった。

絵には、木へ向いた肩と葉の光を描いた。体のことを知るのも、本人に話を聞くのも大切だった。題は「今日、この木を見る父」へ。見せると、父は次に結衣が庭を見るところを描きたいと言った。画板を返す前に、結衣は父の椅子の隣へしゃがんでみた。

人物・病気の経過・記録は創作です。個人の診断や治療の方法を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

体の記録と、父が語った一日の過ごし方を結んで答えなさい。

（1）本文から、病院での入院生活を終えて出ることを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）光が見る人の正面から差してくる「ギャッコウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）父が庭へ向いた理由として、本文で語ったことを選びなさい。

ア　必ず病気が治ったと証明するため。
イ　絵を描かせないため。
ウ　その日は木を見ていたかったため。
エ　結衣を怒っていると伝えるため。

（4）結衣が父に尋ねて分かったことを選びなさい。

ア　顔が暗く見えたのは逆光のせいだった。
イ　暗く見える顔は必ず悲しみを表す。
ウ　ノートには体の記録しかなかった。
エ　父の気持ちは一日中同じだった。

（5）結衣が絵の題を変えた理由を、最初の描き方と父の希望を結び、
45〜55 字で書きなさい。

（6）父のノートを紹介する文を、「記録」「一日」を使って 70〜90 字で書きなさい。
体の情報と、鳥を待つ話の両方に触れます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第四回　感覚と身体の働き

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　痛みなど、体や心に現れる状態をいう。症状を述べることと病名を決めることは別。
（2）エ　体にあるあぶらに関わる語。字だけで、ある人の健康状態を決めない。
（3）イ　ひとみを表す語。瞳の読みは音がドウ、訓がひとみ。
（4）ウ　腫瘍という語だけで、全てが悪性とはいえない。個人の状態を判断する問題ではない。
（5）エ　潜には、表面に現れない意味もある。潜水の水中へ入る意味とは語全体で読む。
（6）イ　言葉の習慣に関わる語。繰り返すことだけで病気と決めない。

四　熟語を広げよう

（1）健康　（2）背部　（3）症状　（4）脂肪　（5）疾病
（6）下痢　（7）瞳孔　（8）腫瘍　（9）入浴　（10）洗剤
（11）臭気　（12）項目　（13）渋滞　（14）睡眠

症状は現れる状態、疾病は病気そのものを表す語。
腫瘍という語だけでは、良性か悪性かなど個々の状態は決まらない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　何が記録され、何が未確認かを分ける。病名を推定させる問題ではない。
（2）ア　無臭はにおいがないこと。安全性など別の性質まで、この語だけで決めない。
（3）エ　陰には光の当たらない所などの意味がある。文脈にない医学的な意味へ飛ばない。
（4）イ　愚痴は不満などをこぼす言葉。何を症状として扱うかと、機械的に同一視しない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

日陰に置いた椅子から庭を見ると、向こうの葉だけが明るく光っていた。

☆自分で確かめる点　光の当たる所と当たらない所の様子が分かるか。

（6）解答例

祖父の口癖は「まず見てみよう」で、知らない物に出会うたびに言う。

☆自分で確かめる点　実際の言い方や、それを使う場面を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）健全　（2）背中　（3）軽症　（4）脂肪分　（5）疾走
（6）瞳　（7）消毒　（8）事項　（9）渋柿　（10）薬剤
（11）無臭　（12）愚痴　（13）潜水　（14）裾野　（15）睡魔
（16）じゅうしょう　（17）おんち　（18）いんえい　（19）じゅくすい　（20）くせげ

（3）軽症は症状が軽いこと。重さを表す語だけで病気の原因は決めない。（5）疾走は速く走ること。（8）は事項。（12）は愚痴。（14）裾野は山のふもとへ広がる緩やかな所など。（15）睡魔は眠気を擬人化した言い方。（20）は「くせげ」。

七　文章の中で考えよう

（1）退院　入院していた病院を出ること。退院したことだけから、病気が完治したと読み足さない。
（2）逆光　見る人の正面から来る光。本文では父が、顔の暗く見える理由を逆光だと説明した。
（3）ウ　木を見たいと父自身が語っている。
（4）ア　顔の見え方だけで内心を決めなかった。

七　記述問題の考え方

（5）　肖像画の題を変える理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

元気な笑顔だけで父を表そうとしたが、今日は木を見たいという本人の希望を聞き、その姿を描こうとしたから。

（5）別解例　50 字

健康になった父を笑顔で描くつもりだったが、木を見たいという父の希望に耳を傾け、今日の姿を選んだから。

☆（5）自分で確かめる点

① 最初は元気な笑顔を描こうとしていた点を書いたか。
② 木を見たいという父の希望と結んだか。
③ 顔の見え方から悲しみなどを決めつけていないか。

健康を知ることを否定する問題ではない。病気や笑顔だけで父の全体を表そうとしない。

（6）　父のノートの紹介 70〜90 字

（6）解答例　87 字

父のノートには症状や睡眠、薬剤などの記録があります。一方で、小鳥が来たことも書かれ、父は鳥を待った時間を語りました。体の情報だけでは見えない、一日の過ごし方も残されています。

（6）別解例　87 字

体の症状や睡眠を記録したノートですが、窓に来た小鳥のことも書かれています。父がずっと鳥を待っていたという話を重ねると、病名や数字だけでは表せない、その一日の姿が見えてきます。

☆（6）自分で確かめる点

①「記録」「一日」を使ったか。
② 症状などの情報と、鳥を待つ出来事を分けて示したか。
③ 調べることと本人の話を聞くことを、どちらも生かしたか。

ノートから病名や回復の程度を新たに決めるのではなく、何が書かれ何を父が語ったかを読む。

漢字から文章へ 第五冊

第五回

喜怒と葛藤

祖父をしのぶ怪談会で、客席から笑い声がしました。
こわい話を読んだ私は、戸惑います。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

態	恒	忍	悼
身構え 様子	いつも一定	こらえる 身を隠す	人の死を悲しむ

恣	憶	惧	慄
勝手気まま	心にとどめる	恐れる 心配する	恐れて震える

いっしょに覚える漢字

独	浅	康	狂	朴	娯
歓	寛	爽	傲	羨	遜

この回で読むお話

怪談のあとの笑い声

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
態	タイ	身構え／様子 態度・状態・態勢・事態	恣	シ	勝手気ままにする 恣意・恣意的・放恣
恒	コウ	いつも一定している 恒常・恒例・恒久・恒温	憶	オク	心にとどめる／思い出す 記憶・追憶・憶測・記憶力
忍	ニン しのぶ しのばせる	こらえる／人目を避ける 忍耐・忍ぶ・残忍・忍者	惧	グ ク おそれる	心配し恐れる 危惧・疑惧・畏惧・懸惧
悼	トウ いたむ	人の死を悲しむ 追悼・哀悼・悼む・悼辞	慄	リツ おののく ふるえる	恐ろしくて震える 戦慄・震慄・慄然・慄く

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
独	ドク ひとり	一人／他と異なる 孤独・独立・独自・単独	歓	カン	喜ぶ 歓喜・歓迎・歓声・歓談
浅	セン あさい	深さが少ない／考えが十分でない 浅慮・浅い・浅学・深浅	寛	カン くつろぐ	心が広い／ゆるやか 寛容・寛大・寛ぐ
康	コウ	すこやか／安らか 健康・安康・小康	爽	ソウ さわやか	すっきりして気持ちよい 爽快・爽やか・清爽・颯爽
狂	キョウ くるう	くるう／激しく夢中になる 狂喜・熱狂・狂言	傲	ゴウ おごる あなどる	おごり高ぶる 傲慢・傲岸・傲然・傲語
朴	ボク	飾りけがない 素朴・純朴・朴訥	羨	セン うらやむ うらやましい	他人をうらやむ 羨望・羨む・羨ましい・羨慕
娯	ゴ	心を楽しませる 娯楽・娯楽費	遜	ソン	へりくだる／ゆずる 謙遜・不遜・遜色

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「恒例」に合うものを選びなさい。
ア　いつも同じ声量で話すこと　　イ　以前の話を忘れること
ウ　異なる人を一人と数えること　　エ　毎年など、決まって行う習わし

(2)「忍耐」に合うものを選びなさい。
ア　苦しさやつらさをこらえて持ちこたえること　　イ　人の失敗を笑うこと
ウ　自分の能力を誇ること　　エ　理由なく結論を決めること

(3)「追悼」に合うものを選びなさい。
ア　過去の全てを正しいとすること　　イ　生きている人の成績を比べること
ウ　亡くなった人をしのび、悲しむこと　　エ　昔の記録を全て消すこと

(4)「恣意的」に合うものを選びなさい。
ア　全員と相談して条件をそろえた。　　イ　客観的な根拠によらず、自分の思いだけで決めた。
ウ　資料と合わない案を修正した。　　エ　相手の希望を尋ねた。

(5)「危惧」に合うものを選びなさい。
ア　悪いことが起きるのではと心配すること　　イ　昔のことを必ず正確に思い出すこと
ウ　喜びを抑えられずはしゃぐこと　　エ　相手をうらやむことだけ

(6)「羨望」に合うものを選びなさい。
ア　自分の成果を控えめに言うこと　　イ　いつも一定であること
ウ　亡くなった人をしのぶこと　　エ　他人の境遇や能力をうらやましく思うこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　孤独　忍耐　狂喜　記憶　態度　娯楽　戦慄
恣意　安康　恒常　素朴　危惧　追悼　浅慮

文	解答	文	解答
(1) 人に向き合う □□を見直す。		(8) 恐ろしさに □□した。	
(2) いつも一定の □□的な状態だ。		(9) 一人で寂しい □□を感じる。	
(3) つらさをこらえる □□が必要だった。		(10) 見通しの甘い □□を反省する。	
(4) 亡くなった人への □□の会を開く。		(11) 人の□□を 願って祈る。	
(5) 根拠を示さず □□的に決めた。		(12) 我を忘れるほど □□した。	
(6) 昔の出来事の □□を語る。		(13) 飾りけのない □□な語り口だ。	
(7) 悪い結果になるかと □□を抱く。		(14) 心を楽しませる □□として読む。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「歓喜」と「狂喜」に合うものを選びなさい。

待ちわびた知らせに歓喜し、我を忘れるほど喜ぶ様子を狂喜とも表した。

ア　どちらかが必ず誤りだ。
イ　同じ喜びを、強さや様子に着目して表している。
ウ　歓喜は人前、狂喜は一人のときに限る。
エ　二つは必ず反対の気持ちだ。

（2）この「危惧」と「戦慄」に合うものを選びなさい。

会が失敗しないか危惧し、怪談のある場面には戦慄した。

ア　どちらも同じ出来事が実際に起きた証拠だ。
イ　危惧は喜び、戦慄は自信だけを表す。
ウ　感情が変わると、前の心配は全てうそになる。
エ　会への心配と、怖い場面での強い恐れを分けている。

（3）この「謙遜」の読み取りに合うものを選びなさい。

「私は話すのが得意ではない」と言う人を、周囲は謙遜だと思ったが、本人は本当に困っていた。

ア　控えめな言い方だけで、本人の困り方まで決められない。
イ　謙遜に見えたら、助けを求める言葉も無視してよい。
ウ　控えめな言葉は全てうそだ。
エ　話すのが苦手な人は、話を聞くこともできない。

（4）この「寛容」に合うものを選びなさい。

苦手な話を無理に聞かせず、どこまでなら参加したいかを尋ねた。

ア　全員が同じ話を好きになるまで待つ。
イ　相手の希望は聞かず、こちらの案に従わせる。
ウ　自分と違う感じ方も認め、参加の仕方を相談している。
エ　違う感じ方があるので、会話を全てやめる。

（5）「羨望」を使い、何をうらやんだかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「爽快」を使い、すっきりした感じが伝わる場面を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 道具が使える**ジョウタイ**か確かめる。	
(2) 毎年の**コウレイ**となっている会を開く。	
(3) 物語に、姿を隠す**ニンジャ**が登場する。	
(4) 亡くなった人へ**アイトウ**の意を表す。	
(5) 勝手気ままな**ホウシ**な振る舞いを戒めた。	
(6) 昔の出来事を思い返す**ツイオク**の文章を読む。	
(7) 自分の力で仕事を始め、**ドクリツ**した。	
(8) この川は岸の近くが**アサイ**。	
(9) 一時、落ち着いている様子を**ショウコウ**と表した。	
(10) 観客は演奏に**ネッキョウ**した。	
(11) 飾り気がなく**ジュンボク**な人柄だ。	
(12) 遠くから来た客を**カンゲイ**した。	
(13) 人の失敗に**カンダイ**な態度で接した。	
(14) 人を見下す**ゴウマン**な言い方を改めた。	
(15) 自分の成果を控えめに言い、**ケンソン**した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 恒温	(17) 忍ぶ	(18) 不遜	(19) 歓談	(20) 朴訥

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ場面で笑う人、黙る人は、同じ気持ちでしょうか。
言葉、出来事、その人が語った理由を結んで読みましょう。

七　文章の中で考えよう

怪談のあとの笑い声

　白い影の正体が大根だと分かったところで、祖母が笑った。私は次の行を読みかけ、顔を上げた。町の恒例の怪談会。昨年亡くなった祖父の追悼の会でもある。祖父を悼む場で笑うなんて、と一瞬思った。「私も一緒に運んだ大根なのよ。」祖母は、二人で夜道を帰った記憶がよみがえったと話した。

　祖父は素朴な語り口で、「うまくはないよ」と謙遜するのが常だった。それでも客は身を乗り出し、終われば歓声が上がる。私は羨望を覚え、今日は全員を戦慄させるつもりだった。怖がらせれば成功だと恣意的に目標を決め、低い声を練習した。最後まで聞いてもらえないのではという危惧もあった。

　けれど、最初に聞いた笑いは、怖がる声ではなかった。

　当日、親友の康太は怪談が苦手だと話した。娯楽なのだから忍耐して聞けば、と答えかけたが、祖父ならそんな傲慢な態度を取っただろうか。相談し、明るい廊下から聞き、途中で外へ出てもよいことにした。廊下では、会場で使わない傘が何本も干されていた。

　読み終えて尋ねると、怖さが消えて爽快だったという人も、続きが怖くて笑ったという人もいた。康太は少しだけ聞き、まだ苦手だと言う。寛容とは全員を同じ気持ちにすることではなさそうだ。黙っていた人が楽しんでいないとも、決められなかった。

　祖母は会の後、祖父が病気から戻ったときは狂喜したが、また一緒に話せるとは限らなかった、と語った。安康を願った気持ちと失った寂しさが重なる。笑い声だけを集めれば、その孤独は見えなくなる。人数で成功を測ろうとしたのは浅慮だった。

　ノートには聞いた人の言葉を残した。皆の思いが分かったつもりにはならずに。康太は、次は大根の立場から話を作りたいと言った。何を怖がる大根なのだろう。私は祖母に、あの夜、何本の大根を運んだのか尋ねた。祖母は両腕を広げ、数より先に大きさを教えてくれた。

人物・怪談・会の出来事は、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

笑い声や沈黙だけでなく、本人が語ったことも根拠に答えなさい。

（1）本文から、幽霊などが出てくる恐ろしい話を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）目指している到達点を表す「モクヒョウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）祖母が笑った理由として、本人が語ったことを選びなさい。

ア　祖父の話が下手だと伝えたかった。
イ　祖父の死を忘れようと決めた。
ウ　康太を最後まで会場に戻したかった。
エ　一緒に大根を運んだ夜を思い出した。

（4）会の後の康太について、本文に合うものを選びなさい。

ア　怖い話への苦手意識が完全に消えた。
イ　大根の立場の話を作りたいと言った。
ウ　全ての客が笑ったと証明した。
エ　祖母の気持ちを一つにまとめた。

（5）「私」が笑った人数でなく、聞いた人の言葉を残した理由を、
笑いの理由の違いに触れ、45〜55 字で書きなさい。

（6）この会を紹介する文を、「追悼」「笑い」を使って 70〜90 字で書きなさい。
祖母の記憶と寂しさを、両方伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第五回　喜怒と葛藤

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　繰り返し行う習わし。参加者が毎回同じ気持ちになるという意味ではない。
（2）ア　こらえること。何をどこまで耐えるかは、場面や条件とともに考える。
（3）ウ　亡くなった人を思うこと。どう過ごすか、何を感じるかを一つには決めない。
（4）イ　ここでは自分勝手な判断という意味。自分の考えを持つこと全般を否定する語ではない。
（5）ア　悪い成り行きを心配すること。心配があることと、実際に起きたことは分ける。
（6）エ　何をうらやんでいるかを前後から読む。その人の全てを嫌う意味とは限らない。

四　熟語を広げよう

（1）態度　（2）恒常　（3）忍耐　（4）追悼　（5）恣意
（6）記憶　（7）危惧　（8）戦慄　（9）孤独　（10）浅慮
（11）安康　（12）狂喜　（13）素朴　（14）娯楽

危惧は悪い成り行きを心配すること。戦慄は恐ろしさで震えること。
感情の強さや向かう対象は、その文脈で確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　意味は重なる。どの喜びが何倍強いという固定の尺度ではない。
（2）エ　何へ向いた気持ちかを確かめる。同じ人が複数の感情を持つこともある。
（3）ア　受け手の解釈と、本人が語る状態を分ける。控えめな言葉の意味を一律に決めない。
（4）ウ　違いを受け止める例。何でも同意することや、一方だけが無理をすることと同一にしない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

人前でも落ち着いて話せる友人に羨望を覚え、練習の仕方を尋ねた。

☆自分で確かめる点　相手の何に向く気持ちかを示したか。

（6）解答例

雨上がりの道を歩くと、涼しい風が頬に当たり、爽快な気分になった。

☆自分で確かめる点　どんな場面で、どうすっきり感じたかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）状態　（2）恒例　（3）忍者　（4）哀悼　（5）放恣
（6）追憶　（7）独立　（8）浅い　（9）小康　（10）熱狂
（11）純朴　（12）歓迎　（13）寛大　（14）傲慢　（15）謙遜
（16）こうおん　（17）しのぶ　（18）ふそん　（19）かんだん　（20）ぼくとつ

（4）は哀悼。（5）放恣は勝手気ままなこと。「放肆」も可。（6）追憶は過去を思い出すこと。（8）は送り仮名も書く。（9）小康は、ひとまず落ち着いていること。（15）は謙遜。（20）朴訥は、飾り気がなく口数の少ない様子。

七　文章の中で考えよう

（1）怪談　幽霊などが出てくる恐ろしい話。本文では、祖父の語っていた話を会で読んでいる。
（2）目標　目指す到達点。私は初め、全員を怖がらせることを成功の目標にしていた。
（3）エ　祖母自身が記憶のよみがえりを語った。
（4）イ　まだ苦手だという言葉と、新しい話を作る希望の両方がある。

七　記述問題の考え方

（5）　人数より言葉を残す理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

同じ笑いでも、怖さが消えた人やまだ怖い人、祖父との記憶を思い出した人がおり、人数だけでは違いが消えるから。

（5）別解例　52 字

笑った理由は怖さの変化や祖父との思い出など一つではなく、人数でまとめるより本人の言葉で違いを残せるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 同じ笑いにも異なる理由があったと示したか。
② 具体的な理由を二つ以上と、言葉を残す判断を結んだか。
③ 黙る人の気持ちを勝手に確定していないか。

本文には本人の発言がある。その発言を根拠にし、笑った全員に同じ理由を当てはめない。

（6）　怪談会の紹介 70〜90 字

（6）解答例　86 字

祖父を追悼する怪談会で、笑いも生まれました。祖母には、一緒に大根を運んだ夜の記憶がよみがえりましたが、失った寂しさも残ります。笑顔だけでは伝えきれない思いが重なる会でした。

（6）別解例　88 字

追悼の怪談会には笑い声があり、祖母は祖父と大根を運んだ思い出を語りました。同時に、また話せない寂しさも抱えていました。笑いが悲しみを消したと、一つの気持ちにはまとめられません。

☆（6）自分で確かめる点

①「追悼」「笑い」を使ったか。
② 大根を運んだ記憶と、祖父を失った寂しさを示したか。
③ 笑いで悲しみが全て消えたとはしていないか。

祖母の思いを全員に広げない。追悼の過ごし方や感じ方を一つに決めない。

漢字から文章へ 第五冊

第六回

記述と応答

王さまの知らせには、町じゅうから印が返りました。
でも王女は、返事がまだ足りないと言います。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

鳴	符	啓	響
音を出す	しるし 記号	教え導く 申し上げる	音や影響が広がる

諮	詔	嘲	諦
意見を求める	君主が告げる言葉	あざ笑う	明らかに見る 諦める

いっしょに覚える漢字

印	周	章	誕	臨	吹
斉	抄	譲	嗣	踪	述

この回で読むお話

丸印の向こうの返事

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
鳴	メイ なく なる ならす	音を出す 鳴動・鳴る・共鳴・悲鳴	諮	シ はかる	意見を求める 諮問・諮る・諮問機関
符	フ	しるし／割り当てた記号 符号・切符・音符・符合	詔	ショウ みことのり	天皇など君主が告げる言葉 詔書・詔勅・大詔
啓	ケイ ひらく もうす	教え導く／申し上げる 拝啓・啓発・啓示・啓上	嘲	チョウ あざける	あざ笑う 嘲笑・自嘲・嘲る・嘲弄
響	キョウ ひびく	音や影響が広がる 反響・音響・影響・響く	諦	テイ あきらめる	明らかに見る／望みを断つ 諦観・諦める・諦念・真諦

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
印	イン しるし	しるし／押した形 印章・印刷・目印・調印	斉	セイ サイ そろう ひとしい	そろう／ひとしくする 一斉・斉唱・均斉・斉一
周	シュウ まわり	まわり／行き渡る 周知・周囲・一周・周到	抄	ショウ	一部を抜き出す 抄録・抄本・抄訳・抄出
章	ショウ	文章の区切り／しるし 章句・文章・勲章・章題	譲	ジョウ ゆずる	相手へ渡す／控える 譲位・譲歩・譲渡・分譲
誕	タン	生まれる／大げさな言葉 誕生・生誕・誕生日・虚誕	嗣	シ つぐ	あとを継ぐ 後嗣・継嗣・嗣子
臨	リン のぞむ	その場に向かう／面する 臨時・臨席・臨海・君臨	踪	ソウ	足あと／行方 失踪・踪跡
吹	スイ ふく	息や風を出す 吹聴・吹奏・風吹・吹雪	述	ジュツ のべる	言葉で表す 記述・述語・詳述・陳述

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「符号」に合うものを選びなさい。
ア　同じ気持ちである証拠だけ　　イ　意味や関係を示すために定めたしるし
ウ　必ず音を出す機械　　エ　文章の長さを測る物差し

(2)「拝啓」に合うものを選びなさい。
ア　手紙の相手が賛成したこと　　イ　全員へ命令するときの合図
ウ　返事の締切を示す数字　　エ　手紙の初めに、相手を敬って用いる言葉

(3)「諮問」に合うものを選びなさい。
ア　専門家や機関などに意見を求めること　　イ　決めた答えだけを知らせること
ウ　文書を短く写すこと　　エ　同じ音を繰り返すこと

(4)「詔書」に合うものを選びなさい。
ア　誰でも使う買物の帳簿　　イ　音楽の拍子を示す紙
ウ　天皇などの命令や意思を記した公文書　　エ　町人同士の全ての手紙

(5) ここでの「嘲笑」に合うものを選びなさい。
ア　楽しい思い出を二人で笑うこと　　イ　考えを聞いてうなずくこと
ウ　手紙を大声で読むこと　　エ　相手を見下してあざ笑うこと

(6)「抄録」に合うものを選びなさい。
ア　元の文書を全て捨てること　　イ　文章の要点や一部を抜き出してまとめたもの
ウ　伝言を受け取った印だけ　　エ　身分を受け継ぐ者だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　印章　拝啓　臨時　詔書　鳴動　周到　諦観
諮問　誕生　符号　吹聴　嘲笑　反響　章句

文	解答	文	解答
(1) 大きく響き揺れる □□を描く。		(8) 物事を見極める □□について考える。	
(2) 意味を決めた □□で伝える。		(9) 文書に押した □□を確かめる。	
(3) 手紙の初めに □□と書く。		(10) 文章中の □□を引用する。	
(4) 記事を読んだ人の □□を集める。		(11) 新しい仕組みの □□を祝う。	
(5) 専門家へ意見を求め □□する。		(12) 必要に応じて □□の窓口を開く。	
(6) 君主の意思を記した □□を読む。		(13) 同じ話を広く □□する。	
(7) 相手を見下す □□をやめる。		(14) すみずみまで気を配り、 □□な準備をする。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「周知」と「同意」に合うものを選びなさい。

予定は広く周知されたが、皆が同意したかはまだ確かめていない。

ア　知らされた人は必ず賛成している。
イ　同意がないと予定の内容は読めない。
ウ　知っていることと、賛成していることを分けている。
エ　周知は反対することだけを表す。

（2）この「符号」の読み取りに合うものを選びなさい。

丸印は「受け取りました」を表すと決めてあり、賛否を書く欄は別にある。

ア　丸印だけで賛成とは判断できない。
イ　丸印なら賛否欄を必ず賛成に直す。
ウ　印があれば全ての意見も分かる。
エ　丸印にはどんな場面でも同じ意味しかない。

（3）この「反響」に合うものを選びなさい。

記事への反響には、賛成の手紙と、質問の手紙があった。

ア　反響があれば質問は一通もない。
イ　反響は必ず称賛だけを指す。
ウ　二つの手紙は必ず同じ考えだ。
エ　反響には、異なる反応や意見も含まれる。

（4）この「諦める」に合うものを選びなさい。

一通で全部伝わると思うのは諦めたが、手紙を書くことは続けた。

ア　全ての連絡をやめた。
イ　一度で済むという望みは断ったが、伝える行動は続けた。
ウ　最初の手紙を読んだ人は全員反対した。
エ　諦めると、別の方法は考えられない。

（5）「周知」を使い、何を誰へ知らせたかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「譲る」を使い、何を誰へ渡したかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字を目安にします。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 物語の人物が驚いて**ヒメイ**を上げた。	
(2) 駅で列車の**キップ**を買う。	
(3) 考える手がかりを与える**ケイハツ**の本を読んだ。	
(4) 劇場の**オンキョウ**を確かめる。	
(5) 専門家へ意見を求め、案を**ハカル**。	
(6) 歴史の資料で、君主の命令を表す**ショウチョク**という語を調べる。	
(7) 自分をあざ笑う言い方を**ジチョウ**という。	
(8) 一度で全てを伝える望みは**アキラメル**ことにした。	
(9) 地図に待ち合わせの**メジルシ**を付けた。	
(10) 原文の一部を選んで訳した**ショウヤク**を読む。	
(11) 観察したことを言葉で**キジュツ**する。	
(12) 窓の外は、雪が風に舞う**フブキ**だった。	
(13) 皆が同じ旋律を歌う**セイショウ**をする。	
(14) あとを継ぐ子を表す**シシ**という語を調べる。	
(15) 足あとや行方を表す**ソウセキ**という語を調べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 響く	(17) 印刷	(18) 臨席	(19) 譲歩	(20) 生誕

この回を終えたら もう一度確かめる

届いた印があれば、どこまで分かったといえるでしょう。
知らせの内容と、受け取った人の返事を分けて読みましょう。

七　文章の中で考えよう

丸印の向こうの返事

丸印の紙が机いっぱいに並んだ。全ての町から返ってきたので、国王は音楽係へ大きな鐘を鳴らす準備を命じた。皆が会を喜んでいる、と言う。後嗣の王女は一枚を取り、裏も見た。「賛成の言葉は、どこにありますか。」

王の仕事を譲る日を祝い、国王は新しい時代の誕生のため町へ詔書を出した。書記のエナは長い章句を抄録し、掲示にした。「広場で一斉に歌う会を開きたい。意見を聞かせてほしい」とある。

宮殿は周知を各町の係に頼んだ。係は文書を受け取ると、届いたことだけを示す符号として丸印を付け、宮殿へ返す約束だった。町人の意見までは記されていない。それなのにエナも、印章のある立派な紙を見て、返事が完成したように感じていた。

誰が、何に答えた印なのか。

臨時の窓口には、拝啓で始まる手紙が届いた。仕事中で広場へ行けない人、歌を知らない人、笛を吹いて参加したい人がいる。王女は音楽係にも諮問した。国が鳴動するような大きな音だけが、よい祝い方ではないという意見も出た。

一人の役人が、返すのが遅いと町人を嘲笑した。だが掲示には、意見をどこへ送るか書かれていない。使者が失踪したというううわさまで吹聴されていたが、使者は全員戻っていた。エナは掲示の端を折って返送先を探した。どこにもなかった。

届いた日、質問、提案を別々に記述する。反響には、歌の会を楽しみにする声もある。全て不満だったと直すのも違う。王女は、場所や時間、歌以外の参加の仕方を相談し直すよう頼んだ。

エナは返送先を書き、丸印の隣に意見の欄を作った。一通で全て伝わると思うのは諦めても、手紙を書く仕事はやめない。インクを乾かす間、次は何が返るだろうと新しい欄を見ていた。

町の子から届いた紙には、「王女さまは、どんな歌が好きですか」とあった。王女は少し考え、まずその質問への返事を書いた。エナは、さっきまで空いていた欄に、今度は自分の聞きたいことを一つ書き足した。

国・人物・文書と仕組みは創作です。実在の制度や手続の説明ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

丸印の約束と、あとから届いた言葉の違いを根拠に答えなさい。

（1）本文から、文章の要点などを抜き出してまとめる語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）受け取った物を送り返す「ヘンソウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）丸印がそろった時点で分かることを選びなさい。

ア　全ての町が歌の会に賛成した。
イ　全ての町の係に文書が届いた。
ウ　全員が広場へ来られる。
エ　全員が同じ歌を知っている。

（4）掲示の不足として、本文にあるものを選びなさい。

ア　王女が後嗣であることを隠した。
イ　全ての町の名を取り違えた。
ウ　意見をどこへ送るかが書かれていなかった。
エ　丸印を付けることが禁止されていた。

（5）王女が丸印だけで会の準備を進めなかった理由を、
印の意味と町人の言葉を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）エナが案内を直した考え方を、「受け取り」「意見」を使って
70〜90 字で説明しなさい。丸印と、追加した欄の役割を示します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第六回　記述と応答

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　何を表すと決めた印かを確かめる。同じ形でも、約束が違えば意味は変わる。
（2）エ　相手への敬意を表す書き出し。手紙の内容への同意を表す言葉ではない。
（3）ア　意見を尋ねること。意見の内容や採用の結果までは、この語だけでは決まらない。
（4）ウ　君主の意思などを示す文書。物語では、架空の国王が出した知らせとして用いている。
（5）エ　笑うこと全般ではない。誰へ向けた、どんな笑いかを読む。
（6）イ　元の文章から選びまとめることや、その文。必要な条件を変えていないかも確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）鳴動　（2）符号　（3）拝啓　（4）反響　（5）諮問
（6）詔書　（7）嘲笑　（8）諦観　（9）印章　（10）章句
（11）誕生　（12）臨時　（13）吹聴　（14）周到
（14）周到は、すみずみまで気を配り手落ちのないこと。諮問は意見を求めること。諦観には物事を見極める意味と、諦め悟る意味があり、文脈で確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　情報が届くことと、その内容への判断は別。同意の有無は返事などで確かめる。
（2）ア　この約束で印が伝える範囲を守る。形から別の意味を勝手に足さない。
（3）エ　音の跳ね返りのほか、働きかけへの反応や評判を表す。好意的とは限らない。
（4）イ　何を諦めたかを限定して読む。対象の一部から、全てをやめたと広げない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

集会の開始時刻が変わったことを、掲示と手紙で参加者へ周知した。

☆自分で確かめる点　知らせた内容と相手を具体的に示したか。

（6）解答例

話したいことがあると友人が言ったので、私は発表の順番を譲った。

☆自分で確かめる点　物、順番など、譲った対象と相手が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）悲鳴　（2）切符　（3）啓発　（4）音響　（5）諮る
（6）詔勅　（7）自嘲　（8）諦める　（9）目印　（10）抄訳
（11）記述　（12）吹雪　（13）斉唱　（14）嗣子　（15）踪跡
（16）ひびく　（17）いんさつ　（18）りんせき　（19）じょうほ　（20）せいたん
（5）は送り仮名も含め「諮る」。（7）は自嘲、（8）は諦める。（10）抄訳は一部を選んで訳すことや、その訳。（13）斉唱は同じ旋律を一緒に歌うこと。（14）は嗣子、（15）は踪跡。「述」は第一冊第十回からの再会字。

七　文章の中で考えよう

（1）抄録　長い章句から町の掲示へまとめている。
（2）返送　受け取った物を送り返すこと。最初の掲示には意見を返す先がなく、エナは新しい案内に返送先を加えた。
（3）イ　丸は受け取りの印で、賛成の印ではない。

（4）ウ　返送先がなく、意見が届くための案内が不足していた。

七　記述問題の考え方

（5）　丸印だけで準備を進めない理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

丸印は届いたことだけを示し、賛成とは限らず、来られない人や歌を知らない人などの希望も確かめる必要があるから。

（5）別解例　52 字

丸印では受け取ったことしか分からず、町人には時間や参加方法の希望もあるので、意見を聞いて相談し直すため。

☆（5）自分で確かめる点

① 丸印が受け取りだけを示すと書いたか。
② 時間や参加方法の希望などと、意見を聞く必要を結んだか。
③ 全員が反対したという結論にしていないか。
あとで分かった意見を、印がそろった時点で確認済みだったことにはしない。

（6）　案内を直す考え方 70〜90 字

（6）解答例　86 字

丸印による受け取りの確認と、内容への意見を分けて扱うことにしました。届いた印だけで賛成と決めず、返送先と意見の欄を加え、時間や参加方法を町の人と相談できる案内に直しました。

（6）別解例　84 字

受け取りの丸印だけでは、会への意見は分かりません。そこで、届いたかを確かめる仕組みは残し、返送先と意見を書く欄を加えました。町の人が質問や提案を返せるようにしたのです。

☆（6）自分で確かめる点

①「受け取り」「意見」を使い、二つを区別したか。
② 丸印は残し、返送先と意見の欄を加えたと示したか。
③ 一度で伝わらないので連絡をやめた、とはしていないか。
同じ方法への賛成だけを集める案内ではない。質問や異なる参加の希望も受け取る。

漢字から文章へ 第五冊

第七回

抽象と判断

「あなたの言葉に答える巨人」の遊びを作りました。
最初の客の問いに、巨人は答えられません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

簡	覧	伺	尋
手軽 込み入らない	広く見る	尋ねる 様子を見る	問い聞く 探す

欺	顧	詣	擬
だます	振り返る 心にかける	寺社へ参る	似せる 仮に置く

いっしょに覚える漢字

曲	欠	挙	然	及	含
屈	那	尚	衝	剖	遵

この回で読むお話

巨人が答えられない問い

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
簡	カン	手軽／込み入らない／手紙 簡潔・簡単・簡略・書簡	欺	ギ あざむく	うそを用いてだます 詐欺・欺く・欺瞞・欺罔
覧	ラン	広く見る 閲覧・一覧・観覧・展覧	顧	コ かえりみる	振り返る／心にかける 顧慮・回顧・顧客・一顧
伺	シ うかがう	尋ねる／様子を見る 伺う・伺い・伺候	詣	ケイ もうでる	寺社へ参る／深い域に至る 参詣・初詣・造詣・詣でる
尋	ジン たずねる ひろ	問い聞く／探し求める 尋問・尋ねる・尋常・千尋	擬	ギ なぞらえる	似せる／仮に置く 模擬・擬音・擬似・擬人法

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
曲	キョク まがる まげる	まがる／正しくない形へ変える 曲解・曲線・楽曲・委曲	屈	クツ かがむ かがめる	折れ曲がる／従う 屈服・屈折・理屈・不屈
欠	ケツ かける かく	一部が足りない 欠如・欠点・欠席・不可欠	那	ナ	どれ／音を表す字にも用いる 刹那・旦那・那辺
挙	キョ あげる あがる	持ち上げる／取り上げる 列挙・挙手・選挙・検挙	尚	ショウ なお	重んじる／さらに 高尚・尚武・尚早・時期尚早
然	ゼン ネン しか しかり	そのとおり／そのような状態 当然・自然・偶然・然る	衝	ショウ つく	突き当たる／大切な地点 衝突・衝撃・要衝・折衝
及	キュウ およぶ および およぼす	届く／そこまで至る 波及・及第・言及・普及	剖	ボウ	切り分けて明らかにする 解剖・剖検・剖析・縦剖
含	ガン ふくむ ふくめる	中に入れる／意味をもたせる 含意・包含・含有・含蓄	遵	ジュン	決まりや道筋に従う 遵守・遵法・遵行・遵奉

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「簡潔」に合うものを選びなさい。
ア　必要なことを残し、短くすっきりしている。　　イ　文字数が少なければ、必ず条件も伝わる。
ウ　難しい語だけで書いている。　　エ　全ての説明を省いている。

(2) ここでの「伺う」に合うものを選びなさい。
ア　物を遠くへ投げる。　　イ　音をまねて書く。
ウ　過去の出来事を忘れる。　　エ　尋ねる相手に敬意を表して聞く。

(3)「参詣」に合うものを選びなさい。
ア　資料を一覧にすること　　イ　寺や神社にお参りすること
ウ　相手を問い詰めることだけ　　エ　物の中身を細かく分けること

(4)「模擬」に合うものを選びなさい。
ア　全て本物でなければいけないこと　　イ　相手に負けて従うこと
ウ　本物や本番になぞらえて行うこと　　エ　必ず人をだまして損をさせること

(5)「含意」に合うものを選びなさい。
ア　字の画数だけ　　イ　文にない意味を何でも足すこと
ウ　紙の裏面だけ　　エ　言葉の内に含まれている意味

(6)「尚早」に合うものを選びなさい。
ア　時間を守って始めること　　イ　判断や実行には、まだ早すぎること
ウ　必ず成功すると決まったこと　　エ　物をまっすぐに並べること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　曲解　伺う　含意　顧客　簡潔　遵法　模擬
欺く　列挙　閲覧　尚早　参詣　尋ねる　欠如

文	解答	文	解答
(1) 要点を短く □□に伝える。		(8) 本番を想定した □□の会を開く。	
(2) 資料を画面で □□する。		(9) 相手の文を □□しないよう読む。	
(3) 先生の予定を 前もって□□。		(10) 必要な条件の □□に気づく。	
(4) 分からない理由を 友人に□□□。		(11) 候補を順に □□する。	
(5) 人を□□ための 偽りは書かない。		(12) 言葉に含まれた □□を考える。	
(6) 店へ来た □□の希望を聞く。		(13) 判断するには □□だと伝える。	
(7) 寺へ □□に行く。		(14) 法律を守る □□の意識を持つ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「簡潔」と「欠如」に合うものを選びなさい。

説明を短くしたが、参加に必要な条件が欠如していないか読み直した。

ア　短い文なら条件は不要だ。
イ　短く整理することと、必要な情報を欠くことを分けている。
ウ　欠如とは情報を詳しく加えることだ。
エ　長く書けば必ず正しい。

（2）この「伺う」と「尋ねる」に合うものを選びなさい。

先生には予定を伺い、友人には待合せの場所を尋ねた。

ア　伺うは必ず家を訪問する意味だ。
イ　後ろは必ず相手を責めている。
ウ　二つの行動は何も聞かないことだ。
エ　どちらも聞く行動で、前には相手への敬意がある。

（3）この「模擬」と「欺く」に合うものを選びなさい。

模擬の店だと明示したうえで、売買のやり取りを練習した。

ア　本物でないだけで、人を欺いたとはいえない。
イ　模擬なら代金の説明は全てうそになる。
ウ　本番以外の練習はできない。
エ　店の看板があれば必ず本物だ。

（4）この「尚早」に合うものを選びなさい。

一人目の感想だけで、全員が楽しめると決めるのは尚早だ。

ア　誰の感想にも価値がない。
イ　この遊びは必ず失敗する。
ウ　結論を広げるには、まだ確かめることがある。
エ　感想は全て同じになる。

（5）「回顧」を使い、何を振り返ったかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「遵守」を使い、守る決まりを示した一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 長い説明を**カンリャク**にまとめる。	
(2) 会場で絵を**カンラン**する。	
(3) 参加できるか、先生に**ウカガイ**を立てた。	
(4) 物語で、役人が旅人を**ジンモン**する。	
(5) 人をだまして金を取る**サギ**の事件を読む。	
(6) 相手の事情を**コリョ**して予定を立てる。	
(7) 年の初めに**ハツモウデ**に出かけた。	
(8) 物の音を表す**ギオン**を文章に入れる。	
(9) 紙に滑らかな**キョクセン**を引く。	
(10) 山や川などの**シゼン**に親しむ。	
(11) 発表で次の課題にも**ゲンキュウ**した。	
(12) 困難にもくじけない**フクツ**の精神を描く。	
(13) ほんの一瞬を表す「**セツナ**」という語を調べる。	
(14) 意外な結末に**ショウゲキ**を受けた。	
(15) 物語で、時計を**カイボウ**するように仕組みを調べた。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 屈服	(17) 偶然	(18) 衝突	(19) 高尚	(20) 包含

この回を終えたら もう一度確かめる

短い案内から、どこまで期待できるでしょうか。
書いてある条件と、まだ分からないことを確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

巨人が答えられない問い

「一人で寂しくない。」

巨人が体を屈める画面を見て、一年生は突然そう言った。梓が道の問いを選ぶと、「勇者よ、右へ進め」という声がした。道ではなく寂しいか聞いたのに、と客は首をかしげる。梓の指が、選択画面の上で止まった。

文化会で遊んでもらうために作った物語だった。寺へ参詣する旅人が、巨人に道を教わる。三つの問いから一つを選ぶと、録音した声が流れる仕組みだ。問いは「道はどちら」「何を守っている」「眠らないの」。

梓は答えを一覧にし、先生にも見ていただけるか伺った。会場の使い方を遵守し、今日は模擬の体験会を開いている。

案内は、簡潔に「あなたの言葉に巨人が答えます」とした。友人に、どんな話でもできるのかと尋ねられたときも、きっと楽しめると答えた。その言葉を思い出し、梓は入口の紙を見に行った。端がめくれ、後ろの壁紙が少し見えている。

遊び方を曲解されたと思いかけた。けれど、選べる問いを列挙していない。三つに限る条件が欠如していた。客の期待を顧みず、自分の好きな声が流れればよいと考えていたのだ。友人は「仕組みを解剖してみよう」と、選ぶ画面と録音の対応を紙に分けた。

「答えます」の含意をめぐり、二人の意見は衝突した。何でも話せるように見えれば、人を欺く案内にならないか。でも、仮の世界で遊ぶことまで悪いと決めるのは尚早だ。梓自身、声を聞いた刹那には、巨人が生きているように感じていた。

案内を「三つの問いから選び、録音された巨人の声を聞く遊びです」に直した。できることは狭く見える。それでも、まず本当に遊べる範囲を伝えたい。修正は入口の説明にも波及し、友人と使い方を確かめ直した。

一年生の問いは、次の返事を作る紙へ残した。巨人が寂しいかは、まだ決めていない。梓が尋ねると、友人は、まず巨人の好きな場所を考えたいと言う。二人は画面の外へ、山の絵を足した。

人物・遊び・画面の仕組みは、本教材のための創作です。

七　文章の中で考えよう 問い

案内の言葉と、実際に選べる問いの範囲を照らして答えなさい。

（1）本文から、答えをまとめて見渡せるようにしたものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）相手と交渉して話を進める「セッショウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）最初の仕組みでできたことを選びなさい。

ア　どんな問いにも新しい声で答える。
イ　一年生の内心を全て読み取る。
ウ　三つの問いから選ぶと録音の声を流す。
エ　客が話すたびに物語を自動で変える。

（4）梓が案内を直した理由に合うものを選びなさい。

ア　選べる問いが限られる条件を書いていなかったから。
イ　仮の世界を作ることは全て欺く行為だから。
ウ　一年生が巨人を嫌いだと断言したから。
エ　巨人は全ての人を寂しくさせるから。

（5）梓が一年生だけの曲解としなかった理由を、
案内と仕組みの違いに触れ、45〜55 字で書きなさい。

（6）遊びの案内を、「三つ」「問い」を使って 70〜90 字で書きなさい。
できることと、自由な会話ではないことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第七回　抽象と判断

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　短さだけでなく、要点が明確であること。大切な条件まで消すこととは違う。
（2）エ　予定を伺う、などの使い方。訪問する意味もあり、文脈で読む。
（3）イ　詣には、お参りする意味がある。造詣のように、深い域に至る意味でも使う。
（4）ウ　仮に本番に似せて行う。模擬であること自体を、だます行為とは決めない。
（5）エ　どの言葉から読み取れる意味かを確かめる。受け手の推測全てが含意とは限らない。
（6）イ　時期が早すぎること。今は決めないことと、永久に決められないことは別。

四　熟語を広げよう

（1）簡潔　（2）閲覧　（3）伺う　（4）尋ねる　（5）欺く
（6）顧客　（7）参詣　（8）模擬　（9）曲解　（10）欠如
（11）列挙　（12）含意　（13）尚早　（14）遵法
（6）顧客は店などの客。（14）遵法は法律を守ること。模擬は本番になぞらえることで、それだけで人を欺く行為とはいえない。「伺う」「尋ねる」「欺く」は送り仮名も書く。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　何を残して短くしたかを確かめる。文字数だけで説明のよさは決まらない。
（2）エ　尋ねることと訪ねることも区別する。予定を伺う場面では、聞く意味で読む。
（3）ア　何を仮にしているかを知らせて行う練習。相手へどんな説明をしたかも確かめる。
（4）ウ　一人の感想を消すのではなく、全員へ広げる判断の範囲を確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖母は昔の旅を回顧し、道に迷ったとき助けてくれた人の話をした。
☆自分で確かめる点　振り返る対象と、その中身が具体的か。

（6）解答例

借りた本を皆が読めるように、貸出期間を遵守して図書室へ返した。
☆自分で確かめる点　何を守ったかと、その場面が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）簡略　（2）観覧　（3）伺い　（4）尋問　（5）詐欺
（6）顧慮　（7）初詣　（8）擬音　（9）曲線　（10）自然
（11）言及　（12）不屈　（13）刹那　（14）衝撃　（15）解剖
（16）くっぷく　（17）ぐうぜん　（18）しょうとつ　（19）こうしょう　（20）ほうがん
（3）は「お伺いを立てる」の伺い。（6）顧慮は相手の事情を気にかけること。（13）刹那は、ごく短い時間。（15）解剖になぞらえ、仕組みを分けて調べている。（20）包含は、中に含むこと。

七　文章の中で考えよう

（1）一覧　梓が、問いへの答えをまとめて見渡せるようにしたもの。
（2）折衝　利害などが異なる相手と交渉すること。同じ衝でも、衝突とは語全体の意味が異なる。
（3）ウ　選択した問いに対応する録音を流す仕組み。
（4）ア　受け手だけを責めず、自分の案内にない条件を確かめた。

七　記述問題の考え方

（5）　曲解だけとしない理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

案内にはどんな言葉にも答えるように書いたが、実際は三つの問いだけで、その条件を伝えていなかったから。

（5）別解例　54 字

自由に話せると思わせる案内なのに、仕組みは三つの問いに限られ、その範囲を書かなかった自分にも不足があるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 案内が期待させる内容を示したか。
② 三つに限る仕組みと、条件の不足を結んだか。
③ 一年生が悪意で誤解したと決めていないか。

案内の短さそのものではなく、必要な条件が伝わっていなかった点を読む。

（6）　巨人の遊びの案内 70〜90 字

（6）解答例　86 字

旅人が寺へ向かう物語の中で、巨人への三つの問いから一つを選ぶ遊びです。選んだ問いに合う録音の声が流れます。自由な言葉で何でも話せる仕組みではありませんが、物語を楽しめます。

（6）別解例　85 字

画面に並ぶ三つの問いから一つを選ぶと、巨人の録音された声を聞けます。自由な会話ができる仕組みではありません。寺へ向かいながら、巨人の声とともに物語の旅を楽しんでください。

☆（6）自分で確かめる点

①「三つ」「問い」を使ったか。
② 選択と録音という仕組みを示したか。
③ 制限を知らせつつ、物語で遊べることも伝えたか。

できないことだけを並べず、実際にできる遊びの内容も案内する。

漢字から文章へ 第五冊

第八回

強い行為と移動

映画では、小さな船が嵐に巻き込まれます。
でも撮影係は、船を落とさないと言い出しました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

打	使	投	乗
当てる 手を加える	用いる 人を送る	放る 入れる	乗り物に身を置く

就	沿	触	挨
役目などにつく	岸や線に従う	接する	挨拶に使う字

いっしょに覚える漢字

揮	操	抵	把	披	遇
逸	遂	撮	拶	墜	搾

この回で読むお話

船を落とさない嵐

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
打	ダ うつ	当てる／手を加える 打撃・打開・打診・打算	就	シュウ ジュ つく つける	その位置や仕事につく 就任・就職・就航・成就
使	シ つかう つかい	用いる／人を向かわせる 使節・使用・使者・大使	沿	エン そう	線や岸に従って進む 沿岸・沿線・沿道・河沿い
投	トウ なげる	放り出す／入れる 投入・投票・投書・投降	触	ショク ふれる さわる	接する／感じ取る 接触・触覚・抵触・触発
乗	ジョウ のる のせる	乗り物などに身を置く 乗船・乗客・搭乗・便乗	挨	アイ	押す／挨拶に用いる 挨拶・挨拶状・挨拶文

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
揮	キ ふるう	振り動かす／力を発する 指揮・発揮・揮毫・揮発	逸	イツ それる そらす	道筋から外れる／優れる 逸脱・逸話・逸材・散逸
操	ソウ みさお あやつる	巧みに動かす／節操 操船・操作・体操・操縦	遂	スイ とげる	最後までやり通す 遂行・完遂・未遂・成し遂げる
抵	テイ	押し返す／逆らう 抵抗・抵触・抵当・大抵	撮	サツ とる	写真や映像をとる／つまむ 撮影・撮る・一撮
把	ハ わ	手で握る／一つに捉える 把握・一把・把持・全体把握	拶	サツ	迫る／挨拶に用いる 挨拶・挨拶状・挨拶回り
披	ヒ ひらく	開いて見せる 披露・披見・披露宴・直披	墜	ツイ おちる	高い所から落ちる 墜落・撃墜・墜死・失墜
遇	グウ	出会う／扱う 遭遇・待遇・優遇・奇遇	搾	サク しぼる	押して液などを出す 圧搾・搾乳・搾油・搾取

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「打開」に合うものを選びなさい。
ア　音を強くたたくことだけ　　イ　人を代表として送ること
ウ　困った状態を切り開くこと　　エ　船から降りることだけ

(2)「使節」に合うものを選びなさい。
ア　国などを代表して派遣される人　　イ　船を数える単位
ウ　借りた物を壊した跡　　エ　液体をしぼる機械

(3)「就任」に合うものを選びなさい。
ア　物を船へ積むこと　　イ　その役職につくこと
ウ　決まった道から外れること　　エ　別の人を必ず従わせること

(4)「把握」に合うものを選びなさい。
ア　見た物を全て持ち帰ること　　イ　相手の動きを必ず止めること
ウ　液を強くしぼること　　エ　状況や内容をしっかり捉えること

(5)「逸脱」に合うものを選びなさい。
ア　本来の道筋や決まりから外れること　　イ　偶然会った人への敬称
ウ　最後までやり通すこと　　エ　優れた人だけを集めること

(6)「圧搾」に合うものを選びなさい。
ア　写真を写すこと　　イ　作品を見せること
ウ　新しい役目につくこと　　エ　圧力を加えて液体などをしぼり出すこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　指揮　投入　把握　沿岸　打開　圧搾　挨拶
就任　抵抗　使節　披露宴　接触　乗船　操船

文	解答	文	解答
(1) 行き詰まった状況の□□を目指す。		(8) 出会った人と□□を交わす。	
(2) 国を代表する□□が出発する。		(9) 全体の動きを□□する。	
(3) 作業へ時間を□□する。		(10) 船を動かす□□の練習をする。	
(4) 港で船へ□□する。		(11) 計画の変更に□□を示した。	
(5) 新しい役目へ□□する。		(12) 現状を正確に□□する。	
(6) 海岸に沿う□□の町を描く。		(13) 結婚を祝う□□□で話す。	
(7) 二つの物の□□を避ける。		(14) 押して液を出す□□の道具を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「指揮」と「操作」に合うものを選びなさい。

監督が撮影全体を指揮し、別の人が船の模型を操作した。

ア　監督だけが全ての物を動かした。
イ　全体をまとめる役と、模型を動かす役が分かれている。
ウ　操作する人は計画を知らない。
エ　指揮とは必ず船を運転することだ。

（2）この「抵抗」の読み取りに合うものを選びなさい。

模型を投げる案には抵抗したが、別の撮り方は一緒に考えた。

ア　映画作りを全て拒んだ。
イ　友人の全ての意見を嫌った。
ウ　模型を投げることには反対し、制作への協力は続けた。
エ　抵抗したので、その人の案は必ず誤りだ。

（3）この「遭遇」と「就航」に合うものを選びなさい。

新しく就航した船が、最初の旅で思いがけない嵐に遭遇した。

ア　遭遇は必ず計画して起こすことだ。
イ　就航すると船は動かなくなる。
ウ　船の出発も嵐も同じ人が命令した。
エ　航路につくことと、思いがけず出会うことを分けている。

（4）この「遂行」と「成功」に合うものを選びなさい。

任された撮影は遂行したが、作品が好評かは上映後に確かめる。

ア　任務を行い終えたことと、評価の結果を分けている。
イ　遂行したなら全員が必ず喜ぶ。
ウ　評価前なので撮影も終わっていない。
エ　遂行とは途中で全てやめることだ。

（5）「披露」を使い、何を誰に見せたかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「逸話」を使い、ある人の一面が分かる話を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 実現の可能性を相手に**ダシン**した。	
(2) 国を代表する**タイシ**の話を聞いた。	
(3) 候補者を選ぶ**トウヒョウ**に参加する。	
(4) 駅で列車の**ジョウキャク**を案内する。	
(5) 新しい会社への**シュウショク**が決まった。	
(6) 鉄道の**エンセン**にある町を調べる。	
(7) 手で物に触れ、**ショッカク**で違いを確かめる。	
(8) 転居を知らせる**アイサツジョウ**を書く。	
(9) 練習で身につけた力を**ハッキ**する。	
(10) 朝、庭で**タイソウ**をする。	
(11) 休みの日は**タイテイ**ここで本を読む。	
(12) 旅先で思いがけない出来事に**ソウグウ**した。	
(13) 家族の記念写真を**サツエイ**する。	
(14) 物語で、飛行機の**ツイラク**を描く。	
(15) 牧場で牛の**サクニュウ**を見学する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 就航	(17) 逸脱	(18) 遂行	(19) 操縦	(20) 待遇

この回を終えたら もう一度確かめる

画面の中で動くのは誰でしょう。
その動きを作る人が実際に何をしたかも、分けて確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

船を落とさない嵐

「高い所から投げて撮ろう。」圭が船の模型を持ち上げると、沙良は両手を出した。町の人から借りた物だ。傷を付けない約束で、模型の操作を任されている。船を落とす役を遂行してと言われても、引き受けられない。

紙の人形が海を渡る映画を撮影していた。物語では、船長に就任した少年が使節を乗せ、沿岸の町へ向かう。積荷は圧搾した油の缶という設定で、実際は空の小箱だ。嵐に遭遇し、予定の道から逸脱する場面を、指揮する圭は派手にしたかった。

沙良の抵抗に、圭は困った。上映の日は近く、時間も投入している。模型を棚に戻し、下からのぞくと、乗船させた人形の顔が見えた。机の端も、人形には高い崖かもしれない。窓の外では、物干しのシャツが風に膨らんでいた。

沙良が、机でなくカメラなら傾けられると言った。

模型を低い台に固定し、カメラの向きだけを変えてみる。別の係は青い布を上下させた。人形と布が接触しない位置を画面の外で確かめる。船を動かさなくても、映像では揺れて見えた。困った場面を打開する、別の方法があった。

ただ、最初の映像は、船が空から墜落したようだった。海の上の話にしたいのに。圭は全員の動きを把握しようと、一人ずつ何をしたか聞いた。布の端が空に見えていたので、背景を広げ、ゆっくり向きを変えて撮り直した。

完成作を披露すると、客は嵐の場面で息をのんだ。圭は模型を落としたからだと紹介しかけ、やめた。自分の指揮だけでなく、沙良や布を動かす人の工夫でできた場面だ。上映後の挨拶で、撮り方と担当した人の名も伝えた。

片づける前、沙良は船の人形へ小さな傘を持たせた。嵐には役に立たなさそうだが、圭はその映像も残した。船長の少年が港へ着き、初めて傘を開く。次は、そのあとを二人で考える。

映画・人物・撮影の仕掛けは創作です。実際の船の操船や撮影作業の手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

映像の出来事と、制作した人の実際の行為を分けて答えなさい。

（1）本文から、模型を動かすことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）最後までやり通すことを表す「カンスイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）撮り直したときの模型について、本文に合うものを選びなさい。

ア　高い棚から床へ投げた。
イ　低い台に固定し、カメラの向きを変えた。
ウ　実際の海に浮かべた。
エ　撮影前に壊して部品へ分けた。

（4）上映後に圭が伝えたことを選びなさい。

ア　沙良は制作に一切関わらなかった。
イ　模型が実際に嵐に遭った。
ウ　作品は圭一人だけで作った。
エ　撮り方と、場面を作った人の名前。

（5）沙良の抵抗が撮影を進めるきっかけになった理由を、
約束と代わりの撮り方を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）嵐の場面の紹介を、「映像」「模型」を使って 70〜90 字で書きなさい。
見える動きと、制作した人の行為を区別します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第八回　強い行為と移動

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　打は、手を加えて状態を変える語にも使う。何を打開するかとともに読む。
（2）ア　使には、人を向かわせる意味もある。どんな任務かは、語だけでは分からない。
（3）イ　役職につくこと。全ての就を就任と同じ意味にはせず、就航・就寝なども語全体で読む。
（4）エ　手で握る意味から、内容をつかむ意味へ広がる。把握した範囲も確かめる。
（5）ア　逸材の逸とは、着目する意味が違う。道筋から外れた理由までは、この語で決まらない。
（6）エ　押してしぼること。搾取のような、利益などを不当に取り上げる語もある。

四　熟語を広げよう

（1）打開　（2）使節　（3）投入　（4）乗船　（5）就任
（6）沿岸　（7）接触　（8）挨拶　（9）指揮　（10）操船
（11）抵抗　（12）把握　（13）披露宴　（14）圧搾

投入は物や時間などを入れること。投降は降伏すること。（13）披露宴は、結婚などを人々に知らせて祝う宴。「挨拶」は二字で一つの語として確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　だれが何をするかを読む。全体の指揮と、一つの道具の操作は重なる場合もある。
（2）ウ　反対した対象を限定する。一つの方法への抵抗を、目的全体の拒否へ広げない。
（3）エ　出来事が起きた順序だけで、全てが計画や命令の結果だとは決めない。
（4）ア　任務をやり通すこと。結果をどこまで保証する語か、範囲を確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

友人は完成した人形を皆に披露し、腕を動かす小さな仕掛けを見せた。

☆自分で確かめる点　見せた物や技と、それを見る相手を示したか。

（6）解答例

祖父が旅先で迷子の犬を家まで送った逸話を聞き、地図を見直した。

☆自分で確かめる点　その人に関する短い話の中身が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）打診　（2）大使　（3）投票　（4）乗客　（5）就職
（6）沿線　（7）触覚　（8）挨拶状　（9）発揮　（10）体操
（11）大抵　（12）遭遇　（13）撮影　（14）墜落　（15）搾乳
（16）しゅうこう　（17）いつだつ　（18）すいこう　（19）そうじゅう　（20）たいぐう

（1）打診は、相手の意向などを探ってみること。（11）大抵は、ここではたいていの場合を表す。（15）搾乳は乳をしぼること。（18）遂行は任されたことをやり通すこと。逸の訓は「それる」「そらす」など。

七　文章の中で考えよう

（1）操作　沙良が任された、模型を動かす仕事を表している。
（2）完遂　最後までやり通すこと。完遂したというだけで、全員から好評だったとはいえない。
（3）イ　船を投げず、カメラと布の動きで嵐を作った。
（4）エ　指揮だけでなく、係の人の工夫も紹介した。

七　記述問題の考え方

（5）　抵抗から撮影が進む理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

借りた模型を傷つけない約束から投げる案に反対し、固定した船とカメラや布の動きで嵐を作る方法を考えたから。

（5）別解例　50 字

沙良は撮影全体を拒まず、借りた模型を守るため投げることに抵抗し、カメラを傾ける別の方法を示したから。

☆（5）自分で確かめる点

① 借りた模型を傷つけない約束を書いたか。
② 投げる案への抵抗と、代わりの工夫を結んだか。
③ 制作全体を拒んだとはしていないか。

上映期限があることは、借りた物を壊してよい理由にはならない。

（6）　嵐の場面の紹介 70〜90 字

（6）解答例　84 字

映像では船が大波に揺れますが、模型を落としたのではありません。低い台に固定し、カメラの向きと青い布の動きを変えて撮りました。模型係や布を動かす係の工夫が生きた場面です。

（6）別解例　86 字

嵐の映像は、固定した模型、傾けるカメラ、上下する青い布を組み合わせて作りました。本当の海で船を揺らしたわけではありません。指揮する圭だけでなく、担当の人々が支えた場面です。

☆（6）自分で確かめる点

①「映像」「模型」を使ったか。
② 船は固定し、カメラと布を動かしたと示したか。
③ 指揮者一人の行為にまとめていないか。

この作品の仕掛けを説明する。全ての映画が同じ撮り方だとはしない。

漢字から文章へ 第五冊

第九回

成長・衰退・変質

祖父の好きな絵本は、終わりのページが破れていました。
約束が壊れる結末なのか、まだ分かりません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

冷	折	況	砕
冷たい 静まる	曲げる 途中で曲がる	物事のありさま	細かく壊す

繁	耗	毀	綻
盛ん 込み入る	使って減る	壊す 傷つける	ほころびる

いっしょに覚える漢字

満	無	密	蒸	更	駐
裂	准	凄	堕	貌	衰

この回で読むお話

破れたページの向こう

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
冷	レイ つめたい ひえる ひやす	温度が低い／勢いが静まる 冷却・冷静・冷淡・寒冷	繁	ハン	盛んに増える／込み入る 繁栄・繁殖・繁華・頻繁
折	セツ おる おれる おり	曲げて重ねる／途中で曲がる 折衷・折半・骨折・時折	耗	モウ コウ	すり減る／使って減る 消耗・摩耗・減耗
況	キョウ	物事のありさま 状況・近況・不況・好況	毀	キ こわす	壊す／傷つける 毀損・毀壊・毀棄
砕	サイ くだく くだける	細かく壊す 粉砕・砕石・砕く・玉砕	綻	タン ほころびる	縫い目がほどける／破れが出る 破綻・綻び・綻ぶ

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
満	マン みちる みたす	いっぱいになる 満潮・満員・満足・充満	裂	レツ さく さける	引き分かれて破れる 亀裂・分裂・破裂・裂け目
無	ム ブ ない	存在しない／打ち消す 無効・無事・無理・無数	准	ジュン	許す／そのものに次ぐ 批准・准許・准教授
密	ミツ	すき間がない／ひそか 密集・秘密・精密・過密	凄	セイ すごい すさまじい	すさまじい／程度がはなはだしい 凄惨・凄絶・物凄い・凄腕
蒸	ジョウ むす むれる むらす	熱気が上がる／蒸気で熱する 蒸発・蒸気・蒸留・蒸す	堕	ダ おちる	落ちる／悪い状態になる 堕落・堕す・堕落論
更	コウ さら ふける ふかす	新しくする／さらに 更新・変更・更地・更生	貌	ボウ	顔つき／外から見える姿 変貌・容貌・全貌・美貌
駐	チュウ	一定の場所にとどまる 駐屯・駐車・駐在・常駐	衰	スイ おとろえる	勢いや力が弱くなる 衰退・老衰・盛衰・衰弱

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「冷静」に合うものを選びなさい。
ア　水の温度が低いことだけ　　イ　物の形が崩れること
ウ　相手の希望を必ず無視すること　　エ　感情に流されず落ち着いていること

(2)「折衷」に合うものを選びなさい。
ア　二つ以上の案のよい所などを取り合わせること　　イ　物を必ず半分に折ること
ウ　全ての意見を同じ数にすること　　エ　前の決まりを全て捨てること

(3)「摩耗」に合うものを選びなさい。
ア　水が気体になること　　イ　擦れることなどですり減ること
ウ　古い計画を作り直すこと　　エ　人が狭い所へ集まること

(4) ここでの物の「毀損」に合うものを選びなさい。
ア　物を必ず細かな粉にすること　　イ　物が新しくなることだけ
ウ　物が壊れたり傷ついたりすること　　エ　計画が必ず成功すること

(5) 計画の「破綻」に合うものを選びなさい。
ア　計画が成り立たなくなること　　イ　必ず紙が破れることだけ
ウ　参加者が一人増えることだけ　　エ　一つの色が薄くなることだけ

(6)「変貌」に合うものを選びなさい。
ア　全ての性質が悪くなること　　イ　顔つきや外から見える姿が変わること
ウ　物の数を半分にすること　　エ　約束を必ず破ること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　満足　状況　亀裂　摩耗　冷静　衰退　破綻
繁栄　変更　折衷　容貌　毀損　粉砕　蒸気

文	解答	文	解答
(1) 落ち着いて □□に考える。		(8) 計画が□□し、 実行できなくなった。	
(2) 二つの案を合わせた □□案を作る。		(9) 希望がかなって □□した。	
(3) 周囲の □□を確かめる。		(10) 窓へ向かう □□を描く。	
(4) 石を細かく □□する装置を描く。		(11) 予定の内容を □□する。	
(5) 商売が盛んになり、 町は□□した。		(12) 壁の割れ目である □□を図にする。	
(6) 道具の□□が進み、 表面がすり減った。		(13) 顔つきを表す □□という語を調べる。	
(7) 物が傷つくことを表す □□という語を読む。		(14) 勢いを失う □□の時期を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「冷静」と「冷淡」に合うものを選びなさい。

困った友人の話を冷静に聞き、すぐ助ける方法を相談した。

ア　落ち着いていたので、必ず思いやりがない。
イ　冷静なら、何も行動できない。
ウ　落ち着いて聞くことと、相手へ冷たいことは同じではない。
エ　冷淡は必ず物の温度を表す。

（2）この「折衷」と「折半」に合うものを選びなさい。

二人の案を折衷し、費用は二人で折半した。

ア　前は案を取り合わせ、後ろは費用を二等分している。
イ　どちらも必ず案を一つ捨てる。
ウ　費用が全て無料になった。
エ　折衷では意見を聞いてはいけない。

（3）この「毀損」と「破綻」に合うものを選びなさい。

本は毀損していたが、読めない結末を見ずに物語の破綻とは決めなかった。

ア　本が破れたら、筋道も必ずおかしい。
イ　物が傷んだことと、物語の筋道の評価を分けている。
ウ　結末が読めなくても全内容を確定できる。
エ　破綻は本の値段だけを表す。

（4）この「衰退」と「繁栄」に合うものを選びなさい。

港の仕事は衰退したが、町の全ての仕事が同時に衰えたとは書いていない。

ア　町の全員が必ず引っ越した。
イ　仕事が減ると建物も全て消える。
ウ　繁栄は人の性格がよいという意味だけだ。
エ　何の仕事が弱まったか、その範囲を限定している。

（5）「更新」を使い、何を新しくしたかが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「変貌」を使い、見える姿が変わる場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 熱くなった装置を**レイキャク**する。	
(2) 費用を二人で**セッパン**する。	
(3) 事情を聞き、友人の**クチュウ**を察した。	
(4) 競技の様子を**ジッキョウ**する。	
(5) 必要な物がなく、**ムリ**だと伝える。	
(6) 道具で氷を**クダク**。	
(7) 仕事が多く**ハンボウ**な時期を迎える。	
(8) 長い作業で体力を**ショウモウ**した。	
(9) 空に丸い**マンゲツ**が見えた。	
(10) 二人だけの**ヒミツ**を日記に書く。	
(11) 皿の水が少しずつ**ジョウハツ**した。	
(12) 建物を取り除いた**サラチ**を見に行く。	
(13) 決められた場所に**チュウシャ**する。	
(14) 大学の**ジュンキョウジュ**に話を聞く。	
(15) 優れた技を持つ**スゴウデ**の職人が登場する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 破裂	(17) 衰弱	(18) 摩擦	(19) 駐輪場	(20) 蒸留

この回を終えたら もう一度確かめる

物が傷んだことから、何を判断できるでしょう。
変化した対象と、まだ確かめていない内容を分けましょう。

七　文章の中で考えよう

破れたページの向こう

絵本の最後で、二人が向こう岸へ手を振っていた。橋は落ちている。それなのに、なぜ笑っているのだろう。凪は、破れたページをもう一度開いた。紙の裏からは、次の文字が透けて見えそうで見えない。

祖父が好きだった『蒸気の町』だ。秘密の橋で結ばれた町の話らしい。終わりの一枚に亀裂のような破れがあり、「橋は落ち、約束は」の先が読めない。初めは、約束も破綻したと思った。

図書館の駐輪場で待ち合わせた叔母に、毀損した所を見せた。大学の准教授で、本の修復も学んでいる叔母は、紙の傷みと物語の筋道は別だと言う。表紙は摩耗し、折り目も多い。何度も開いたのだろうか。ただ、その跡だけで祖父の読み方までは分からない。

凪は、見えるページを冷静に読み直した。石を粉砕する工場で町は繁栄したが、後に仕事が減り、港が衰退する。王が堕落したせいだと怒る人物もいる。一方、橋を使わない船の道が増えたという人物もいた。同じ出来事についても、語る人の判断はそろっていない。

そして、手を振る二人の絵へ戻った。

橋が壊れても、関係まで全部なくなるとは限らない。凪は無理に空白を埋めず、同じ版の別の一冊を捜した。図書館で閲覧した本には、船で再び会いに行く場面があり、約束は新しい形で結ばれた、と続いていた。

ただ、失った仕事もあり、町の状況が全て元へ戻るわけではない。凄い成功の一言では終えられなかった。

破れた本を捨てるか、そのまま使うか。叔母は修復の担当者と相談し、読める別の本も案内しようと言った。二案を折衷できそうだ。貸出の記録を更新しても、表紙が変貌しても、祖父が手にした一冊であることは変わらない。

帰り道、凪はまだ満足していないと言った。橋がない間、二人は何を話したのだろう。密かに手紙を出したのかもしれない。「私の考えたもう一つの話」。原作とは分け、ノートに題を書いた。

絵本・人物・町の出来事は創作です。本の修復作業の手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

本の状態と、確かめた物語の内容を区別して答えなさい。

（1）本文から、傷んだ本などを直すことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）品行が悪くなることを表す「ダラク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）別の一冊で確認した結末を選びなさい。

ア　町の仕事は全て昔のまま戻った。
イ　船で会いに行き、約束が新しい形で結ばれた。
ウ　王についての言葉は全員同じだった。
エ　橋も本も最初から壊れていなかった。

（4）凪が自分の続きに題を付けた理由に合うものを選びなさい。

ア　原作の作者になったと証明するため。
イ　祖父が書いた話だと知らせるため。
ウ　読めなかった全ての字を復元したため。
エ　原作の結末と、自分の創作を分けるため。

（5）凪がすぐに約束も破綻したと決めなくなった理由を、
破れと絵の内容を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）この絵本の結末を、「橋」「約束」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
残る変化にも触れ、全てが元へ戻ったとはしません。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第九回　成長・衰退・変質

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　冷には、気持ちや勢いが静まる意味もある。冷淡と同じ意味に固定しない。
（2）ア　複数の案を取り合わせる。折半のように、必ず二等分する意味ではない。
（3）イ　摩擦によるすり減りに着目する。消耗は、使って減ることを広く表す。
（4）ウ　壊れ方や損なわれる程度には幅がある。粉砕などと一律に置き換えない。
（5）ア　物の裂け目のほか、計画や関係が成り立たなくなる意味でも使う。
（6）イ　見える姿の変化に着目する語。価値が下がったかどうかは別に考える。

四　熟語を広げよう

（1）冷静　（2）折衷　（3）状況　（4）粉砕　（5）繁栄
（6）摩耗　（7）毀損　（8）破綻　（9）満足　（10）蒸気
（11）変更　（12）亀裂　（13）容貌　（14）衰退

毀損は物などが損なわれること。破綻は計画や関係にも使う。（13）容貌は顔つきなど、外から見える姿。「衰」は第二冊第六回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　態度の落ち着きと、相手への関心を分ける。この文では相談する行動もある。
（2）ア　何をどう分け、合わせたかを読む。同じ折でも語全体の意味は異なる。
（3）イ　物の状態から内容の欠陥へ飛ばない。確かめる対象を分けて読む。
（4）エ　一つの分野の変化を町の全体へ広げない。増減の対象や時期を確かめる。

五　自分で書く問題

（5）解答例

店が移転したので、案内の地図を更新し、新しい入口の位置も加えた。

☆自分で確かめる点　新しくした対象と、変えた内容を示したか。

（6）解答例

夕方、明かりがともると、昼は静かだった通りが華やかな姿に変貌した。

☆自分で確かめる点　変化の前と後の姿が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）冷却　（2）折半　（3）苦衷　（4）実況　（5）無理
（6）砕く　（7）繁忙　（8）消耗　（9）満月　（10）秘密
（11）蒸発　（12）更地　（13）駐車　（14）准教授　（15）凄腕
（16）はれつ　（17）すいじゃく　（18）まさつ　（19）ちゅうりんじょう　（20）じょうりゅう

（3）苦衷は、苦しい心の内。（8）消耗は、使って減ることで、体力にも使う。（12）更地は建物などのない土地。（15）凄腕は、際立って優れた腕前や、その持ち主。

七　文章の中で考えよう

（1）修復　叔母が学んでいる、傷んだ本などを直すこと。想像で結末を埋めることとは分ける。
（2）堕落　品行が悪くなることなど。王をそう評価する登場人物がいるが、全員の見方が同じとはしていない。
（3）イ　船で会えるが、失われた仕事などの難しさも残る。
（4）エ　原作から確かめた内容と、凪が新しく作る話を混同しない。

七　記述問題の考え方

（5）　約束の破綻を決めない理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

紙の破れは物語の破綻とは別で、絵では橋が壊れても二人が手を振っており、関係が消えたとは限らないから。

（5）別解例　53 字

本が破れて続きは読めないが、橋の向こうで二人が手を振る絵があり、約束まで壊れたと決める根拠は足りないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 紙の状態と物語の内容を分けたか。
② 手を振る二人の絵を根拠にしたか。
③ 別の本を見る前から結末を知っていたとはしないか。

凪が判断を保留した時点と、そのあと本で確認した内容を分ける。

（6）　絵本の結末の紹介 70〜90 字

（6）解答例　86 字

橋は落ちましたが、二人は船で会いに行き、約束を新しく結びます。ただし、失った仕事もあり、町が全て元へ戻るわけではありません。変化の中で続く関係と、残る難しさのある結末です。

（6）別解例　86 字

二人を結ぶ橋が壊れても、船で行き来して約束は続きます。ただ、減った町の仕事が全て戻るわけではありません。何もかも失う結末でも、全て昔へ戻る結末でもないところに心が残ります。

☆（6）自分で確かめる点

①「橋」「約束」を使ったか。
② 船で会うことと、仕事などに残る難しさを示したか。
③ 凪が考えた手紙の話を原作の出来事にしないか。

紹介の評価や言い方は変えてよい。原作の結末と自分の想像は区別する。

漢字から文章へ 第五冊

第十回

慣習と身分

劇団の竜は、いつも悪役を演じて大人気でした。
ところが今回は、舞台の下へ行きたいそうです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

集	帰	参	支
一か所へ寄る	戻る 属する	加わる 訪れる	支える 分かれる

栄	堂	籍	庸
盛ん 名誉	大きな建物	所属の記録 書物	普通

いっしょに覚える漢字

漢	奈	寿	厄	拐	竜
掌	捉	戯	畿	褒	鎮

この回で読むお話

舞台の下へ行きたい竜

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
集	シュウ あつまる あつめる つどう	一か所へ寄る 集落・集合・収集・編集	栄	エイ さかえる はえ はえる	盛んになる／名誉 栄典・繁栄・光栄・栄養
帰	キ かえる かえす	もとの所へ戻る／属する 帰郷・帰属・復帰・帰結	堂	ドウ	大きな建物／公の場所 公会堂・本堂・食堂・堂々
参	サン まいる	加わる／訪れる 参列・参加・参照・参詣	籍	セキ	所属を記す文書／書物 在籍・学籍・戸籍・書籍
支	シ ささえる	分かれる／持ちこたえさせる 支度・支持・支給・支流	庸	ヨウ	普通／古代の税にも用いる 凡庸・中庸・租庸調・登庸

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
漢	カン	中国の王朝名／男性 漢代・漢字・漢文・好漢	掌	ショウ たなごころ	手のひら／管理する 手掌・掌握・車掌・合掌
奈	ナ	問いや音を表す字にも用いる 奈良・神奈川・奈落	捉	ソク とらえる	つかまえる／理解する 捕捉・捉える・捉え方
寿	ジュ ス ことぶき	長生き／祝い 長寿・寿命・賀寿・寿司	戯	ギ たわむれる ざれる じゃれる	ふざける／演じる 遊戯・戯曲・悪戯・戯画
厄	ヤク	災い／苦しみ 厄年・厄介・災厄・厄除け	畿	キ	都に近い地域 畿内・近畿・畿央・王畿
拐	カイ	だまして連れ去る 誘拐・拐帯・拐取	褒	ホウ ほめる	よい行いをたたえる 褒賞・褒める・褒美・褒章
竜	リュウ たつ	想像上の動物 竜・竜神・竜巻・恐竜	鎮	チン しずめる しずまる	静める／その地を守る 鎮守・鎮静・鎮座・鎮まる

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「帰属」に合うものを選びなさい。
ア　必ず故郷へ歩いて帰ること　　イ　ある団体や範囲などに属すること
ウ　全員が同じ役を演じること　　エ　紙へ物をはり付けること

(2)「在籍」に合うものを選びなさい。
ア　本を全て読み終えたこと　　イ　会場の席に座ることだけ
ウ　学校や団体などに名を置いていること　　エ　全員の仕事が同じであること

(3)「凡庸」に合うものを選びなさい。
ア　普通で、特に際立った所がないこと　　イ　人の役に立たないと決まったこと
ウ　どんなことにも必ず優れていること　　エ　国の制度を変えること

(4) 舞台の「奈落」に合うものを選びなさい。
ア　観客が必ず落ちる穴　　イ　山頂の神社だけ
ウ　役者の性格を記す紙　　エ　舞台の床の下にある場所

(5)「掌握」に合うものを選びなさい。
ア　手のひらを必ず重ねることだけ　　イ　手の内に収め、管理や支配をすること
ウ　全ての行動を忘れること　　エ　名簿に新しい名を加えることだけ

(6)「褒賞」に合うものを選びなさい。
ア　役を必ず全員同じにすること　　イ　長生きした年数だけ
ウ　よい行いや功績をたたえ、与えるものなど　　エ　人の失敗をあざ笑う言葉

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　漢字　参加　褒賞　公会堂　集会　戯曲　凡庸
栄養　長寿　帰郷　掌握　在籍　支度　奈落

文	解答	文	解答
(1) 人が集まる □□へ出かける。		(8) 普通で際立たない □□という語を読む。	
(2) 故郷へ戻る □□の日を決める。		(9) 読めない □□を調べる。	
(3) 行事に □□する。		(10) 舞台の下の □□という場所を知る。	
(4) 出発の □□を整える。		(11) 長生きを祝う □□の会を開く。	
(5) 体に必要な □□を食事で取る。		(12) よい行いへの □□を贈る。	
(6) 町の □□□で劇を見る。		(13) 団長は配役の全てを □□しようとした。	
(7) 団体に名を置く □□の期間を記す。		(14) 上演するための □□を読む。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「在籍」と「参加」に合うものを選びなさい。

劇団には在籍しているが、今回の公演には参加しない人もいる。

ア　在籍者は必ず全ての公演に出る。
イ　不参加なら劇団を必ず辞めた。
ウ　在籍は客席の位置だけを表す。
エ　団体に属することと、今回加わることを分けている。

（2）この「凡庸」と「重要」に合うものを選びなさい。

目立たない場面転換の仕事も、劇を進めるために重要だった。

ア　目立たなさだけで、仕事に価値がないとはいえない。
イ　目立たない仕事は全て不要だ。
ウ　凡庸なら練習は必要ない。
エ　重要な仕事は必ず主役だけだ。

（3）この「戯曲」と「役者」に合うものを選びなさい。

誘拐する悪役を演じたが、役者自身が人をさらったのではない。

ア　悪役は役者の実際の性格を必ず示す。
イ　物語で起きることと、演じる人の実際の行為を分けている。
ウ　戯曲には役名を書けない。
エ　演じたことは全て現実の事件になる。

（4）この「褒賞」と「役割」に合うものを選びなさい。

褒賞を受けた人の希望も聞き、次に担う仕事は相談して決めた。

ア　褒賞を受けると希望は言えない。
イ　前と同じ仕事以外は必ず下手だ。
ウ　評価されたことと、次の役を固定することを分けている。
エ　褒賞は仕事を辞める命令だ。

（5）「光栄」を使い、何を名誉や喜びに感じたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「捉える」を使い、何をどう理解したかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 古い切手を**シュウシュウ**している。	
(2) 休んでいた役者が舞台へ**フッキ**した。	
(3) 式に**サンレツ**した人の話を聞く。	
(4) その提案を**シジ**する理由を述べる。	
(5) 寺の**ホンドウ**を訪れる。	
(6) 必要な**ショセキ**を図書館で探す。	
(7) 古典を読み、**チュウヨウ**という考え方を調べる。	
(8) 授業で短い**カンブン**を読む。	
(9) 地図で**ナラ**の位置を確かめる。	
(10) 年齢に関する習わしの**ヤクドシ**を調べる。	
(11) 物語に、人を**ユウカイ**する悪役が出てくる。	
(12) 博物館で**キョウリュウ**の骨格を見る。	
(13) 両手を合わせて**ガッショウ**する。	
(14) 日本地図で**キンキ**地方を探す。	
(15) 物語で、騒ぎの**チンセイ**を待つ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 帰属	(17) 参照	(18) 遊戯	(19) 褒美	(20) 車掌

この回を終えたら もう一度確かめる

いつもの役は、その人の全てを示すでしょうか。
以前の評価と、いま聞いた希望を分けて考えましょう。

七　文章の中で考えよう

舞台の下へ行きたい竜

近畿を巡る旅劇団に、百歳の竜が在籍していた。公会堂の戯曲では、鎮守の森から現れ、王女を誘拐する悪役だ。大きな声と尾は評判で、褒賞の花輪も贈られる。竜は光栄に思い、花がしおれると、自分で紙の花へ取り替えていた。

長寿を祝う集会で、竜は次の公演では舞台の下の奈落で働きたいと言った。「悪役を頼めるのは君だけだよ。」団長は驚いた。参加した子どもの役者ミオも、竜を見られないのは寂しかった。

けれど、竜は悪役が嫌いだとは言っていない。

稽古のあと、竜は落ちた紙を手掌に載せ、漢字で役名を書いた札を一枚ずつ直した。衣装や道具の支度は、以前から好きだったという。手が大きいから細かな仕事は無理だろうと、周りが思っていた。「紙の月を上げる係を、一度やってみたい。」

団長は、役を全部一人で掌握しようとしていたと気づいた。目立たない仕事は凡庸だと、自分も考えていなかったか。竜は、舞台の空へ月が出る刹那が好きだと言う。ミオも、そのときはいつも台詞を忘れそうになる。

代わりの悪役をどうするか。ミオは竜の絵を動かし、二人の役者が声を合わせる案を出した。声を重ねる練習では、片方だけ早く終わって笑ってしまった。通して稽古をすると、いつもの迫力とは違い、森の奥に何かいる感じがした。違いを失敗と捉える前に試してみてよかった。

公演後、本物の竜が出ないと物足りないという客もいた。団長はその声も残したが、それだけで次の仕事を決めなかった。竜は月の係を終え、帰りの荷車の支度をした。小さな道具が多くて厄介だ、と楽しそうに言った。

「次も、月の係なの。」

ミオが聞くと、竜はまだ分からない、舞台へ出たい日もあると答えた。公演の札には役名と担う人の名を別々に書く。帰る前、竜は紙の月を少し出した。拍手の時間ではなかったが、ミオは手を止めて見ていた。

劇団・竜・戯曲の出来事は創作です。舞台装置の操作を示す手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

以前の役と、竜が語ったいまの希望を根拠にして答えなさい。

（1）本文から、手のひらを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）命の続く長さを表す「ジュミョウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）竜の希望として本文にあるものを選びなさい。

ア　これまでの公演を全て失敗だとしたい。
イ　劇団を必ず辞めたい。
ウ　紙の月を上げる係を試したい。
エ　今後は絶対に舞台へ出たくない。

（4）公演後の団長の行動に合うものを選びなさい。

ア　客の希望は全て聞かなかった。
イ　竜を褒賞の数だけで選び直した。
ウ　これからの役は永遠に同じだと決めた。
エ　客の声も残したが、それだけで次の仕事を決めなかった。

（5）竜にいつもの悪役だけを頼むことを見直した理由を、
評価と本人の希望を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）劇団の紹介を、「竜」「役」を使って 70〜90 字で書きなさい。
新しい分担と、今後も本人と相談することを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　慣習と身分

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　帰る意味の帰とは、語全体で読む。どの団体などに属するかに着目する。
（2）ウ　所属の記録に関わる語。在籍していることだけで役目や能力までは決まらない。
（3）ア　平凡であること。目立たない仕事に価値がないという意味ではない。
（4）エ　舞台の下の空間を指す用法。地獄やどん底の意味もあり、文脈で読む。
（5）イ　掌は手のひら。掌握は物事を手中に収める意味へ広がる。
（6）ウ　ほめたたえて与えることや、その品。受賞の有無だけで仕事の価値は決まらない。

四　熟語を広げよう

（1）集会　（2）帰郷　（3）参加　（4）支度　（5）栄養
（6）公会堂　（7）在籍　（8）凡庸　（9）漢字　（10）奈落
（11）長寿　（12）褒賞　（13）掌握　（14）戯曲

在籍は所属、参加はその活動に加わること。（5）栄養は、生きるために必要な成分を取り入れることなど。褒賞はたたえて与えるものなどで、仕事の役割とは分けて考える。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　継続する所属と、一回の活動への参加を区別する。理由までは勝手に足さない。
（2）ア　特に目立つことと、必要な役割を担うことを混同しない。
（3）イ　役の行為を、そのまま役者本人の行為や性格へ移さない。
（4）ウ　以前の評価を消す必要はないが、それだけで今の希望や次の役を決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

昔から好きだった物語の朗読を任され、作者へ声を届けられて光栄だ。

☆自分で確かめる点　どんな出来事を名誉などに感じたかが分かるか。

（6）解答例

友人の沈黙を反対だと捉える前に、まだ考えているのかを尋ねてみた。

☆自分で確かめる点　受け取り方と、確かめようとする内容が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）収集　（2）復帰　（3）参列　（4）支持　（5）本堂
（6）書籍　（7）中庸　（8）漢文　（9）奈良　（10）厄年
（11）誘拐　（12）恐竜　（13）合掌　（14）近畿　（15）鎮静
（16）きぞく　（17）さんしょう　（18）ゆうぎ　（19）ほうび　（20）しゃしょう

（7）中庸は、極端に偏らず適切であること。二つの案の中間を機械的に選ぶ意味ではない。（9）は奈良、（13）は合掌。（19）褒美は、ほめて与える品など。（20）車掌は「しゃしょう」。

七　文章の中で考えよう

（1）手掌　手のひら。竜は、落ちた紙を大きな手掌に載せて札を直していた。
（2）寿命　命の続く長さ。長寿は長く生きること。同じ寿でも、熟語全体で意味を確かめる。
（3）ウ　道具の支度が好きで、月の係を試したいと語る。
（4）エ　客の声と、担当する本人の希望を両方考えている。

七　記述問題の考え方

（5）　いつもの役を見直す理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

悪役として評価されていても、竜は以前から道具の支度が好きで月の係を試したく、希望を聞いて分担を考えるため。

（5）別解例　51 字

大きな声や尾の評判だけでは本人の望みは決まらず、竜は道具の支度を好み、月を上げる係を希望していたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 悪役が評価されていたことを残したか。
② 道具の支度が好きなことと希望を結んだか。
③ 悪役を嫌っていると決めつけていないか。

裏方の方が必ず価値が高い、という順位を作る問題ではない。

（6）　劇団の紹介 70〜90 字

（6）解答例　85 字

評判の悪役だった竜が、希望して月を上げる係を務めました。悪役は絵と二人の声で演じています。竜は舞台へ出たい日もあるので、次の役も固定せず、希望や客の声を聞いて相談します。

（6）別解例　88 字

竜が好きな道具の仕事を試せるように役を分け、悪役は絵と声を組み合わせて作りました。月の係を今後ずっと続けると決めたわけではありません。次に何を担うかも、本人と話し合う劇団です。

☆（6）自分で確かめる点

①「竜」「役」を使ったか。
② 月の係と、絵と声の悪役という分担を示したか。
③ 今回の希望を将来も変わらない性格にしていないか。

紹介する相手に、どんな工夫があり、何をまだ相談するのかが伝わればよい。

漢字から文章へ 第五冊

第十一回

権力と争い

城門を閉めた夜、川向こうの人々がやって来ました。
新人の門番は、剣へ伸ばしかけた手を止めます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

衛	警	屯	廷
守る 守る人	注意する 見張る	集まってとどまる	宮廷や裁きの場

邪	剣	勅	隷
正しくない	つるぎ	君主の命令	従属する

いっしょに覚える漢字

臣	殺	免	侵	挟	砲
獲	窒	殉	轄	賂	嚇

この回で読むお話

剣を抜かない夜

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
衛	エイ	守る／守る人 防衛・衛生・護衛・自衛	邪	ジャ よこしま	正しくない／悪い 邪悪・邪魔・邪念・風邪
警	ケイ いましめる	注意する／見張る 警備・警告・警戒・警察	剣	ケン つるぎ	両刃の刀など 剣・剣士・剣術・真剣
屯	トン	集まってとどまる 駐屯・屯田・屯所・屯集	勅	チョク	天皇など君主の命令 勅命・勅令・詔勅
廷	テイ	政治を行う場所／裁きの場 宮廷・法廷・朝廷・廷臣	隷	レイ	従属する／しもべ 隷属・奴隷・隷書

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
臣	シン ジン	君主に仕える人 家臣・臣下・大臣・君臣	獲	カク える	つかまえて手に入れる 捕獲・獲得・漁獲・獲物
殺	サツ サイ ころす	命を奪う／勢いをそぐ 殺害・殺人・相殺・減殺	窒	チツ	ふさがる／息ができない 窒息・窒素・窒塞・窒息死
免	メン まぬかれる	負担を除く／逃れる 免除・免許・免税・免れる	殉	ジュン	あとを追う死／職務での死 殉死・殉職・殉教・殉難
侵	シン おかす	他の領域へ入り害する 侵攻・侵入・侵害・侵食	轄	カツ くさび	車輪を留めるくさび／支配範囲 管轄・所轄・直轄・統轄
挟	キョウ はさむ はさまる	両側から間に置く 挟撃・挟む・板挟み・挟持	賂	ロ	不正な利益のための金品など 賄賂・収賂・贈賂
砲	ホウ	大きな弾丸を発射する兵器 大砲・砲撃・鉄砲・砲台	嚇	カク おどす	脅して恐れさせる 威嚇・嚇す・恐嚇

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「防衛」に合うものを選びなさい。
ア　相手を必ず攻め続けること　　イ　人の役職を引き継ぐこと
ウ　負担を全てなくすこと　　エ　外からの攻撃などに備えて守ること

(2)「駐屯」に合うものを選びなさい。
ア　部隊がある場所にとどまること　　イ　物を全て運び出すこと
ウ　君主へ手紙を出すことだけ　　エ　人の功績をほめること

(3)「勅命」に合うものを選びなさい。
ア　町人同士の全ての約束　　イ　君主などが出す命令
ウ　書かれた意見の数だけ　　エ　命令に従った人の名前だけ

(4)「隷属」に合うものを選びなさい。
ア　全員が対等に自由な役を選ぶこと　　イ　新しく学校へ入ること
ウ　支配を受けて他に従うこと　　エ　古い本を写すことだけ

(5)「管轄」に合うものを選びなさい。
ア　管を運ぶ車の名前だけ　　イ　二つの案を折半すること
ウ　どこへでも無制限に命令できること　　エ　権限を持って扱い、管理する範囲など

(6)「威嚇」に合うものを選びなさい。
ア　相手の意見を穏やかに尋ねること　　イ　相手を脅して恐れさせること
ウ　約束の代金を払うこと　　エ　物を倉へしまうこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　家臣　駐屯　捕獲　剣術　防衛　威嚇　隷属
邪魔　侵入　警備　管轄　勅命　宮廷　免除

文	解答	文	解答
(1) 外からの攻撃に備える □□を考える。		(8) 他に従う □□の関係を調べる。	
(2) 会場を見張る □□の担当を決める。		(9) 君主に仕える □□の人物が登場する。	
(3) 部隊がとどまる □□の記録を読む。		(10) 負担を取り除く □□を求める。	
(4) 君主のいる □□を舞台にした話だ。		(11) 他の領域へ入り込む □□を防ぐ。	
(5) 人を妨げる □□をしない。		(12) 飼育場から逃げた動物を □□し、元の場所へ戻す。	
(6) 剣を扱う □□の場面を描く。		(13) 権限の及ぶ □□の範囲を示す。	
(7) 君主の命令を □□という。		(14) 脅して怖がらせる □□をやめる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「警戒」と「断定」に合うものを選びなさい。

警戒しながら見張ったが、暗い服だけで相手を敵とは断定しなかった。

ア　警戒したら、必ず敵である。
イ　警戒しないことだけが正しい。
ウ　注意して備えることと、敵と決めることを分けている。
エ　服の色だけで目的は全て分かる。

（2）この「免除」と「免許」に合うものを選びなさい。

費用の免除を受けたが、道具を使う免許を得たわけではない。

ア　費用がなくなれば、必ず全て許可される。
イ　前も後ろも船を止めることだ。
ウ　免許がなくても、免除があれば何でもできる。
エ　負担を除くことと、許可を与えることを分けている。

（3）この「家臣」と「管轄」に合うものを選びなさい。

家臣であるが、この門を開く許可は別の上官の管轄だった。

ア　仕える立場だけで、全てを決める権限はない。
イ　家臣なら国の全てを決められる。
ウ　管轄は年齢の順番だけを示す。
エ　家臣という語で本人の意見も全て分かる。

（4）この「殉死」と「殉職」に合うものを選びなさい。

主君のあとを追う殉死と、職務を果たす中で命を失う殉職を、同じ出来事とはしなかった。

ア　どちらも単に仕事を休むことだ。
イ　命を失うことに関わるが、表す事情が異なる。
ウ　殉職は全て主君のあとを追う死だ。
エ　語を区別すると、人の死を考えなくてよい。

（5）「警告」を使い、どんな危険を知らせたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「板挟み」を使い、二つの間で困る場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 教室の**エイセイ**に気を配る。	
(2) 道を尋ねるため**ケイサツ**へ行く。	
(3) 昔の部隊がいた**トンショ**の跡を調べる。	
(4) 物語の裁判が行われる**ホウテイ**を描く。	
(5) **カゼ**をひいて休んだ。	
(6) 友人の話を**シンケン**に聞く。	
(7) 書体の一つである**レイショ**を学ぶ。	
(8) 歴史の本で**ダイジン**の仕事を調べる。	
(9) 物語で、辺りに**サッキ**が漂うと描かれている。	
(10) 道具を使うための**メンキョ**を確かめる。	
(11) 他人の権利を**シンガイ**していないか考える。	
(12) 史跡に残る**ホウダイ**を見学する。	
(13) 新しい技能を**カクトク**する。	
(14) 空気に含まれる**チッソ**について学ぶ。	
(15) 職務を果たす中で命を失った人の**ジュンショク**の記録を読む。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 詔勅	(17) 臣下	(18) 窒息	(19) 殉教	(20) 挟撃

この回を終えたら もう一度確かめる

守るための命令は、何を目的にしているでしょう。
役目や権限と、目の前で分かったことを照らしましょう。

七　文章の中で考えよう

剣を抜かない夜

川を挟んだ二つの国は、まだ争っていた。初めて夜の警備に就くルカは、門の灯りの下で剣の位置を確かめた。宮廷からの勅命は、暗くなったら閉門し、開くときは上官の許可を得よ、というものだ。新人でも、家臣の役目は果たしたい。

城には兵が駐屯し、川向こうを警戒している。祖父の話には、昔の戦いで捕獲され奴隷となった人、殺された人、煙で窒息した人がいた。殉職した門番の碑もある。ただ祖父は、同じように死んで手柄を立てよとは言わなかった。腰の袋で、祖父がくれた干し果物が少しつぶれていた。

「川があふれた。こちらにも水が来る。」

夜半、川向こうの服を着た少年が、人々と門へ来た。侵入かと思い、ルカは剣に手を伸ばした。邪悪な敵だと噂されていた国の人だ。だが少年の叫びから、襲いに来たとはいえない。門は閉じたまま、人のいない高所へ逃げたいという話を聞いた。

城壁の見張りからも、水かさが増したと報告が来た。このまま低地にいれば、被害を免れない。教本には、賄賂を受け取らず、通行の条件を勝手に変えないともある。命令と目の前の人々の間で、ルカは板挟みになった。

自分一人で開門を決める権限はない。

門を管轄する上官へ、来た人の言葉と見張りの報告を分けて伝え、避難の許可を求めた。上官は確認に来て、門内の高台へ案内するよう命じた。

兵の一人は大砲を見せて威嚇しようと言ったが、上官は、水と避難する人の動きも見よ、と止めた。ルカは剣を向けず、道を示した。戦いに勝ったわけではない。何を守る防衛なのか。門の内側だけでなく、外にいた人の顔も思い浮かべた。

高台で服を絞る少年が、明朝もこの門にいるか尋ねた。ルカは交代までいると答える。国同士の争いが終わったわけではない。それでも少年は、夜が明けたら川の様子を知らせに来ると言った。ルカは剣から離した手で、灯りを少し高くした。

国・人物・命令・避難の出来事は創作です。実際の警備や災害対応の手順ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

命令の条件、少年の言葉、別の見張りの報告を根拠に答えなさい。

（1）本文から、危険などに備えて注意することを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）不正な利益を得るために贈る金品を表す「ワイロ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）上官へ伝えたこととして、本文に合うものを選びなさい。

ア　少年の服だけで襲撃だと確定したこと。
イ　少年の言葉は全てうそだと決まったこと。
ウ　来た人の言葉と、水かさが増したという見張りの報告。
エ　二つの国が永久に仲直りしたこと。

（4）実際の開門の判断に合うものを選びなさい。

ア　ルカ一人が全ての条件を変えた。
イ　少年が金品を渡して命じた。
ウ　大砲を見せたので自動的に開いた。
エ　上官が確認し、高台へ案内するよう命じた。

（5）ルカが服だけで相手を敵と決めず、報告をした理由を、
少年の言葉と別の確認を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）この夜の出来事を、「命令」「守る」を使って 70〜90 字でまとめなさい。
許可を得た経過と、争いは続いていることを残します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十一回　権力と争い

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　何を守るかを確かめる。防衛という名だけで、個々の行為の正しさは決まらない。
（2）ア　とどまる場所や目的を本文で確かめる。駐車のような車の用法と区別する。
（3）イ　天皇などの命令を表す。この物語では架空の国王の命令として用いている。
（4）ウ　従属する関係を表す。隷書は書体の名であり、同じ字でも語全体で読む。
（5）エ　誰の権限がどの範囲に及ぶかに着目する。語だけで具体的な制度は決まらない。
（6）イ　怖がらせる行為。声や道具があるだけで威嚇と決めず、何をしているかを読む。

四　熟語を広げよう

（1）防衛　（2）警備　（3）駐屯　（4）宮廷　（5）邪魔
（6）剣術　（7）勅命　（8）隷属　（9）家臣　（10）免除
（11）侵入　（12）捕獲　（13）管轄　（14）威嚇

免除は負担などを取り除くこと。許可を表す免許とは語全体で区別する。
管轄は権限の及ぶ範囲など。特定の担当者に全ての権限があるとは限らない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　注意を続けることと、確認前の判断を確定することを区別する。
（2）エ　どの負担、どの行為への許可かを読む。具体的な条件は別に確かめる。
（3）ア　所属する立場と、任された権限の範囲を区別する。
（4）イ　殉死と殉職は同じ語ではない。死を美化して、他の人にも求める説明にはしない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

係の人は、工事中の道へ入ると危険だと警告し、別の入口を案内した。

☆自分で確かめる点　危険の内容と、知らせる場面が分かるか。

（6）解答例

二人の友人から別々の案を頼まれ、板挟みになった私は三人で話した。

☆自分で確かめる点　何と何の間で困ったかを具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）衛生　（2）警察　（3）屯所　（4）法廷　（5）風邪
（6）真剣　（7）隷書　（8）大臣　（9）殺気　（10）免許
（11）侵害　（12）砲台　（13）獲得　（14）窒素　（15）殉職
（16）しょうちょく　（17）しんか　（18）ちっそく　（19）じゅんきょう　（20）きょうげき

（3）屯所は部隊などがとどまる所。（7）隷書は書体の名。（9）殺気は、人を殺そうとするような気配。（15）殉職は職務を果たす中で命を失うこと。（19）殉教は信仰のために命を失うこと。死を他人にも求める意味ではない。

七　文章の中で考えよう

（1）警戒　川向こうの動きに注意し、備えること。警戒していることだけで、来た人が敵と確定するわけではない。

（2）賄賂　不正な利益のために贈る金品など。ルカは、受け取らず通行の条件を勝手に変えないという教本の内容を思い出す。

（3）ウ　二つの情報を、どこから得たか分けて伝えた。
（4）エ　ルカが独断で全ての条件を変えたわけではない。

七　記述問題の考え方

（5）　相手を敵と決めない理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

少年は川の氾濫を告げて高所への避難を求め、別の見張りも水かさの増加を報告し、襲撃と決める根拠が足りないから。

（5）別解例　54 字

服は川向こうのものでも、少年は避難を求め、水かさが増したという見張りの報告もあり、襲撃とは確定できないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 少年が避難を求めた言葉を書いたか。
② 別の見張りの報告を結んだか。
③ 服だけで目的や内心を断定していないか。

国籍や服だけで内心を決めない。確認できた言葉と出来事の範囲で説明する。

（6）　この夜の出来事 70〜90 字

（6）解答例　84 字

ルカは命令を一人で変えず、少年の願いと見張りの報告を上官へ伝えました。確認と許可を経て高台へ案内し、門の外の人も守る対象と考えます。ただし、国同士の争いは続いています。

（6）別解例　88 字

命令を受けたルカは、服だけで敵とせず、少年の言葉と別の報告を確かめて上官へ知らせました。許可を得て高台へ案内し、外の人も守ることを考えます。ただし、争い全体は終わっていません。

☆（6）自分で確かめる点

①「命令」「守る」を使ったか。
② 報告・上官の確認・許可の経過を示したか。
③ 一夜の出来事を、争い全体の解決へ広げていないか。

実際の警備・防災の正しい手順を答えるのではなく、この物語の条件を読む。

漢字から文章へ 第五冊

第十二回

労働・蓄積・取引

十二枚のしおりは、全部売れました。
なのに、今日払うお金が足りません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

経	貝	貿	貧
通り過ぎる 営む	貝がらなど	売買 取り替える	物や資源が乏しい

販	俸	租	貪
売り広める	給料や手当	税 借りる	欲深く求める

いっしょに覚える漢字

園	旅	倉	賀	捜	掛
乏	累	晶	貼	穫	業

この回で読むお話

売り切れたのに足りない店

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
経	ケイ キョウ へる	通り過ぎる／営む 経験・経営・経済・経路	販	ハン	売り広める 販売・市販・販路・物販
貝	バイ かい	殻を持つ水生動物など 貝殻・貝貨・二枚貝・貝塚	俸	ホウ	職務に対する給料や手当 俸給・月俸・年俸・俸禄
貿	ボウ	品物を取り替える／売買する 貿易・貿易港・貿易商・外貿	租	ソ	税／金を払って借りる 租税・地租・租借
貧	ヒン ビン まずしい	物や資源が乏しい 貧困・貧乏・清貧・貧富	貪	ドン タン むさぼる	欲深く求める 貪欲・貪る・貪食

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
園	エン その	囲われた土地／施設 農園・庭園・学園・果樹園	乏	ボウ とぼしい	足りない／少ない 欠乏・乏しい・窮乏・耐乏
旅	リョ たび	住む所を離れて移動する 旅商・旅行・旅費・旅人	累	ルイ	重なる／関わりが及ぶ 累積・累計・累代・係累
倉	ソウ くら	品物を保管する建物 倉庫・船倉・米倉・穀倉	晶	ショウ	光り輝く／結晶に用いる 水晶・結晶・晶出
賀	ガ	よろこび祝う 祝賀・賀状・賀宴・年賀	貼	チョウ はる	はり付ける 貼付・貼る・貼紙
捜	ソウ さがす	見えないものを探す 捜索・捜査・捜し物・捜し出す	穫	カク	作物を刈り取り入れる 収穫・収穫期・秋穫
掛	かける かかる かかり	上からつるす／関係させる 売掛金・掛け金・手掛かり・掛け売り	業	ギョウ ゴウ わざ	仕事／行い 職業・産業・事業・商業

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「貿易」に合うものを選びなさい。
ア　国を越えて品物などを売買すること　　イ　同じ部屋の中で道具を並べることだけ
ウ　仕事への給料だけ　　エ　商品をまだ売らず保管することだけ

(2)「俸給」に合うものを選びなさい。
ア　店で売った全品の値段　　イ　職務の対価として支給される給料
ウ　店の全ての利益　　エ　借りた物の個数だけ

(3)「租税」に合うものを選びなさい。
ア　物を数える道具だけ　　イ　商品を包む紙だけ
ウ　個人同士の全ての贈り物　　エ　国や地方公共団体などに納める税

(4)「貪欲」に合うものを選びなさい。
ア　物の数が必ず少ないこと　　イ　店を必ず閉めること
ウ　欲深く、飽くことなく求めること　　エ　給料を毎月受け取ることだけ

(5)「累計」に合うものを選びなさい。
ア　数を順次加えて出した合計　　イ　一回の取引を必ず二度足すこと
ウ　今ある現金だけ　　エ　物を預ける建物だけ

(6)「売掛金」に合うものを選びなさい。
ア　まだ売っていない商品の全て　　イ　先に納めた税金だけ
ウ　仕事へ使った時間だけ　　エ　売った代金のうち、後で受け取る約束の未回収の金額

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　農園　貿易　捜索　俸給　経営　収穫　貪欲
販売　祝賀　貝殻　累計　租税　貧困　倉庫

文	解答	文	解答
(1) 店を営む □□を体験する。		(8) 強く求める □□な気持ちを描く。	
(2) 浜で拾った □□を図に描く。		(9) 作物を育てる □□へ行く。	
(3) 国を越え品物を売買する □□を調べる。		(10) 品物を保管する □□を整理する。	
(4) 資源に乏しい □□の問題を考える。		(11) 祝いの気持ちを表す □□の札を作る。	
(5) 作った品物を □□する。		(12) 見えない荷物を □□する。	
(6) 職務への給料である □□を受け取る。		(13) 数を積み重ねた □□を出す。	
(7) 国などへ納める □□を学ぶ。		(14) 作物を取り入れる □□を手伝う。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「販売額」と「現金」に合うものを選びなさい。

千二百円分を販売し、八百円を受け取り、四百円は明日受け取る約束だ。

ア　手元の現金は必ず千二百円ある。
イ　千二百円は全て利益である。
ウ　売れた額と、既に受け取った額は異なる。
エ　四百円分はまだ売っていない。

（2）この「欠乏」と「貪欲」に合うものを選びなさい。

今日の支払額より現金が少ないが、それだけで店主が貪欲だとはいえない。

ア　現金が足りなければ必ず強欲だ。
イ　お金の不足だけで、人の性格や動機は決まらない。
ウ　貪欲とは給料が少ない意味だけだ。
エ　欠乏があれば取引の記録は全てうそだ。

（3）この「貼付」と「添付」に合うものを選びなさい。

箱には札を貼付し、手紙には説明書を添付した。

ア　どちらも必ずのりで接着した。
イ　添付の添にも貼の字がある。
ウ　貼付は物を探すことだ。
エ　前ははり付け、後ろは書類に添えている。

（4）この「収穫」と「獲得」に合うものを選びなさい。

作物を取り入れる収穫と、賞を手に入れる獲得の字を確認した。

ア　作物を取り入れる語の穫と、手に入れる語の獲を書き分ける。
イ　どちらも必ず穫の字で書く。
ウ　収穫は作物には使わない。
エ　獲得とは紙をはることだ。

（5）「旅費」を使い、旅にかかる何の費用かを示しなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「累積」を使い、何が積み重なったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 店の手伝いをして**ケイケン**を積む。	
(2) 図鑑で**ニマイガイ**の体の作りを調べる。	
(3) 外国との取引がある**ボウエキコウ**を地図で探す。	
(4) 持つ財産の違いを表す**ヒンプ**という語を学ぶ。	
(5) 店で**シハン**されている道具を使う。	
(6) 一年分の給与を表す**ネンポウ**という語を調べる。	
(7) 歴史の資料で、土地にかかる**チソ**を調べる。	
(8) 物語で、主人公が利益を**ムサボル**姿を描く。	
(9) 花の咲く**テイエン**を歩く。	
(10) 箱に案内の札を**チョウフ**する。	
(11) 昔の**コメグラ**が残る町を訪ねる。	
(12) 新しい年を祝う**ネンガ**の挨拶を書く。	
(13) 物語で、事件の**ソウサ**をする人物を描く。	
(14) 透明な**スイショウ**を光にかざす。	
(15) 興味のある**ショクギョウ**について調べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 貝塚	(17) 掛け売り	(18) 結晶	(19) 窮乏	(20) 産業

この回を終えたら もう一度確かめる

売れた額は、そのまま今日使える額でしょうか。
物と代金の動き、受け取る日と支払う日も確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

売り切れたのに足りない店

売り切れの札を、葉月は机の端へ立てた。夏の市で経営を体験する店だ。貝のボタンと水晶のしおり十二枚は、もう一枚も残っていない。妹が描いて貼った祝賀の札だけが、風で揺れていた。

材料の一部は貿易会社の倉庫から届き、旅先でも使える薄い紙を選んだ。材料と運搬の費用は合計千円で、今日の閉店後に払う約束。一枚百円で十二枚売れば足りると思った。元からの現金はなく、空の箱で始めた。参加費は無料で、ほかの費用は今回の計算にない。

販売は累計十二枚。八枚分の八百円は受け取った。収穫帰りに寄った農園の人の四枚分は、明日払ってもらう。後で受け取る四百円を売掛金と記し、閉店時の記録をまとめた。

閉店時の記録

区分	金額
販売済みの総額	1,200 円
既に受け取った現金	800 円
明日受け取る約束の代金	400 円
今日支払う約束の費用	1,000 円

箱には、八百円しかなかった。今日払うには二百円足りない。机の下を捜したが、記録どおりの額で、なくしたのではなかった。貧しいのは店の才能がないからか。葉月は、何が足りないのかも確かめず、自分の性格の問題へ変えかけていた。

租税の案内を職業にしている母へ相談した。「毎月の俸給だって、明日入る予定なら今日の箱にはないでしょう。」売った総額から今回の費用を引けば二百円残るが、今ある現金は八百円。利益の計算と今日払える額は違った。

もっと貪欲に売れば、と言いかけて、葉月は記録へ戻った。売れ残りはない。現金の欠乏は、受け取る日と支払う日のずれからも生じる。母と記録を分け、支払う相手へ事情と明日の入金予定を伝えて相談した。

妹が、売り切れなら仕事は終わりではないのかと尋ねた。

売る仕事は終わった。でも、受け取って払う仕事はまだある。葉月は札の裏に、明日確かめる金額と相手の名を書いた。四百円を受け取っても、売上にもう一度足すことはしない。妹は、札が飛ばないよう、小石を一つ置いた。

店・金額・人物・取引の条件は創作です。実際の営業や税の手続を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

閉店時の記録と、本文で示す支払の約束を根拠に答えなさい。

（1）本文から、売った代金で後から受け取る約束の金額を表す語を、漢字三字で抜き出しなさい。

（2）物などが足りない「ケツボウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）閉店時の支払について正しいものを選びなさい。

ア　現金は千二百円あるので二百円余る。
イ　現金は八百円なので二百円足りない。
ウ　明日受け取る額は二百円だ。
エ　十二枚の代金は全て未回収だ。

（4）明日四百円を受け取るときの記録に合うものを選びなさい。

ア　同じ十二枚の売上を四百円増やす。
イ　新しく四枚売ったことにする。
ウ　売掛金は現金と同じまま残す。
エ　既に売った代金の回収として記す。

（5）売り切れても今日の支払に足りない理由を、
二つの金額と受取時期を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）次の担当者への引継ぎを、「売掛金」「支払」を使って 70〜90 字で書きなさい。
入金の確認と、相手への相談が必要なことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十二回　労働・蓄積・取引

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　国や地域を越える取引に関わる語。何をどこへ運んだかは文脈で確かめる。
（2）イ　職務に対する給与。売上や利益などと同じものとして扱わない。
（3）エ　税に関わる語。具体的な制度や納める条件は、この語だけでは分からない。
（4）ウ　むさぼる気持ちを表す。学習への意欲などに使う場合もあり、文脈で読む。
（5）ア　数を積み重ねた合計。何の数を足したかも確認する。
（6）エ　売上に関わる未回収の代金。手元の現金や、既に受け取った代金とは分ける。

四　熟語を広げよう

（1）経営　（2）貝殻　（3）貿易　（4）貧困　（5）販売
（6）俸給　（7）租税　（8）貪欲　（9）農園　（10）倉庫
（11）祝賀　（12）捜索　（13）累計　（14）収穫

販売額と、受け取った現金、残る代金は分けて数える。
「業」は第一冊第十一回からの再会字。職業・産業など、語全体で意味を確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　売上があることと、入金済みであることを区別する。後払いを二重に足さない。
（2）イ　物の不足と、欲の持ち方の評価は別。何が不足し、なぜかを確かめる。
（3）エ　似た働きもあるが、貼付ははり付けることに着目する。添と貼の字形も区別する。
（4）ア　意味の近さだけで漢字を入れ替えない。収穫のほか、比喩の用法も語全体で読む。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖母に会いに行く旅費を考え、電車代と宿泊代を分けてノートに記した。

☆自分で確かめる点　旅の目的と、何にかかる費用かが分かるか。

（6）解答例

毎日の小さな記録が累積し、店に来る人が多い時間帯を比べられた。

☆自分で確かめる点　積み重なる対象と、その結果を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）経験　（2）二枚貝　（3）貿易港　（4）貧富　（5）市販
（6）年俸　（7）地租　（8）貪る　（9）庭園　（10）貼付
（11）米倉　（12）年賀　（13）捜査　（14）水晶　（15）職業
（16）かいづか　（17）かけうり　（18）けっしょう　（19）きゅうぼう　（20）さんぎょう

（6）年俸は一年を単位に決めた給与。（10）貼付は「ちょうふ」で、はり付けること。（11）米倉は米をしまう倉。（17）掛け売りは後払いの約束で売ること。受取日も確かめる。

七　文章の中で考えよう

（1）売掛金　販売済みだが、まだ受け取っていない四百円。
（2）欠乏　この場面では、今日払う現金の不足。
（3）イ　千円を払う約束に対し、現金は八百円。差は二百円。
（4）エ　同じ販売の代金の回収で、二重の売上にはしない。

七　記述問題の考え方

（5）　今日の支払に足りない理由 45〜55 字

（5）解答例　49 字

今日払う費用は千円だが、現金は八百円で二百円足りず、販売済みの残る四百円は明日受け取る約束だから。

（5）別解例　49 字

十二枚は売れたが、今ある現金は八百円で、今日の費用千円に足りず、残る代金四百円は明日受け取るから。

☆（5）自分で確かめる点

① 費用千円と現金八百円を示したか。
② 四百円の受取は明日だと結んだか。
③ 売れなかったことや紛失を原因にしていないか。

本文の費用だけで計算する。売上の全額を利益や入金済み現金にはしない。

（6）　次の担当者への引継ぎ 70〜90 字

（6）解答例　87 字

売掛金四百円は明日の約束で、入金を確認します。今日の支払千円には現金八百円で足りないため、相手へ事情と受取予定を伝えて相談します。回収額を売上へ二重に足さず記録してください。

（6）別解例　87 字

今日の支払千円に対し、現金は八百円です。売掛金四百円の受取は明日なので、支払う相手へ事情と予定を伝え、確認して相談します。入金を確かめたら回収として記し、売上は増やしません。

☆（6）自分で確かめる点

①「売掛金」「支払」を使ったか。
② 今日の不足と明日の受取、相談を結んだか。
③ 予定の入金を確認済みや、延期の了承済みにしていないか。

相手へ相談したところまでが本文。すでに延期を了承されたとは書かない。

漢字から文章へ 第五冊

第十三回

地球の激しい動き

旅のいちばんの楽しみは、滝にかかる虹でした。
ところが、滝へ向かう道は閉じています。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

風	注	池	沖
空気の流れ 様子	そそぐ 心を向ける	水がたまる所	岸から離れた水上
熱	炉	沙	滝
温度が高い 勢い	燃やす 加熱する設備	細かな砂など	高所から落ちる水

いっしょに覚える漢字

放	炭	灯	華	焦	虹
沃	渦	梗	薫	溺	窟

この回で読むお話

滝を描かなかった絵はがき

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
風	フウ フ かぜ かざ	空気の流れ／様子 風向・風速・台風・風土	熱	ネツ あつい	温度が高い／強い勢い 熱波・高熱・地熱・熱気
注	チュウ そそぐ さす つぐ	一か所へそそぐ／心を向ける 注水・注意・注目・注釈	炉	ロ	高温で燃焼・加熱する設備 溶鉱炉・暖炉・原子炉・炉心
池	チ いけ	地面のくぼみに水がたまった所 貯水池・池水・電池・ため池	沙	サ	細かな砂などに用いる 流沙・沙漠・沙丘
沖	チュウ おき	岸から離れた水上 沖合・沖縄・沖積・沖波	滝	たき	高い所から落ちる水流 滝・滝口・滝壺

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
放	ホウ はなす はなつ はなれる ほうる	自由にする／外へ出す 放出・放流・解放・放射	沃	ヨク	土地が肥える／水を注ぐ 肥沃・沃土・沃野
炭	タン すみ	木などを焼いて作る燃料／炭素を含む物 石炭・木炭・炭素・炭田	渦	カ うず	水や空気が巻き回る 渦潮・渦中・渦巻・渦流
灯	トウ ひ	明かり／火 灯火・電灯・灯台・提灯	梗	コウ	あらまし／ふさがる 梗概・梗塞・桔梗
華	カ ケ はな	花／美しく盛ん 昇華・華麗・繁華・精華	薫	クン かおる	よい香りが漂う／感化する 薫風・薫陶・薫香・薫る
焦	ショウ こげる こがす こがれる あせる	焼けて黒くなる／いらだつ 焦土・焦点・焦燥・焦げる	溺	デキ おぼれる	水中で息ができず苦しむ／夢中になる 溺水・溺れる・溺愛・耽溺
虹	コウ にじ	空に見える七色の光の帯など 虹・虹色・虹彩	窟	クツ いわや	岩などにあいた洞穴 洞窟・岩窟・巣窟・石窟

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「風向」に合うものを選びなさい。
ア　風が吹く向き　　イ　風が続いた年数
ウ　風景の値段　　エ　風を見た人の人数

(2)「注釈」に合うものを選びなさい。
ア　物を水へ沈めること　　イ　文章を全て消すこと
ウ　語や内容を説明する補足　　エ　天候を必ず変えること

(3)「放出」に合うものを選びなさい。
ア　物を奥へしまうことだけ　　イ　外へ出すこと
ウ　予定を細かく決めること　　エ　人を必ず自由に旅させること

(4)「肥沃」に合うものを選びなさい。
ア　水の流れが急なこと　　イ　空気がとても冷たいこと
ウ　岩の中に穴があること　　エ　土地がよく肥えていること

(5)「梗概」に合うものを選びなさい。
ア　話の大筋やあらすじ　　イ　話の全ての台詞
ウ　作者が生まれた場所だけ　　エ　本の紙の重さだけ

(6)「焦燥」に合うものを選びなさい。
ア　物が焼けた黒い跡だけ　　イ　光が水に映ること
ウ　土地が肥えること　　エ　いらだち、落ち着かない気持ち

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　華麗　貯水池　渦潮　暖炉　風向　洞窟　灯火
地熱　肥沃　注釈　梗概　流沙　沖合　焦燥

文	解答	文	解答
(1) 風の向きである □□を確かめる。		(8) 明かりの □□を目印にする。	
(2) 説明に □□を加える。		(9) 美しく目立つ □□な飾りを作る。	
(3) 水をためる □□□の位置を示す。		(10) 落ち着かない □□の気持ちを記す。	
(4) 岸から離れた □□を船が進む。		(11) 土地がよく肥えた □□な畑を描く。	
(5) 大地の内部の □□を利用する。		(12) 海で渦を巻く □□を船から眺める。	
(6) 部屋を暖める □□の前に座る。		(13) あらすじを示す □□を先に読む。	
(7) 流れる砂の □□を図で見る。		(14) 岩にあいた □□の写真を見る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「晴天」と「通行止め」に合うものを選びなさい。

空は晴れたが、道の通行止めはまだ解除されていなかった。

ア　晴れれば道の状態も全て確認済みだ。
イ　今の空の様子と、道を使えるかは別の情報だ。
ウ　通行止めとは雨雲の名前だ。
エ　晴天なら前日の雨はなかった。

（2）この「放出」と「解放」に合うものを選びなさい。

装置から熱を放出し、仕事が終わると緊張から解放された。

ア　どちらも同じ装置の部品名だ。
イ　後ろも必ず温度が下がったことだ。
ウ　外へ出すことと、束縛などから自由になることを分けている。
エ　前も必ず人の気持ちだけを表す。

（3）この「焦土」と「焦燥」に合うものを選びなさい。

焼けた土地を焦土と呼び、待ち切れない気持ちを焦燥と書いた。

ア　どちらも土地の色だけを示す。
イ　焦燥なら必ず火事が起きた。
ウ　焦土は落ち着いて待つ気持ちだ。
エ　前は土地の状態、後ろは落ち着かない気持ちだ。

（4）この「梗概」と「見聞」に合うものを選びなさい。

予定を書いた旅の梗概と、実際に見聞きした内容を分けて絵はがきにした。

ア　行くはずだった場所と、確かめた景色を区別している。
イ　予定にあれば全て見たことになる。
ウ　梗概には言葉を書けない。
エ　見聞は未来の天候を必ず当てることだ。

（5）「注目」を使い、何のどこに目を向けたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「薫風」を使い、初夏の風を感じる場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 物語で、大きな**タイフウ**が島へ近づく。	
(2) 容器へ少しずつ**チュウスイ**する。	
(3) 懐中電灯に**デンチ**を入れ、点灯するか確かめた。	
(4) 地図で**オキナワ**の島々を探す。	
(5) 登場人物が**コウネツ**で旅を休む。	
(6) 古い家の**イロリ**を見学する。	
(7) 長い間、友人から**オトサタ**がない。	
(8) 写真に写る**タキツボ**の形を見る。	
(9) 川へ稚魚を**ホウリュウ**する。	
(10) 元素の一つである**タンソ**を学ぶ。	
(11) 夕方、部屋の**デントウ**をつける。	
(12) 人通りが多く**ハンカ**な街を歩く。	
(13) 話し合いの**ショウテン**を定める。	
(14) 目の**コウサイ**という部分を図で調べる。	
(15) 岩を掘って造った**セックツ**を訪ねる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 熱波	(17) 溶鉱炉	(18) 昇華	(19) 溺水	(20) 沃野

この回を終えたら もう一度確かめる

見たい景色と、今日見られる景色は同じでしょうか。
残念な気持ちも残しながら、確かめたことを書いてみましょう。

七　文章の中で考えよう

滝を描かなかった絵はがき

港から見えた灯台は、写真よりずっと細かった。初夏、父と島へ来た澄は、沖合の白い点を絵はがきの隅に描いた。本当は、滝にかかる虹を大きく描くつもりだった。華麗な写真を見て、旅の梗概にも「滝」と一番に書いてある。

ところが、山道の入口には柵があった。前夜の大雨で土砂が崩れ、流沙のある川へ近づけば溺れるおそれもあるという。係の人は、道の確認が終わるまで開けないと話した。澄は晴れた空に注目してほしかったが、道の確認はまだ終わっていなかった。

明日の朝には、帰りの船が出る。宿へ戻る足が重かった。虹を見なければ、島へ来た証拠がなくなるような焦燥があった。父は先に靴を脱ぎ、澄の分のひももほどこうとして、手を止めた。澄は自分で結び目を引いた。

部屋の窓から、畑と、川が貯水池へ入る所が見えた。岸の枝のそばで、小さな渦ができては消える。滝の音は聞こえない。宿の主人は、この窓から見る風向が好きだと言う。指した木の葉は、裏側を白く返していた。

食堂の壁には、木炭を入れた昔の暖炉の絵が掛かっていた。今は地熱で温めた水を使い、外へ逃げる熱の放出も減らす工夫をしているという。主人は続けて、洞窟に湯を見つけた人の昔話をした。設備について確かめた説明と、語り継がれた話は別だと、澄はノートの場所を分けた。

夕方、主人に畑を見せてもらった。「肥沃な土なんですよ。」豆の列の間を薫風が通る。澄の袖も膨らんだ。滝へ行けなかったことは、まだ惜しい。それでも、この畑までなかったことにするのは違う気がした。

机へ戻り、絵はがきに窓と畑、閉じていた道を足した。虹は見ていないと書く。昔話には、宿で聞いた話だと添えた。滝を描くはずだった場所には、白い所が残った。何で埋めようかと鉛筆を置くと、窓の葉が、また裏返った。友人がこの空白を見て何と言うかは、まだ分からない。

島・旅・設備・通行の条件は創作です。実際の気象や災害時の行動を示す手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

澄の期待、案内板の条件、実際に見聞きした内容を照らして答えなさい。

（1）本文から、前夜の大雨で崩れたものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）むやみにかわいがることを表す「デキアイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）晴れたときの道について、本文に合うものを選びなさい。

ア　澄一人の判断で開けることになった。
イ　島の全ての道が使えなくなった。
ウ　係の人による確認はまだ終わっていなかった。
エ　父が虹を見たので確認を終えた。

（4）最後の絵はがきに合うものを選びなさい。

ア　写真の虹を、自分が見た景色として描いた。
イ　昔話を、確認した設備の説明として書いた。
ウ　見られなかったので、島には何もないと書いた。
エ　見た景色と聞いた話を分け、滝の空白も残した。

（5）晴れた空だけでは山道を使えるとしなかった理由を、
係の人の説明と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）澄の絵はがきを、「虹」「空白」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
見聞きした内容と、まだ残る思いを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十三回　地球の激しい動き

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　向きに着目する語。速さを表す風速とは分けて読む。
（2）ウ　分かりにくい語や事柄へ説明を添えること。注水とは語全体の意味が違う。
（3）イ　何がどこから出るのかを読む。解放などの語と、対象を確かめて使い分ける。
（4）エ　土の豊かさに関わる語。どんな作物も必ず育つとまでいう語ではない。
（5）ア　内容のおおまかな筋道。細部まで全て書いた本文とは区別する。
（6）エ　焦げるという物の変化と、気持ちを表す用法を分ける。

四　熟語を広げよう

（1）風向　（2）注釈　（3）貯水池　（4）沖合　（5）地熱
（6）暖炉　（7）流沙　（8）灯火　（9）華麗　（10）焦燥
（11）肥沃　（12）渦潮　（13）梗概　（14）洞窟

風向は、風が吹いてくる方向を示す。風速は速さ。（12）渦潮は、海水が渦を巻く流れ。川の渦を全て渦潮とは呼ばない。梗概は、話などの大筋やあらすじ。

五　似た語を使い分けよう

（1）イ　二つの情報の対象を分ける。晴れたことだけで、道の確認まで終わったとはしない。
（2）ウ　放出は外へ出すこと、解放は束縛などから自由にすること。対象とともに読む。
（3）エ　同じ焦でも対象が異なる。人の気持ちを実際の火災の証拠にはしない。
（4）ア　説明の予定と、経験したことを分ける。見なかった景色も、そのように明示して書ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は写真の端にある小さな橋に注目し、人が通れる幅かを尋ねた。

☆自分で確かめる点　目を向けた対象と、気になった点が分かるか。

（6）解答例

窓を開けると薫風が入り、机の上の手紙がゆっくりとめくれた。

☆自分で確かめる点　初夏の心地よい風として使い、場面を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）台風　（2）注水　（3）電池　（4）沖縄　（5）高熱
（6）囲炉裏　（7）音沙汰　（8）滝壺　（9）放流　（10）炭素
（11）電灯　（12）繁華　（13）焦点　（14）虹彩　（15）石窟
（16）ねっぱ　（17）ようこうろ　（18）しょうか　（19）できすい　（20）よくや

（7）音沙汰は便りや連絡。（12）繁華は、人が集まってにぎわうこと。（14）虹彩は目の一部。
（20）沃野は、土がよく肥えた野。虹は「にじ」のほか、熟語で「コウ」とも読む。

七　文章の中で考えよう

（1）土砂　前夜の大雨で崩れ、山道を使えなくしたもの。
（2）溺愛　度を越してかわいがること。溺水とは、語全体の意味が異なる。
（3）ウ　晴天になったことと、道の確認終了は別。
（4）エ　経験したことを区別し、見なかった滝の場所も残した。

七　記述問題の考え方

（5）　晴天だけで道を使えない理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

今ここが晴れたことと、土砂などでふさがれた山道の確認が済んだことは別で、係の人の確認は終わっていないから。

（5）別解例　52 字

前夜の雨で道がふさがれ、係の人は確認が終わるまで開けないと話しており、晴天だけでは条件を満たさないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 前夜の雨による道の状態に触れたか。
② 係の人の確認がまだ終わっていないことを結んだか。
③ 晴れたことを、道の確認済みと同じにしていないか。

本文に示された通行の条件を読む。実際の災害時の対応手順を補う問題ではない。

（6）　絵はがきの紹介 70〜90 字

（6）解答例　85 字

澄は虹を見られませんでしたが、窓から見た畑や閉じた道を描き、主人の昔話は聞いた話として添えました。滝のための空白も残し、旅の発見と、まだ消えない残念さを一枚にしています。

（6）別解例　87 字

虹の写真だけが旅の証拠ではないと感じた澄は、見た窓や畑を描きました。見ていない虹は見たことにせず、昔話も区別しています。残した空白には、滝への思いと返事への期待が重なります。

☆（6）自分で確かめる点

①「虹」「空白」を使ったか。
② 見た景色と、聞いた昔話を区別したか。
③ 残念さが全て消えた結末にしていないか。

空白の受け取り方は、本文を根拠に別の表現でもよい。友人の実際の返事はまだ書かれていない。

漢字から文章へ 第五冊

第十四回

作物と生態

虎が、虫のいないきれいな畑を作ろうとしています。
最初に追い返した客は、花へ来た蜂でした。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

草	森	虫	馬
地面に生える植物	木々が茂る所	昆虫など 小さな生物	うま

栃	豚	蚊	蜂
栃の木	ぶた	か	はち

いっしょに覚える漢字

梅	芽	梨	爪	虎	苗
菊	芯	猟	蜜	鯨	蓋

この回で読むお話

虎が抜かなかった草

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
草	ソウ くさ	地面に生える植物 草原・雑草・薬草・草木	栃	とち	落葉高木の栃 栃の木・栃木・栃餅・栃葉
森	シン もり	木が多く生い茂る所 森林・森・森林帯・鎮守の森	豚	トン ぶた	家畜のぶた 養豚・豚肉・子豚・河豚
虫	チュウ むし	小さな生き物、とくに昆虫 昆虫・害虫・虫害・虫眼鏡	蚊	ブン か	血を吸う種類もある昆虫 蚊帳・蚊・蚊取り・蚊柱
馬	バ うま ま	家畜の馬 馬匹・乗馬・馬車・軍馬	蜂	ホウ はち	群れを作る種類もある昆虫 蜂蜜・蜜蜂・蜂巣・蜂起

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
梅	バイ うめ	梅の木や実 梅林・梅雨・梅干し・紅梅	菊	キク	秋に花をつけるキク科の植物 菊花・白菊・野菊・菊人形
芽	ガ め	植物が伸び始める部分 発芽・新芽・萌芽・芽生え	芯	シン	物の中心部分など 芯・鉛筆の芯・灯芯・芯材
梨	リ なし	果樹の梨やその実 梨畑・山梨・洋梨・梨園	猟	リョウ かり	野生の鳥獣などを捕らえる 狩猟・猟師・猟犬・密猟
爪	ソウ つめ つま	指先の硬い部分／物の先端 爪痕・爪先・鉤爪・生爪	蜜	ミツ	甘く粘りのある液 花蜜・糖蜜・蜜月・蜜腺
虎	コ とら	大型のネコ科動物 虎・白虎・虎視・虎穴	鯨	ゲイ くじら	海に暮らす大型の哺乳類 捕鯨・鯨肉・白鯨・鯨類
苗	ビョウ なえ なわ	植えて育てる若い植物 苗木・種苗・育苗・早苗	蓋	ガイ ふた	容器などを覆う／おおう 木蓋・蓋物・頭蓋・蓋然性

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「森林」に合うものを選びなさい。
ア　木が多く生い茂る所　　イ　食器を入れる木の箱
ウ　馬だけを飼う建物　　エ　全ての植物を抜いた土地

(2)「発芽」に合うものを選びなさい。
ア　花を摘み取ること　　イ　種子から芽が出ること
ウ　木を板へ加工すること　　エ　実を食べ終わること

(3)「花蜜」に合うものを選びなさい。
ア　木の幹の硬い中心　　イ　畑へ敷く砂だけ
ウ　花が分泌する甘い液　　エ　蜜蜂の体そのもの

(4) ここでの「狩猟」に合うものを選びなさい。
ア　花を畑へ植えること　　イ　家畜に餌を与えること
ウ　虫の絵を紙に描くこと　　エ　野生の鳥や獣などを捕らえること

(5)「木蓋」に合うものを選びなさい。
ア　木で作った、容器などを覆うもの　　イ　木から生える若い芽
ウ　木の下を通る道　　エ　木を運ぶ馬車の車輪

(6) この回の「芯」に合うものを選びなさい。
ア　必ず植物の花びらだけを表す。　　イ　どんな物でも外側だけを表す。
ウ　中心にある部分などを表す。　　エ　動物の種類を数える。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　木蓋　昆虫　新芽　発芽　草原　生爪　狩猟
苗木　蚊帳　森林　野菊　花蜜　乗馬　虫害

文	解答	文	解答
(1) 地面に広がる □□を歩く。		(8) 野生の鳥獣を捕る □□の話を聞く。	
(2) 木々が生い茂る □□の外へ出る。		(9) 木でできた □□を箱に載せる。	
(3) 六本の脚を持つ □□を図で調べる。		(10) 作物が受けた □□の程度を調べる。	
(4) 馬に乗る □□を体験する。		(11) 蚊を防ぐ □□の中で休む。	
(5) 木の若い □□を植える。		(12) 畑の若い □□を観察する。	
(6) 植物が芽を出す □□の日を記す。		(13) 野に咲く □□の絵を描く。	
(7) 花の甘い液の □□を集める。		(14) 指先の □□を短く整える。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「害虫」と「昆虫」に合うものを選びなさい。

畑の作物を食べた昆虫を害虫と呼んだが、別の昆虫は花粉を運んでいた。

ア　昆虫は全て同じ作物を食べる。
イ　害虫は昆虫とは別の動物の分類名だ。
ウ　作物への害という見方と、生き物の分類を分けている。
エ　花粉を運べば、ほかの働きは一切ない。

（2）この「苗木」と「発芽」に合うものを選びなさい。

苗木を植えた日と、別の種が発芽した日をノートに分けた。

ア　どちらも花が咲いた日だ。
イ　若い木を植える作業と、種が芽を出す変化を分けている。
ウ　苗木は必ず枯れた木だ。
エ　発芽した植物は同じ日に全て実る。

（3）この「虎の爪」と「爪痕」に合うものを選びなさい。

虎の爪を描いたあと、嵐の被害を爪痕と呼ぶ文章を読んだ。

ア　どちらも虎が実際に引っかいた証拠だ。
イ　嵐には必ず硬い爪がある。
ウ　爪痕には比喩の用法がない。
エ　体の一部と、被害の跡を表す比喩を区別している。

（4）この「鯨」と「魚」に合うものを選びなさい。

鯨は海に暮らすが、魚ではなく哺乳類だと図鑑で確かめた。

ア　暮らす場所だけで同じ分類にはしていない。
イ　海にいれば全て魚である。
ウ　哺乳類は海では暮らせない。
エ　図鑑に載る動物は全て同じ種類だ。

（5）「芽生え」を使い、植物か気持ちの変化が分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「虫眼鏡」を使い、何を詳しく見たかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 庭の**クサキ**を手入れする。	
(2) 地図に**シンリンタイ**の広がりを示す。	
(3) 作物を食べる**ガイチュウ**の対策を考える。	
(4) 物語で、**バシャ**が村へ着いた。	
(5) 地図で**トチギ**の位置を確かめる。	
(6) 豚を育てる**ヨウトン**の仕事を学ぶ。	
(7) 夕方の川辺に**カバシラ**が立つ。	
(8) パンに**ハチミツ**を塗る。	
(9) 雨の多い**ツユ**の季節を迎える。	
(10) 歌舞伎役者の世界を「**リエン**」という。	
(11) 靴の**ツマサキ**についた土を払う。	
(12) 虎のすむ**コケツ**という語を調べる。	
(13) 苗を育てる**イクビョウ**の作業を手伝う。	
(14) 花瓶に**キッカ**を生ける。	
(15) 物の中心を支える**シンザイ**を選ぶ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 養蜂	(17) 萌芽	(18) 猛虎	(19) 猟犬	(20) 蓋然性

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ畑には、誰の用事が重なるでしょうか。
役立つかどうかだけでなく、何をしているかを見てみましょう。

七　文章の中で考えよう

虎が抜かなかった草

虎が畑を借りた日、馬は荷車で梨の苗木と豆の種を運んできた。森の端、梅の木の隣だ。狩猟の物語ばかり読んでいた虎は、今度は食べ物を育てる話を自分で始めたくなった。大きな爪で、種を一粒ずつつまんだ。

目標は、草も虫もない、きれいな畑だった。草を抜き、梨の花に来た蜂も帽子で追った。栃の木陰にいた豚が、蜂は何をしていたのかと聞く。「虫だから、葉を食べるんだろう。」虎は、どの葉かまでは見ていなかった。

翌朝、帽子を置いて待った。やって来た蜜蜂は、梨の花へ頭を入れ、次の花へ移る。花蜜を集め、体についた花粉も運んでいた。虎が見ている間、その蜂は豆の葉を食べなかった。

けれど、豆の新芽の葉には、虫にかじられた跡があった。

虎は虫眼鏡を持ち出した。同じ虫と呼んでも、していることは違うらしい。葉の裏にいた虫と、花へ来た蜂を別々に描く。小さな脚を数えるうち、鉛筆の芯が折れた。豚は削り器を貸し、虎が太い爪で回すのを見守った。

夕方には蚊が飛んできた。刺されるのは困ると豚が言い、自分の家では蚊帳を使うと教えた。畑に来る虫を観察することと、家で休む人を守ることは、一つの決まりにしなくてよさそうだった。虎も帰る前に、袖を下ろした。

秋、畑の端に菊に似た花が咲いた。名前はまだ知らない。虎は抜いて調べるため、木の蓋のある箱を持ってきた。花の上には、また小さな虫がいる。伸ばした爪を戻し、花を残して、咲いた場所を紙に描いた。豆は収穫できたが、どの虫がどれだけ助けたかまでは決めなかった。

その夜、海の鯨から手紙が届いた。「こちらにも、いろいろな用事があります。」虎は畑の絵を返事に入れ、海も忙しいのだろうと書きかけた。鯨の用事を、まだ一つも聞いていない。便せんを裏返すと、今度は、最近何をしているのかと尋ねた。

話す動物や畑の出来事は創作です。実際の栽培・虫の飼育や対処の手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

虎の決めつけと、実際に観察したことを分けて答えなさい。

（1）本文から、虎が観察した、花蜜を集める蜂の名を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）鯨を捕らえることを表す「ホゲイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）蜂について、虎が最初に確かめず決めていたことを選びなさい。

ア　どの花へ移るかを観察したこと。
イ　虫だから葉を食べるはずだということ。
ウ　花の名前がまだ分からないこと。
エ　全ての豆の収穫数を数えたこと。

（4）秋の虎の行動として本文に合うものを選びなさい。

ア　花を抜き、箱へ入れてから名前を調べた。
イ　豆の収穫は全て蜂のおかげだと証明した。
ウ　全ての虫が人を刺さないと決めた。
エ　花を残し、どの虫が収穫を助けたかまでは決めなかった。

（5）虎が虫を全て追い払う考えを見直した理由を、
蜂の行動と豆の葉の様子を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）虎の畑を、「作物」「用事」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
観察した違いと、全てを同じ決まりにしない考えを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十四回　作物と生態

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　木々が多く生える場所。森の中の生き物まで、木だけに限る語ではない。
（2）イ　植物が伸び始める段階。開花や収穫とは区別する。
（3）ウ　花にある甘い液。蜂蜜とは成り立ちも含めて語全体で確かめる。
（4）エ　野生の鳥獣などを捕らえること。動物を見る行為を全て狩猟とは呼ばない。
（5）ア　材質と働きを組み合わせた語。蓋があるだけで中身までは分からない。
（6）ウ　鉛筆の芯や灯芯など、何の中心部分かを確かめる。心など似た形の字も区別する。

四　熟語を広げよう

（1）草原　（2）森林　（3）昆虫　（4）乗馬　（5）苗木
（6）発芽　（7）花蜜　（8）狩猟　（9）木蓋　（10）虫害
（11）蚊帳　（12）新芽　（13）野菊　（14）生爪

花蜜は花から出る液、蜂蜜は蜂が集めた蜜をもとにしたもの。（10）虫害は、虫によって受ける害。人にとっての害や役立ちだけで、生き物の全ての関係を決めない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　害虫は人の作物などへの害に着目した呼び方。どの虫が何をしたかを読む。
（2）イ　人の作業と植物の変化は同じ出来事ではない。対象も別だと本文から分かる。
（3）エ　同じ字でも、実物を指すか比喩かを確かめる。比喩を動物の生息の証拠にしない。
（4）ア　場所や見た目だけで分類しない。物語の擬人化と、実際の動物の分類も分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

友人の畑を手伝ううちに、自分でも豆を育てたい気持ちが芽生えた。

☆自分で確かめる点　何が生まれ始めたか、場面から分かるか。

（6）解答例

落ちた葉を虫眼鏡で見ると、小さな穴の縁までぎざぎざしていた。

☆自分で確かめる点　道具を使って見た対象と、分かった様子を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）草木　（2）森林帯　（3）害虫　（4）馬車　（5）栃木
（6）養豚　（7）蚊柱　（8）蜂蜜　（9）梅雨　（10）梨園
（11）爪先　（12）虎穴　（13）育苗　（14）菊花　（15）芯材
（16）ようほう　（17）ほうが　（18）もうこ　（19）りょうけん　（20）がいぜんせい

（10）梨園は、ここでは歌舞伎役者の社会。（12）虎穴は虎のすむ穴。（14）菊花は菊の花。（15）芯材は中心となる材料。（20）蓋然性は、ある事が起こる確からしさの度合い。

七　文章の中で考えよう

（1）蜜蜂　虎が観察した蜂。本文では、花蜜と花粉を運ぶ行動が描かれる。
（2）捕鯨　鯨を捕らえること。狩猟とは、対象を示す語も比べて読む。
（3）イ　どの虫が何をしたかを確かめず、虫全体へ広げた。
（4）エ　分かったことと、まだ決められない因果を分けている。

七　記述問題の考え方

（5）　全ての虫を追わない理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

豆の葉は食べられていても、蜂には花蜜を集めて花粉を運ぶ働きがあり、虫を全て同じ害と決められないから。

（5）別解例　51 字

葉を食べた跡だけで虫全体を判断せず、蜂が花を移る行動を見て、作物への関わりには違いがあると知ったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 豆の葉に実際の食べ跡があることを残したか。
② 蜂の行動や花粉を運ぶ働きを結んだか。
③ 虫は全てよい、という逆の一括りにしていないか。

虫の種類ごとの働きは一つではない。本文で観察・説明された範囲で答える。

（6）　虎の畑の紹介 70〜90 字

（6）解答例　85 字

虎は作物だけでなく、花蜜を集める蜂などの用事にも目を向けます。葉の食べ跡も確かめ、全ての虫を同じ害とはしません。畑の端の草は残し、休む家とは場所ごとに扱いを考える畑です。

（6）別解例　87 字

作物を育てる虎は、虫にも花蜜を集めるなど別の用事があると知りました。葉が食べられた事実も消さず、虫全体を敵や味方にしません。草を残す端や休む家を分け、様子を見ながら考えます。

☆（6）自分で確かめる点

①「作物」「用事」を使ったか。
② 蜂の働きと、葉を食べられた事実を両方残したか。
③ どの虫のおかげで収穫したかを確定していないか。

実際の畑を管理する方法の提案ではなく、この物語の虎の見方を紹介する。

漢字から文章へ 第五冊

第十五回

形状と加工

祖母への贈り物に、昔の家の模型を作っています。
いちばんよくできた屋根を、最後に外すことにしました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

色	丸	紙	黒
色 様子	円い形 まとまり	薄く広げた素材	くろい色

銅	紅	璃	鍵
赤みのある金属	鮮やかな赤	玉やガラスに関わる	錠を開く 手がかり

いっしょに覚える漢字

綿	鏡	瓦	凸	凹	鈴
銘	鉛	塊	墨	羅	材

この回で読むお話

屋根を外す贈り物

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
色	ショク シキ いろ	光の違いで見える性質／様子 色彩・特色・景色・色調	銅	ドウ あかがね	赤みを帯びた金属元素 青銅・銅器・銅線・銅山
丸	ガン まる まるい まるめる	円形／まとまり 丸形・丸い・弾丸・丸太	紅	コウ ク べに くれない	鮮やかな赤色 紅花・紅色・口紅・紅葉
紙	シ かみ	植物繊維などを薄く広げた素材 和紙・紙面・紙幣・製紙	璃	リ	玉やガラスに関わる字 瑠璃・瑠璃色・玻璃
黒	コク くろ くろい	光をほとんど反射しない色 黒曜石・黒色・暗黒・黒土	鍵	ケン かぎ	錠を開く道具／大切な手がかり 鍵穴・鍵・合鍵・鍵盤

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
綿	メン わた	綿花から採る繊維 綿布・木綿・綿花・脱脂綿	銘	メイ	物に刻んだ名や言葉 銘文・銘柄・感銘・碑銘
鏡	キョウ かがみ	光を反射して像を映すもの 銅鏡・鏡面・望遠鏡・手鏡	鉛	エン なまり	重く柔らかい金属元素 鉛板・鉛筆・鉛色・亜鉛
瓦	ガ かわら	屋根などに用いる焼き物 瓦・瓦屋根・煉瓦・瓦版	塊	カイ かたまり	一つに固まったもの 金属塊・岩塊・団塊・塊状
凸	トツ でこ	周りより突き出る 凸面・凸形・凹凸・凸版	墨	ボク すみ	黒い文字や絵を書く材料 墨書・水墨・墨色・墨跡
凹	オウ くぼむ へこむ	周りよりくぼむ 凹面・凹形・凹凸・凹版	羅	ラ	薄い絹布／並べ連ねる 羅列・網羅・羅紗・羅針盤
鈴	レイ リン すず	振ると音が鳴る小さな器具 銅鈴・風鈴・鈴音・鈴蘭	材	ザイ	物を作るもと／役に立つ人 材料・木材・素材・人材

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「色彩」に合うものを選びなさい。
ア　物の重さだけ　　イ　色や、色の組合せ
ウ　家の鍵の形だけ　　エ　作った人の年齢

(2)「素材」に合うものを選びなさい。
ア　完成した作品の値段だけ　　イ　物の置き場所だけ
ウ　物を作るもとになる材料など　　エ　作業を終えた時刻だけ

(3)「凸面」に合うものを選びなさい。
ア　外側へふくらんだ面　　イ　内側へくぼんだ面
ウ　必ず平らである面　　エ　必ず透明な面

(4)「凹面」に合うものを選びなさい。
ア　金属だけで作る面　　イ　必ず丸く飛び出した面
ウ　音を出すためのひも　　エ　内側へくぼんだ面

(5)「銘文」に合うものを選びなさい。
ア　材料を並べた作業台　　イ　器物や碑などに刻んだ文字や文章
ウ　必ず紙へ印刷した値札だけ　　エ　家の中を映す窓だけ

(6)「羅列」に合うものを選びなさい。
ア　ひもを強く結ぶこと　　イ　色を一色に変えること
ウ　項目などを並べ連ねること　　エ　鏡で姿を映すこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　綿布　和紙　凸面　紅色　色彩　銘文　合鍵
銅器　瓦　丸形　凹面　瑠璃色　暗黒　手鏡

文	解答	文	解答
(1) 絵の色の組合せの□□を考える。		(8) 同じ錠を開ける□□を預ける。	
(2) 紙の□□の窓を切る。		(9) 綿の糸で織った□□を選ぶ。	
(3) 昔の□□の書き味を見る。		(10) 像を映す□□をのぞく。	
(4) 光が届かない□□の場面を描く。		(11) 屋根を覆う□の模型を作る。	
(5) 銅でできた□□を展示する。		(12) 外へふくらむ□□を調べる。	
(6) 鮮やかな赤の□□を選ぶ。		(13) 中へくぼんだ□□を調べる。	
(7) 深い青の□□□を窓へ使う。		(14) 物に刻んだ□□を読む。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「瑠璃色」と「素材」に合うものを選びなさい。

窓は瑠璃色に見えるが、模型では透明な紙を使った。

ア　青く見えれば必ず宝石である。
イ　紙には色を付けられない。
ウ　色と、実際に使った材料を分けている。
エ　模型の材料は元の家と全て同じだ。

（2）この「鍵」と「手がかり」に合うものを選びなさい。

家の鍵は見つからないが、祖母の話が模型を直す鍵になった。

ア　後ろは、考えを進める大切な手がかりという意味だ。
イ　前も後ろも必ず同じ金属の道具だ。
ウ　鍵がなければ家の話はできない。
エ　後ろは祖母が錠へ入ったという意味だ。

（3）この「鉛筆」と「鉛」に合うものを選びなさい。

鉛筆の芯は黒鉛と粘土が主な材料で、金属の鉛そのものではない。

ア　名前に鉛があれば芯は全て金属の鉛だ。
イ　黒鉛と鉛は同じ物質の別名だ。
ウ　鉛筆には芯がない。
エ　語の中の字だけで実際の材料を決めていない。

（4）この「羅列」と「説明」に合うものを選びなさい。

紙と綿布を羅列するだけでなく、軽くするために選んだと書いた。

ア　材料名を書けば目的は全て伝わる。
イ　材料の名前と、選んだ理由を結んでいる。
ウ　羅列した項目は必ず同じ材料になる。
エ　理由は作品と関係なく書く。

（5）「色調」を使い、全体の色の様子が分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「感銘」を使い、何のどこに心を動かされたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 進む方角を**ラシンバン**で調べる。	
(2) 山から運んだ**マルタ**を並べる。	
(3) 財布に入る**シヘイ**を確かめる。	
(4) 花壇の**コクド**を掘り返す。	
(5) 工作に使う**ドウセン**を切る。	
(6) 人形の唇に**クチベニ**を塗る。	
(7) ピアノの**ケンバン**を拭く。	
(8) 肌触りのよい**モメン**の布を選ぶ。	
(9) 光が映る**キョウメン**を磨く。	
(10) 家の壁に赤い**レンガ**を使う。	
(11) 軒先の**フウリン**が鳴った。	
(12) 短くなった**エンピツ**を削る。	
(13) 崖から落ちた**ガンカイ**を観察する。	
(14) 札へ筆で**ボクショ**する。	
(15) 棚を作る**モクザイ**を選ぶ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 銅鈴	(17) 銘柄	(18) 黒鉛	(19) 網羅	(20) 凸版

この回を終えたら もう一度確かめる

外からそっくりなら、贈り物は完成でしょうか。
見せたいことと、触れて使う人の様子を結んで考えましょう。

七　文章の中で考えよう

屋根を外す贈り物

葵は古い写真を机に立てた。丸い窓、黒い瓦、紅色の門。祖母が以前住んでいた家を模型にして贈りたい。今はもう、その家の鍵もない。鉛筆で寸法を書き、写真の色彩に近い紙を探した。

材料は、紙、綿の布、透明な瑠璃色の紙と、次々に羅列できた。同じ色でも、元の家と同じ物で作るわけではない。粘土の塊を薄く延ばした瓦には、指で凸と凹をつけた。並べると、光の当たり方が一枚ずつ違った。

本棚の古い銅の鈴は、模型には大きすぎた。小さな札へ絵を描いて添えた。庭の石の銘文は、写真から一部しか読めなかった。読めた所だけ墨で書き、あとは埋めずにおいた。

祖母は模型をのぞき、「あの部屋、まだあるの。」と言った。葵が幼いころ昼寝をした部屋だという。小さな手鏡や布団も作ってあるのに、屋根を載せると見えない。葵は持ち上げて傾けたが、祖母は机に置いたまま眺めたいと言った。粘土の屋根は、何度も外すには重かった。

葵は、外から似て見えることばかり考えていた。祖母にもう一度あの家と会ってもらうなら、奥の部屋も大切らしい。屋根を軽い紙で作り直し、すっと外せる形にした。以前の屋根を捨てようとして指が止まる。あの不ぞろいな手触りは好きだった。一片を残し、札の横へ置いた。

翌日、祖母は自分で屋根を外した。手鏡のある部屋を見て、葵が眠るまで隣に座っていた話をした。窓の外の物売りの声で、葵が起きそうになったこともあるという。葵には覚えがない。写真から作った部分と、いま祖母から聞いた話を、別の紙に残した。

模型は祖母の机へ落ち着いた。葵は残した屋根の小片を指で押さえ、それから奥の部屋をのぞいた。低い窓を通った午後の光が、布団の端に届いている。ここで眠っていた自分は、こんな色を見ただろうか。祖母は隣で、また窓の話を始めた。

家・人物・模型の出来事は創作です。実際の工作や素材加工の手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

模型を作った目的と、祖母の言葉を結んで答えなさい。

（1）本文から、葵が鉛筆で書いた、物の長さや大きさを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）銅で作った鏡を表す「ドウキョウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）写真からは分からない文字を、葵はどうしたか選びなさい。

ア　全て読めたことにして同じ文を作った。
イ　石に文字はなかったと決めた。
ウ　読めた所だけ書き、分からない所は埋めなかった。
エ　全て祖母の名前へ置き換えた。

（4）屋根を直したあとの模型に合うものを選びなさい。

ア　元の家と全て同じ材料になった。
イ　置いたまま奥を見られ、以前の屋根の小片も残った。
ウ　奥の部屋はなくなり、外見だけになった。
エ　祖母が立って持ち続ける必要ができた。

（5）葵が屋根を外せるようにした理由を、
贈り物の目的と祖母の希望を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）模型を、「屋根」「素材」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
作り直した目的と、残したものの違いを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十五回　形状と加工

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　色そのものや組合せに関わる語。材質や重さまでは、その語だけでは分からない。
（2）ウ　作品を作るもとになるもの。外見が似た物でも、同じ素材とは限らない。
（3）ア　突き出る方向に着目する。色や透明さとは別の性質。
（4）エ　凹凸の凹。素材の種類ではなく形を表している。
（5）イ　物に刻まれた文字など。何を刻んだか、いつ加わったかは別に確かめる。
（6）ウ　項目を並べること。羅列しただけで、項目同士の関係まで説明できたとは限らない。

四　熟語を広げよう

（1）色彩　（2）丸形　（3）和紙　（4）暗黒　（5）銅器
（6）紅色　（7）瑠璃色　（8）合鍵　（9）綿布　（10）手鏡
（11）瓦　（12）凸面　（13）凹面　（14）銘文

凸面と凹面は形の違い。色や素材の違いとは分ける。（4）暗黒は光がなく暗いこと。「材」は第二冊第十六回からの再会字。作品の目的と材料の選び方を結んで読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　色名だけで材質を決めない。見た目を似せる再現と、同じ材料を使う再現は異なる。
（2）ア　前は道具、後ろは比喩。同じ字でも文中の働きを確かめる。
（3）エ　鉛筆の芯を金属の鉛とはしない。道具の名称と、その材料の説明を分ける。
（4）イ　何を使うかに加え、何のために選んだかが分かる説明になっている。

五　自分で書く問題

（5）解答例

青を多く使う色調にそろえると、夕暮れの静かな町らしく見えた。

☆自分で確かめる点　一部分の色だけでなく、全体の色の様子を示したか。

（6）解答例

祖父が失敗した作業も隠さず話したことに感銘を受け、記録を読み直した。

☆自分で確かめる点　心を動かされた対象と、その理由が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）羅針盤　（2）丸太　（3）紙幣　（4）黒土　（5）銅線
（6）口紅　（7）鍵盤　（8）木綿　（9）鏡面　（10）煉瓦
（11）風鈴　（12）鉛筆　（13）岩塊　（14）墨書　（15）木材
（16）どうれい　（17）めいがら　（18）こくえん　（19）もうら　（20）とっぱん

（1）羅針盤は、方角を知るための道具。（16）銅鈴は銅製の鈴。（18）黒鉛は炭素からなる物質で、鉛とは異なる。（19）網羅は、残らず集めたり取り入れたりすること。

七　文章の中で考えよう

（1）寸法　葵が模型作りの初めに鉛筆で書いた、長さや大きさ。
（2）銅鏡　銅で作った鏡。手鏡は持ち方や形、銅鏡は材料に着目した呼び方。
（3）ウ　読めた範囲と、不明な部分を分けた。
（4）イ　見るための変更と、前の手触りの保存を両立させた。

七　記述問題の考え方

（5）　屋根を外せるようにした理由 45〜55 字

（5）解答例　54 字

祖母が昔の家に会える贈り物にしたく、外見だけでなく、机へ置いたまま思い出の奥の部屋も見られるようにするため。

（5）別解例　54 字

写真どおりの外形を作るだけでは祖母の希望に応えられず、持ち上げずに思い出の部屋を見てもらえるようにするため。

☆（5）自分で確かめる点

① 昔の家に会える贈り物という目的を示したか。
② 奥の部屋を見たい希望と、置いて見る形を結んだか。
③ 最初の工作に価値がなかったとはしていないか。

外見の正確さを一律に否定せず、贈る相手の目的に合わせた変更として説明する。

（6）　模型の紹介 70〜90 字

（6）解答例　85 字

写真の家に似せた模型ですが、祖母が奥の部屋を見られるよう、屋根は外せる形です。重い瓦の素材を紙へ替え、置いたまま眺められます。前の屋根の小片も残し、手触りを伝えています。

（6）別解例　87 字

屋根を外して、祖母と思い出の部屋を眺める模型です。見た目が同じでも素材は元の家と異なり、軽くするため紙を使いました。屋根の手触りも小片で残し、写真と祖母の話を分けて伝えます。

☆（6）自分で確かめる点

①「屋根」「素材」を使ったか。
② 奥を置いたまま見せる目的と、軽い材料を結んだか。
③ 元の家と全て同じ材料だとはしていないか。

見た目を似せること、扱いやすくすること、前の手触りを残すことを区別して説明する。

漢字から文章へ 第五冊

第十六回

食文化と装い

祖母を祝う茶会で、空いた皿が気になりました。
けれど、次の餅はすぐには載せません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

酒	被	糖	飢
アルコールを含む飲物	おおう 受ける	砂糖 糖分など	食べ物がなく苦しむ

扉	酢	煎	餅
開閉する戸	酸味のある調味料	いる 煮出す	穀物などから作る食品

いっしょに覚える漢字

板	豆	香	幕	甘	粘
畳	帽	酌	宛	瑠	襲

この回で読むお話

餅を載せなかった皿

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
酒	シュ さけ さか	アルコールを含む飲み物 酒宴・日本酒・飲酒・酒造	扉	ヒ とびら	開閉する戸 扉・門扉・鉄扉・扉絵
被	ヒ こうむる おおう かぶる	おおう／受ける 被服・被害・被る・被せる	酢	サク す	酸味のある調味料 食酢・酢酸・甘酢・米酢
糖	トウ	砂糖／糖分などに用いる 砂糖・糖分・果糖・製糖	煎	セン いる せんじる	熱して水分を飛ばす／煮出す 煎茶・煎餅・煎じる・焙煎
飢	キ うえる	食べ物がなく苦しむ 飢饉・飢餓・飢える・飢寒	餅	ヘイ もち	穀物をついて作る食品 餅・餅米・鏡餅・煎餅

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
板	ハン バン いた	薄く平たい材 板戸・板材・黒板・看板	畳	ジョウ たたむ たたみ	重ねる／敷物 畳・畳表・折り畳む・重畳
豆	トウ ズ まめ	豆科植物の種 大豆・小豆・豆類・豆腐	帽	ボウ モウ	頭にかぶるもの 烏帽子・帽子・脱帽・制帽
香	コウ キョウ か かおり かおる	よいにおい 香辛料・香料・線香・香り	酌	シャク くむ	酒をくむ／事情を考える 酌・晩酌・酌量・手酌
幕	マク バク	仕切りや覆いにする布 天幕・幕府・開幕・暗幕	宛	あてる あて	送り先などを示す 宛名・宛先・宛てる
甘	カン あまい あまえる あまやかす	砂糖などの味／厳しくない 甘味・甘酒・甘口・甘受	瑠	ル	瑠璃などに用いる字 瑠璃・瑠璃色・瑠璃玉・浄瑠璃
粘	ネン ねばる	ねばりつく／持ちこたえる 粘性・粘土・粘着・粘り	襲	シュウ おそう かさね	おそう／受け継ぐ／重ねる 襲撃・世襲・襲名・襲の色目

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「被服」に合うものを選びなさい。
ア　料理の材料だけ　　イ　体を覆う衣服
ウ　食器を覆う木の蓋だけ　　エ　建物の扉だけ

(2)「飢饉」に合うものを選びなさい。
ア　食料の不足に苦しむこと　　イ　料理の色を選ぶこと
ウ　客へ手紙を送ること　　エ　衣服をたたむこと

(3)「食酢」に合うものを選びなさい。
ア　衣服へ縫い付ける物　　イ　食事の席の順番
ウ　酸味のある液体の調味料　　エ　料理を載せる板だけ

(4)「宛名」に合うものを選びなさい。
ア　必ず書いた本人の名前だけ　　イ　手紙を開けた日の天候
ウ　送り物の重さだけ　　エ　手紙や荷物を送る相手の名前など

(5)「襲名」に合うものを選びなさい。
ア　芸名や屋号などを受け継ぐこと　　イ　相手を突然攻めること
ウ　衣服を一枚だけ着ること　　エ　食べ物を甘くすること

(6)「酌量」に合うものを選びなさい。
ア　酒の量だけを数えること　　イ　食器の柄を変えること
ウ　事情をくみ取り、考慮すること　　エ　茶を必ず飲み干すこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　板　砂糖　開幕　食酢　日本酒　宛名　鏡餅
門扉　香辛料　被服　甘味　煎茶　飢饉　大豆

文	解答	文	解答
(1) 米などから造る □□□の話を聞く。		(8) 新年に飾る □□の絵を描く。	
(2) 体を覆う □□を整える。		(9) 薄い木の □を壁に掛ける。	
(3) 甘い □□を料理に加える。		(10) 食材の □□を畑で育てる。	
(4) 食料不足の □□を記した本を読む。		(11) 料理に使う □□□の名前を読む。	
(5) 門の開閉に使う □□を直す。		(12) 芝居の始まる □□を待つ。	
(6) 調味料である □□の瓶を並べる。		(13) 甘く感じる □□を言葉にする。	
(7) 湯で入れた □□を客に出す。		(14) 手紙の送り先の □□を書く。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「甘味」と「甘受」に合うものを選びなさい。

料理の甘味を確かめたあと、提案への厳しい意見も甘受した。

ア　前は味、後ろは受け入れることを表す。
イ　どちらも砂糖を増やすことだ。
ウ　甘受したので意見は全て賛成だった。
エ　甘味は相手を攻める行動だ。

（2）この「襲名」と「襲撃」に合うものを選びなさい。

母は店の名を襲名したが、人を襲撃した話ではない。

ア　二つは全く同じ行動だ。
イ　店を継ぐと必ず人を攻める。
ウ　襲名には名前は関係しない。
エ　受け継ぐことと、急に攻めることを区別している。

（3）この「空の皿」と「希望」に合うものを選びなさい。

皿は空だったが、祖母は次の餅ではなく、温かい茶を希望した。

ア　空の皿なら必ず食べ物が不足している。
イ　見える状態と、本人がいま望むことを分けている。
ウ　茶を望んだので前の餅は嫌いだった。
エ　皿が空なのは会へ不参加だからだ。

（4）この「被る」の読み分けに合うものを選びなさい。

帽子を被る場面と、雨で被害を被る場面を読み分けた。

ア　前も後ろも必ず同じ読みだ。
イ　被害も帽子の一種だ。
ウ　前はかぶる、後ろはこうむるという用法だ。
エ　後ろは雨に名前を付けることだ。

（5）「香り」を使い、何のにおいを感じたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「折り畳む」を使い、何をどう片づけたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 酒を造る**シュゾウ**の工程を学ぶ。	
(2) 台風による**ヒガイ**を調べる。	
(3) 菓子に含まれる**トウブン**を調べる。	
(4) 物語に描かれた**キガ**の苦しみを読む。	
(5) 本の最初にある**トビラエ**を眺める。	
(6) 米から作る**コメズ**を使う。	
(7) 皿に丸い**センベイ**を並べる。	
(8) 店の古い**イタド**を開ける。	
(9) あんを作る**アズキ**を煮る。	
(10) 光を遮る**アンマク**を引く。	
(11) 酒の味を表す「**アマクチ**」という語を学ぶ。	
(12) 人形の形を**ネンド**で作る。	
(13) 物語で、父が**バンシャク**を楽しむ。	
(14) 手紙を送る**アテサキ**を確かめる。	
(15) 人形劇に関わる**ジョウルリ**の語りを聞く。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 被せる	(17) 果糖	(18) 烏帽子	(19) 酌量	(20) 世襲

この回を終えたら もう一度確かめる

いつもの好物なら、いつでも同じ量がよいでしょうか。
皿や装いの見た目と、本人の言葉を照らしてみましょう。

七　文章の中で考えよう

餅を載せなかった皿

招待状の宛名を書き終えると、真帆は台所へ急いだ。今日は母が祖母から衣装店「瑠璃屋」の名を襲名したお祝いだ。古い被服と、芝居の開幕に使った人形も飾る。祖母が好きな甘い餅を、真帆はたくさん用意したかった。

大豆や食酢、砂糖を並べ、母に教わって味を整えた。香辛料を使う料理も、板戸の献立へ書き足す。畳の部屋には煎茶を運ぶ。父は大人の客へ酒を酌み、真帆は餅の皿を見て回った。空になれば、すぐ次を載せた。

祖母の皿も空だった。真帆が餅を取ると、祖母は手を上げた。

「いまは、お茶を飲んで話したいな。」昔から甘い物が好きなはずなのに。真帆は餅の粘りがよくなかったのかと聞いた。

祖母は、おいしく食べたよと笑った。飢えた時代に、子どもへ食べさせることを何より考えた話をし、それから、今日はゆっくり顔が見たいと言った。

真帆は餅を戻し、祖母の向かいへ座った。祖母が脱いだ帽子の内側には、小さな布のつぎがあった。「これも、お店の布なの。」聞くと、祖母は昔の衣装の袖だと答えた。重ねた色を表す「襲の色目」の話になり、人形の衣も広げて見せてくれた。

話の途中で、祖母が古い扉の傷を指した。衣装を入れた箱をぶつけた跡だという。真帆は毎日見ていたのに、傷のできたわけを知らなかった。皿ばかり見て歩いていたら、この話も聞けなかっただろう。人形の袖に触れ、誰が着た物なのか、もう一つ尋ねた。

ほかの客にも、次は何がよいか聞いて回った。餅をもう一つ望む人も、茶だけを頼む人もいる。何も勧めなくするのではなく、返事を待てばよかった。祖母は空の皿を脇へ寄せ、二人の間に人形を置いた。片方の袖を真帆が持つと、人形がお辞儀をした。

片づけのとき、真帆は献立の紙を折り畳んだ。その裏へ、聞いた袖の話を書き留める。母が受け継いだのは、店の名だけではなさそうだ。次の招待状では、食べたい物のほかに、聞いてみたい話も尋ねようと思った。扉の傷は、夕方の光で朝より深く見えた。

店・茶会・人物の経験は創作です。調理・栄養や食品の安全についての手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

真帆の予想と、祖母が実際に話した希望を分けて答えなさい。

（1）本文から、店の名などを受け継ぐことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）帽子を脱ぐことを表す「ダツボウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）祖母が最初に皿を空にしたあと望んだことを選びなさい。

ア　茶を飲み、ゆっくり話すこと。
イ　真帆が会を必ず終わらせること。
ウ　全員へ同じ量の餅を配ること。
エ　人形を全て捨てること。

（4）真帆がそのあと変えたことに合うものを選びなさい。

ア　どの客にも何も勧めなくした。
イ　空の皿には必ず餅を載せた。
ウ　次も同じ物でよいか、返事を聞くようにした。
エ　祖母は甘い物が嫌いだと決めた。

（5）真帆が空の皿へすぐ次の餅を載せなくなった理由を、
最初の予想と祖母の言葉を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）茶会の変化を、「皿」「返事」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
食べ物だけではない、もてなしの変化も伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十六回　食文化と装い

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　体を覆い、着るもの。被害のように、受ける意味の語とは分けて読む。
（2）ア　作物の不作などで食料が不足すること。次の菓子が欲しいこととは区別する。
（3）ウ　食用の酢。保存や安全についての具体的な条件は、この語だけから決められない。
（4）エ　送り先の相手を示すもの。差出人の名とは役割が違う。
（5）ア　受け継ぐ用法。襲撃と同じ字でも、語全体の意味は異なる。
（6）ウ　酌は、事情をくみ取る意味でも使う。どんな事情を考えるかは文脈で読む。

四　熟語を広げよう

（1）日本酒　（2）被服　（3）砂糖　（4）飢饉　（5）門扉
（6）食酢　（7）煎茶　（8）鏡餅　（9）板　（10）大豆
（11）香辛料　（12）開幕　（13）甘味　（14）宛名

被服は着る物、被害は害を受けること。被の働きを語全体で確かめる。
襲名は名を受け継ぐこと。襲の全てを攻撃の意味だけで読まない。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　甘受は、与えられたことを受け入れる用法。味覚の甘さとは分ける。
（2）エ　一字だけで意味を固定しない。襲の色目のように、重ねた衣服に関わる用法もある。
（3）イ　空の皿だけで、空腹や好みを決めない。本人の言葉も根拠にする。
（4）ウ　覆う用法と、受ける用法を区別する。送り仮名だけでなく前後の言葉も読む。

五　自分で書く問題

（5）解答例

台所から茶の香りが届き、祖母と話した夕方の食卓を思い出した。

☆自分で確かめる点　においのもとと、感じる場面が分かるか。

（6）解答例

使い終えた布を端から折り畳み、次に広げやすい向きで箱へ入れた。

☆自分で確かめる点　たたむ対象と、そのあとの扱いが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）酒造　（2）被害　（3）糖分　（4）飢餓　（5）扉絵
（6）米酢　（7）煎餅　（8）板戸　（9）小豆　（10）暗幕
（11）甘口　（12）粘土　（13）晩酌　（14）宛先　（15）浄瑠璃
（16）かぶせる　（17）かとう　（18）えぼし　（19）しゃくりょう　（20）せしゅう

（5）扉絵は、本の初めなどに置く絵。（7）煎餅と鏡餅は読みも形も異なる。（15）浄瑠璃は三味線の伴奏などで物語を語る芸能。（19）酌量は事情をくみ取ること。（20）世襲は地位や職などを代々受け継ぐこと。

七　文章の中で考えよう

（1）襲名　母が祖母から瑠璃屋の名を継ぐこと。
（2）脱帽　帽子を脱ぐこと。相手の力量などに感服する意味でも使う。
（3）ア　餅がおいしかったことも、いまは茶と話を望むことも話した。
（4）ウ　勧めることをやめず、相手が選ぶ返事も待つようになった。

七　記述問題の考え方

（5）　次の餅をすぐ載せない理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

好物をよく食べれば喜ぶと思ったが、祖母は餅をおいしいとしつつ、今は茶を飲んで話したいと希望したから。

（5）別解例　53 字

空の皿だけで次も餅が欲しいと決めず、おいしかったが今は茶と話を望むという祖母の言葉を聞いて考え直したから。

☆（5）自分で確かめる点

① 最初は好物や空の皿から予想していたと示したか。
② いまは茶と話を望む祖母の言葉を結んだか。
③ 祖母が餅を嫌いだという結論にしていないか。

過去の経験や好物を否定せず、現在の希望を別に聞くこととして説明する。

（6）　茶会の変化の紹介 70〜90 字

（6）解答例　88 字

真帆は空いた皿へすぐ餅を足さず、次も同じ物でよいか尋ねて返事を待つようになりました。餅を好む人にも茶だけを望む人にも応じ、祖母の人形の話にも座って耳を傾ける茶会へ変わりました。

（6）別解例　87 字

空の皿は、同じ餅を足してよい印とは限りません。真帆は祖母の返事を聞き、食べ物を配るだけでなく、一緒に話す時間ももてなしに加えました。他の客にも希望を尋ね、選んでもらいました。

☆（6）自分で確かめる点

①「皿」「返事」を使ったか。
② 希望を聞くことと、話を聞く時間を結んだか。
③ 全員に同じ食べ方や量を求める紹介にしていないか。

食べる量の多い少ないに順位を付ける問題ではない。本文の会で何が変わったかを読む。

漢字から文章へ 第五冊

第十七回

技法・工程・輸送

小さな船が、初めて瓶を向こう岸へ運びました。
でも「帆を直したから成功した」とは、まだ書けないようです。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

算	船	矢	穴
数を求める 見込む	水上を進む乗り物	弓で射る 方向の形	くぼみ 通る空間

酸	垂	瓶	搭
すっぱい 酸素など	下へたれる	口の狭い容器など	乗り物に載せる

いっしょに覚える漢字

弓	突	柄	帆	軌	舶
艇	弄	墳	擦	縛	窯

この回で読むお話

向こう岸までの三十秒

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
算	サン	数を計る／見込みを立てる 計算・算数・予算・換算	酸	サン すい	すっぱい／酸素などに用いる 酸味・酸性・酸素・炭酸
船	セン ふね ふな	水上を進む乗り物 船体・船員・造船・風船	垂	スイ たれる たらす	下へたれる 垂直・垂線・懸垂・垂木
矢	シ や	弓で射る道具／方向を示す形 矢印・弓矢・矢先・一矢	瓶	ビン かめ	口の狭い容器など 瓶・花瓶・土瓶・瓶詰
穴	ケツ あな	くぼんだ所／向こうへ通じる空間 穴・洞穴・風穴・穴場	搭	トウ	乗り物に載せる／組み入れる 搭載・搭乗・搭載量・搭載品

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
弓	キュウ ゆみ	弦を張り矢を射る道具 弓・弓術・洋弓・弓形	艇	テイ	小型の船 小艇・艦艇・競艇・救命艇
突	トツ つく	勢いよく押し当てる／急に出る 突起・衝突・煙突・突然	弄	ロウ もてあそぶ いじる	手でいじる／思うままに扱う 翻弄・弄ぶ・愚弄・弄する
柄	ヘイ がら え	持つ部分／模様や性質 矢柄・図柄・人柄・作柄	墳	フン	土を盛った墓 古墳・墳丘・墳墓・円墳
帆	ハン ほ	風を受け船を進める布 帆船・帆走・出帆・帆柱	擦	サツ する すれる こする こすれる	こすれ合う 摩擦・擦過傷・擦る・擦れ
軌	キ	車輪の通る跡／一定の道筋 軌道・軌跡・常軌・軌間	縛	バク しばる	ひもなどで結び動けなくする 結縛・束縛・捕縛・緊縛
舶	ハク	大きな船 船舶・舶来・舶載・商舶	窯	ヨウ かま	陶器などを高温で焼く設備 窯・窯元・登窯・窯業

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「換算」に合うものを選びなさい。
ア　数値を別の単位などに直して表すこと　　イ　数を全て同じに消すこと
ウ　船の形を必ず丸くすること　　エ　計算せずに値段を決めること

(2)「搭載」に合うものを選びなさい。
ア　瓶の色を塗ること　　イ　乗り物などへ荷物や装置を積み載せること
ウ　必ず人が船から降りること　　エ　穴を全てふさぐこと

(3)「垂直」に合うものを選びなさい。
ア　どんな線とも同じ向きであること　　イ　必ず地面に沿って水平なこと
ウ　基準となる線や面と直角であること　　エ　必ず曲線であること

(4)「翻弄」に合うものを選びなさい。
ア　予定どおりに全て管理すること　　イ　同じ物を二つに分けること
ウ　道具の柄を付けること　　エ　思いのままに振り回すことや、振り回されること

(5)「摩擦」に合うものを選びなさい。
ア　物と物がこすれ合うこと　　イ　船を数える単位
ウ　瓶へ水を入れる時刻　　エ　何でも抵抗なく滑ること

(6)「窯業」に合うものを選びなさい。
ア　作物へ水を与える仕事だけ　　イ　船の荷物を数える仕事だけ
ウ　陶磁器などを焼いて作る工業　　エ　必ず金属を切る作業だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　弓術　矢印　帆船　垂直　予算　摩擦　搭載
酸味　図柄　船体　軌道　花瓶　洞穴　衝突

文	解答	文	解答
(1) 使える費用の□□を立てる。		(8) 荷物を船に□□する。	
(2) 船の本体である□□を作る。		(9) 弓で矢を射る□□の話を読む。	
(3) 方向を示す□□を描く。		(10) 二台の模型がぶつかる□□を避ける。	
(4) 道が通り抜ける□□を調べる。		(11) 絵の模様や構図の□□を選ぶ。	
(5) すっぱい味の□□を表す。		(12) 帆で進む□□の模型を作る。	
(6) 水平な線と直角になる□□の線を引く。		(13) 動く物の道筋の□□を図にする。	
(7) 花を生ける□□を置く。		(14) こすれ合う□□を確かめる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「酸味」と「酸素」に合うものを選びなさい。

果物の酸味を表す語と、気体の酸素を表す語を分けて読んだ。

ア　どちらも同じ果物の名前だ。
イ　酸素は必ずすっぱい飲み物だ。
ウ　同じ酸の字でも、語全体では別のものを表す。
エ　酸味は空気の量だけを表す。

（2）この「帆船」と「船舶」に合うものを選びなさい。

帆船は船舶の一種だが、船舶が全て帆船とは限らない。

ア　帆を使う船と、船を広く呼ぶ語の範囲を区別している。
イ　二つは必ず別の乗り物である。
ウ　船舶には水上の乗り物は含まれない。
エ　帆船は船ではなく瓶の一種だ。

（3）この「条件」と「原因」に合うものを選びなさい。

帆の大きさと風の当て方を同時に替え、二回目だけ成功した。

ア　帆だけが原因だと確定できる。
イ　風の当て方は結果へ一切関係しない。
ウ　一回目の記録は全て不要だ。
エ　どちらの変更がどう働いたかは、まだ分けて確かめられない。

（4）この「窯」と「釜」に合うものを選びなさい。

瓶を焼く窯と、湯を沸かす釜の字を区別して書いた。

ア　二つとも必ず同じ道具だ。
イ　用途が違う道具を、同じかまという音だけで書き換えない。
ウ　窯は必ず水をためる瓶だ。
エ　釜には湯を入れられない。

（5）「突起」を使い、何のどこが出ているかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「軌跡」を使い、実際に動いた道筋が分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 必要な金額を**ケイサン**する。	
(2) 大きな船を造る**ゾウセン**の仕事を学ぶ。	
(3) 物語に出てくる**ユミヤ**の形を見る。	
(4) 肌の表面の**ケアナ**を図で見る。	
(5) 泡の出る**タンサン**の飲み物を選ぶ。	
(6) 下へ垂れることを「**カスイ**」という。	
(7) 飲み終えた**アキビン**を片づける。	
(8) 出発前に飛行機へ**トウジョウ**する。	
(9) 晴れていたのに、**トツゼン**雨が降った。	
(10) 葉と茎をつなぐ**ヨウヘイ**を観察する。	
(11) 帆を上げて船が**シュッパン**する。	
(12) 港に集まる**センパク**を眺める。	
(13) 昔の墓である**コフン**を見学する。	
(14) 自由な考えを**ソクバク**する決まりを見直す。	
(15) 陶磁器などを作る**ヨウギョウ**を学ぶ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 懸垂	(17) 快艇	(18) 空洞	(19) 弓道	(20) 瓶詰

この回を終えたら もう一度確かめる

一度成功したら、どの工夫が働いたかも分かるでしょうか。
何を替えた比較なのか、記録へ戻って確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

向こう岸までの三十秒

小さな瓶が、向こう岸へ着いた。三十秒。健太は時計を止め、濡れた船体を持ち上げた。古墳の展示で模型を見て、自分で作った小艇だ。船舶の本を開き、弓のように曲がる帆を付けた。家の机の水槽が、今日は試験の場所になっている。

荷物の瓶は、叔母が窯で焼いた物だった。予算に合わせて木を選び、穴と突起を確かめた日から、これを運びたかった。叔母と一緒に、帆の柱を底へ垂直に立て、ひもで結縛した。道具の柄を握った指には、まだ力を入れた跡がある。

一回目は、大きな帆だった。瓶の搭載位置を決め、進みたい軌道を紙へ矢印で描く。扇風機は水槽から五十センチ離した。ところが船は途中で横を向き、岸へ着かなかった。「風に翻弄されてる。」叔母は水槽の縁とひもの摩擦も見ていたが、原因とは決めなかった。

二回目には帆を小さくし、扇風機も三十センチの所へ近づけた。それが、いま向こう岸へ着いた船だ。健太はノートへ「小さい帆にしたから成功」と書きかけた。

「二つ替えたよね。」叔母が、帆と扇風機を順に指した。

二回の試験の記録

試験	帆	扇風機との距離	結果
一回目	大きい	50cm	岸へ着かない
二回目	小さい	30cm	30 秒で着く

船も瓶も、載せた場所も同じだ。けれど、帆だけを替えた比較にはなっていない。二回目の組合せで運べたことは言えても、何がどれだけ効いたかは、別に確かめる必要がある。健太は消しゴムを置き、一回目の記録も残して条件を並べた。

小さな帆ならどんな船でも運べる、とも書かなかった。古墳の時代の船も同じ方法で進んだ証明にはならない。それでも、叔母の瓶は向こう岸へ着いた。健太は瓶の底を拭き、机に置いた。叔母が焼いたときの、わずかな色むらが見えた。

片づける前に、叔母が炭酸の飲み物を持ってきた。健太はその瓶を見て、次はこれも運べるかなと聞いた。「重さも違うね。」叔母は空の船を見て笑った。ノートの次のページは、まだ白い。健太は飲み終えてから、二本の瓶を並べてみた。

模型・試験・数値は創作です。工作や船の運航、機械操作の手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

二回の試験で同じだったことと、替えたことを照らして答えなさい。

（1）本文から、健太が作った小さな船を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）思うようにならず振り回されることを表す「ホンロウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）二回目の成功から言えることを選びなさい。

ア　帆だけを替えた効果が確定した。
イ　全ての船は小さな帆の方が速い。
ウ　小さい帆と距離三十センチの組合せで、瓶を運べた。
エ　古墳の時代の航路が証明された。

（4）一回目の記録も残した理由に合うものを選びなさい。

ア　替えた条件と結果を、二回分並べて確かめるため。
イ　二回目も岸へ着かなかったことにするため。
ウ　失敗した人には作る資格がないと示すため。
エ　叔母の瓶を運ばなかったことにするため。

（5）小さい帆だけが成功の原因だとしなかった理由を、
二回の条件を比べ、45〜55 字で書きなさい。

（6）試験の結果を、「条件」「成功」を使って 70〜90 字で報告しなさい。
できたことと、まだ分けて確かめられないことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十七回　技法・工程・輸送

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　単位や基準を替えて数値を表す。何から何へ直すかを確かめる。
（2）イ　何をどこへ載せるかに着目する。人が乗る搭乗とは文脈に応じて区別する。
（3）ウ　何に対して直角かを読む。図の上下だけで、全ての垂直を決めない。
（4）エ　風や相手などに振り回される場面で使う。手で持つ行為だけに限らない。
（5）ア　接する物同士のこすれ合い。人や集団の対立を表す比喩の用法もある。
（6）ウ　陶磁器などに関わる工業。窯と釜は字も用途も区別して読む。

四　熟語を広げよう

（1）予算　（2）船体　（3）矢印　（4）洞穴　（5）酸味
（6）垂直　（7）花瓶　（8）搭載　（9）弓術　（10）衝突
（11）図柄　（12）帆船　（13）軌道　（14）摩擦

搭載は荷物や装置などを載せること。搭乗は人が乗り物に乗ること。（6）垂直は、二つの線や面などが直角に交わる関係。予定の軌道と、実際に通った軌跡は、文脈で区別して読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　酸の全ての用法を、味のすっぱさへ戻さない。物質の性質は名前だけで決めない。
（2）ア　一種であることと、全てが同じであることを分ける。舶の字だけで船の大きさは決めない。
（3）エ　二つを同時に替えた比較から、片方だけの効果を断定しない。成功した事実自体は残す。
（4）イ　読みが同じでも、用途と字形を確かめる。ここでは陶器を焼く窯として使う。

五　自分で書く問題

（5）解答例

箱の底の小さな突起が机に当たり、平らな場所でも少し揺れていた。

☆自分で確かめる点　突き出た部分の位置と、物の様子が分かるか。

（6）解答例

床へ残った車輪の軌跡をたどると、台車が棚の前で曲がったと分かった。

☆自分で確かめる点　予定ではなく、実際の動きの跡を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）計算　（2）造船　（3）弓矢　（4）毛穴　（5）炭酸
（6）下垂　（7）空瓶　（8）搭乗　（9）突然　（10）葉柄
（11）出帆　（12）船舶　（13）古墳　（14）束縛　（15）窯業
（16）けんすい　（17）かいてい　（18）くうどう　（19）きゅうどう　（20）びんづめ

（6）下垂は下へ垂れ下がること。（10）葉柄は葉と茎をつなぐ部分。（11）出帆は船が出港すること。（15）窯業は陶磁器やガラス、セメントなどを作る工業。（17）快艇は速く走る小さな船。

七　文章の中で考えよう

（1）小艇　健太が作り、水槽で試験した小さな船。
（2）翻弄　思うようにならず振り回されること。健太は、風を受ける船の動きをこう表した。
（3）ウ　二回目に用いた条件の組合せでの結果として言える。
（4）ア　成功だけを残さず、何を替えたかを比較できるようにした。

七　記述問題の考え方

（5）　帆だけを原因にしない理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

帆を小さくすると同時に扇風機との距離も縮めており、二つの変更のどちらがどう働いたかを分けていないから。

（5）別解例　52 字

船や瓶の位置は同じでも、帆の大きさと風を送る位置の二条件を替えたため、帆だけの効果とは確定できないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 帆の大きさと、扇風機との距離の両方を書いたか。
② 同時に二つ替え、効果を分けられないことを示したか。
③ 二回目に運べた事実を否定していないか。
一つずつ替えた新しい試験の結果は、本文にはまだない。次の結果を先に確定しない。

（6）　試験結果の報告 70〜90 字

（6）解答例　84 字

小さい帆と扇風機まで三十センチの条件で、瓶を三十秒で運ぶことに成功しました。ただ、帆と距離を同時に替えたので、帆だけの効果は分かりません。一回目の失敗と条件も残します。

（6）別解例　86 字

二回目は小さい帆を使い、扇風機との距離を三十センチにして成功しました。二条件を同時に替えたため、何がどれだけ効いたかは分けられません。結果を他の船や古代の航海へ広げません。

☆（6）自分で確かめる点

①「条件」「成功」を使ったか。
② 二回目の組合せと、二つを同時に替えた限界を書いたか。
③ 次の重い瓶や、実際の海でも運べるとはしていないか。
限界を書くことは、成功した事実を消すことではない。この試験で言える範囲を示す。

漢字から文章へ 第五冊

第十八回

歴史・芸術・慣習

祝いの劇は、皆が幸福になる結末のはずでした。
絵巻をもう一度開くと、少し違う言葉が見つかります。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

絵	幸	礼	宮
色や線で表す像	しあわせ よい巡り	敬意を表す作法	君主や神の建物

劇	奏	祥	儒
舞台で演じる 激しい	音楽をかなでる	めでたいしるしなど	儒教を学ぶ人など

いっしょに覚える漢字

墓	拝	殿	韓	荘	彫
呪	唐	琴	碑	摯	神

この回で読むお話

宮殿を出たあとの一曲

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
絵	カイ エ	色や線で表した像 絵巻・絵画・挿絵・絵図	劇	ゲキ	激しい／舞台で演じる作品 演劇・劇場・悲劇・劇的
幸	コウ さいわい さち しあわせ	よい巡り合わせ／しあわせ 幸福・幸運・不幸・多幸	奏	ソウ かなでる	音楽をかなでる／申し上げる 演奏・合奏・奏者・奏上
礼	レイ ライ	敬意を表す作法／お礼 儀礼・礼儀・礼拝・謝礼	祥	ショウ	めでたいしるし／始まりに用いる 吉祥・発祥・瑞祥・吉祥文
宮	キュウ グウ ク みや	君主や神がいる建物 宮殿・神宮・王宮・宮廷	儒	ジュ	儒教を学ぶ人／儒教 儒学・儒教・儒者・大儒

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
墓	ボ はか	遺体や遺骨を葬る場所 墓制・墓地・墓標・墳墓	呪	ジュ シュ のろう まじなう	言葉などで災いや加護を願う 呪術・呪文・呪い・呪符
拝	ハイ おがむ	敬って頭を下げる／受ける 礼拝・拝見・拝借・参拝	唐	トウ から	中国の王朝名／外国 唐代・唐文化・唐草・唐突
殿	デン テン との どの	大きな建物／敬称 神殿・宮殿・殿堂・御殿	琴	キン こと	弦楽器のこと／楽器名にも用いる 琴・琴線・木琴・和琴
韓	カン から	朝鮮半島の国名・地域名に用いる 韓国・三韓・韓流・訪韓	碑	ヒ	文字を刻んで立てる石 石碑・墓碑・碑文・記念碑
荘	ソウ ショウ	おごそか／別荘・荘園など 荘園・別荘・荘厳・山荘	摯	シ	まじめで心がこもる 真摯・摯実・摯情
彫	チョウ ほる	材料を刻んで形を作る 彫刻・彫像・木彫・浮彫	神	シン ジン かみ	信仰の対象／心の働きにも用いる 神話・神社・精神・神聖

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「儀礼」に合うものを選びなさい。
ア　必ず相手へ贈る食べ物　　イ　決まった形で行う式や作法など
ウ　舞台に使う楽器だけ　　エ　人の幸福を数える単位

(2)「奏上」に合うものを選びなさい。
ア　相手へ必ず楽器を渡すこと　　イ　石に文字を刻むこと
ウ　天皇などへ申し上げること　　エ　絵巻を丸めて片づけること

(3)「吉祥」に合うものを選びなさい。
ア　めでたいしるし　　イ　話が起きた最初の場所だけ
ウ　必ず不幸になる予告　　エ　劇に登場する全ての人物

(4)「儒学」に合うものを選びなさい。
ア　植物の育て方だけの学問　　イ　船の速さだけを調べる学問
ウ　絵の色を必ず一つにする決まり　　エ　孔子などの教えを受け継ぐ学問

(5)「墓碑」に合うものを選びなさい。
ア　芝居の幕を開く合図　　イ　墓に立てる、文字を刻んだ石など
ウ　君主が暮らす建物だけ　　エ　花を生ける器だけ

(6)「真摯」に合うものを選びなさい。
ア　全員と必ず同じ意見になること　　イ　作品を一度も変えないこと
ウ　まじめで、心を込めて向き合うこと　　エ　話を聞かずに結論を決めること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　墓碑　儀礼　彫刻　演奏　絵巻　謝礼　儒学
演劇　神殿　幸福　呪文　吉祥　宮殿　参拝

文	解答	文	解答
(1) 絵を巻物にした□□を広げる。		(8) 儒教に関わる□□の本を読む。	
(2) 人々の□□を願う。		(9) 墓に立つ□□の文字を読む。	
(3) 式の決まった作法の□□を調べる。		(10) 神社へ□□に出かける。	
(4) 君主の住まいの□□を舞台にする。		(11) 神を祭る建物の□□を描く。	
(5) 舞台で演じる□□を見に行く。		(12) 木を刻む□□の道具を見る。	
(6) 皆で音楽を□□する。		(13) 言葉に力を託す□□が劇に出る。	
(7) めでたいしるしの□□の文様を描く。		(14) 助けてくれた人へ□□を渡す。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「幸福を祈る」と「幸福になる」に合うものを選びなさい。

幸福を祈ったことは分かるが、その後全員が幸福になったかは書かれていない。

ア　願う行為と、その結果が確かめられたことを分けている。
イ　祈ったので全員の結果も確定した。
ウ　祈った人は何も願っていない。
エ　結果が不明なら祈りもなかった。

（2）この「吉祥」と「発祥」に合うものを選びなさい。

吉祥の文様を描き、その工芸の発祥の地も調べた。

ア　どちらも同じ模様の色だけを表す。
イ　発祥は必ず未来の幸せの予告だ。
ウ　吉祥は作品を壊すことだ。
エ　めでたいしるしと、物事が始まった場所を分けている。

（3）この「琴」と「木琴」に合うものを選びなさい。

弦のある琴と、木の音板をたたく木琴の仕組みを区別した。

ア　どちらも必ず弦をたたく楽器だ。
イ　同じ字を含んでも、楽器の構造は同じとは限らない。
ウ　木琴には木の部分がない。
エ　琴という字は楽器名に使えない。

（4）この「創作」と「原作」に合うものを選びなさい。

原作にない帰り道の場面を創作し、加えた場面だと台本に示した。

ア　加えたので原作にも最初からあった。
イ　新しく作ることは全て原作の誤読だ。
ウ　もとの内容と、自分たちが新しく加えた表現を分けている。
エ　違いを示せば観客の感想は一つになる。

（5）「拝見」を使い、何を見たかと相手への敬意が分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「真摯」を使い、何にどう向き合ったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 美術館で**カイガ**を鑑賞する。	
(2) 思いがけない**コウウン**に恵まれる。	
(3) 相手を敬う**レイギ**を大切にする。	
(4) 物語の舞台となる**オウキュウ**を描く。	
(5) 町の**ゲキジョウ**へ出かける。	
(6) 友人と楽器を**ガッソウ**する。	
(7) 文化の**ハッショウ**の地を訪ねる。	
(8) 孔子の教えに始まる**ジュキョウ**を学ぶ。	
(9) 家族で**ボチ**を訪れる。	
(10) 物語の**シンセイ**な場所を描く。	
(11) 韓国を訪れる**ホウカン**の予定を立てる。	
(12) 木でできた**チョウゾウ**を眺める。	
(13) つる草が伸びる**カラクサ**模様を描く。	
(14) 石に刻まれた**ヒブン**を読む。	
(15) 魔法物語に登場する**ジュジュツ**を比べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 奏上	(17) 荘厳	(18) 石碑	(19) 宮廷	(20) 精神

この回を終えたら もう一度確かめる

願いが描かれた絵の、その後は決まっているでしょうか。
原作から分かることと、自分が加える表現を区別しましょう。

七　文章の中で考えよう

宮殿を出たあとの一曲

「皆が幸福になりました。」玲は最後の台詞を言い、礼をした。友人たちと作る演劇の練習だ。原作は、昔の中国、唐を舞台にした創作の絵巻『宮殿の春』。神殿の儀礼や吉祥の鳥の彫刻が描かれ、儒学を学ぶ若者が花を供え、琴を演奏する。

背景画を頼んだ韓国の友人ミナに、練習の映像を送った。ミナは絵巻の端を拡大して見せた。荘園から物を運ぶ人や、墓碑の前で祈る人がいる。玲が、この人たちも幸せになると言うと、ミナは、どこにそう書いてあるかと聞いた。

元の文字は「人々の幸福を祈る」だった。

神話の神や呪文は出てくるが、その後の人々の暮らしは書かれていない。玲は、祈ったことを、願いがかなった結果へ変えていた。荘厳な礼拝の絵から、一人ずつの気持ちまで同じとは分からない。台詞を「幸福を祈ります」へ戻すと、幕が急に閉じるようで、今度は続きが気になった。

琴を弾いた人は、宮殿を出たあと、どこへ行くのだろう。祖母に話すと、祖父の墓へ供える花を選ぶ日にも、きれいな色を見つけるのがうれしい、と言った。玲は花屋の前で立ち止まる祖母を思い浮かべた。悲しい日には、ほかの気持ちはないと思っていた。

仲間と、帰り道の場面を加えた。墓参りを終えた人が道で音楽を聞き、しばらく立ち止まってから帰る。悲しみが全て消えたとは言わせない。元の絵巻にある場面と取り違えないよう、台本には、ここから自分たちの創作だと書いた。

ミナが、原作を変えるのは真摯ではないのかと尋ねた。玲は、原作にない結果を元からあるように示すことと、自分たちの場面だと伝えて加えることを分けて話した。劇を見た人がどう受け取るかは、上演前には決められない。帰り道の長さは、まだ皆で相談している。

練習のあと、玲は祖母に木琴でその曲を聞かせた。祖母は黙って聞き、終わると、もう一度と頼んだ。玲は、幸せになったかとは聞かなかった。窓の外を自転車が通り過ぎるのを待ち、最初の一音を、さっきよりゆっくり打った。

絵巻・人物・劇・儀礼は創作です。実在の歴史作品や特定の信仰の解釈を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

絵巻にある言葉と、玲たちが加えた場面を区別して答えなさい。

（1）本文から、練習のあとに玲が祖母へ聞かせた楽器を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ふだんの家と別に、避暑などに用いる「ベッソウ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）元の絵巻から確認できたことを選びなさい。

ア　その後の人々の生活は全て幸福だった。
イ　祖母が帰り道で同じ曲を聞いた。
ウ　幸福を祈ったが、その後の暮らしは書かれていない。
エ　玲たちの帰り道の場面が最初からあった。

（4）新しい帰り道の場面について、本文に合うものを選びなさい。

ア　悲しみが全て消える結果を原作として示した。
イ　加えたことは隠し、元の絵の場面と同じにした。
ウ　元の絵巻の文字は全て読めないとした。
エ　自分たちの創作だと台本に示し、原作と分けた。

（5）結びを「幸福を祈ります」へ戻した理由を、
元の絵巻と最初の台詞の違いに触れ、45〜55 字で書きなさい。

（6）玲たちの劇を、「祈り」「創作」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
原作から残したことと、新しく加えたことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十八回　歴史・芸術・慣習

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　式や作法に関わる語。形を行ったことから、全員の内心まで同じとは決めない。
（2）ウ　奏には、かなでる意味のほか、申し上げる意味がある。演奏と語全体で読み分ける。
（3）ア　よいことが起こるしるし。発祥のように、始まりに関わる語もある。
（4）エ　儒教に関わる学問。語だけで、ある人物が全ての教えに従うかまでは分からない。
（5）イ　墓と碑の意味を組み合わせて読む。書かれている内容は実際の文字を確かめる。
（6）ウ　心を込める態度。意見の一致や、表現を変えないことと同一にはしない。

四　熟語を広げよう

（1）絵巻　（2）幸福　（3）儀礼　（4）宮殿　（5）演劇
（6）演奏　（7）吉祥　（8）儒学　（9）墓碑　（10）参拝
（11）神殿　（12）彫刻　（13）呪文　（14）謝礼

吉祥はめでたいしるし、発祥は物事の起こり。（10）参拝は神社や寺などにお参りすること。（14）謝礼は感謝を表す金品など。「神」は第四冊第十八回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　願った事実は残し、結果を先に足さない。願いに価値がないという説明にはしない。
（2）エ　同じ祥でも語の意味は異なる。どちらも本文の対象とともに確かめる。
（3）イ　琴を含む語を、全て同じ弦楽器とはしない。楽器の名前と構造をそれぞれ確かめる。
（4）ウ　変更を明示して新しく表現できる。原作についての事実と、作品の評価は分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

先生が描いた絵を拝見し、窓の外の小さな人は誰なのかを尋ねた。

☆自分で確かめる点　見る対象と、その持ち主や作り手への敬意が分かるか。

（6）解答例

友人の異なる意見にも真摯に耳を傾け、自分の説明をもう一度考えた。

☆自分で確かめる点　態度を示す行動があり、同意することだけにしていないか。

六　短文で使ってみよう

（1）絵画　（2）幸運　（3）礼儀　（4）王宮　（5）劇場
（6）合奏　（7）発祥　（8）儒教　（9）墓地　（10）神聖
（11）訪韓　（12）彫像　（13）唐草　（14）碑文　（15）呪術
（16）そうじょう　（17）そうごん　（18）せきひ　（19）きゅうてい　（20）せいしん

（8）儒教は孔子の教えに始まる思想。（13）唐草はつる草が伸びて絡む形の模様。（16）奏上は天皇などへ申し上げること。（17）荘厳は「しょうごん」も可。ここでは「そうごん」とした。

七　文章の中で考えよう

（1）木琴　玲が劇の練習のあと、祖母へ曲を聞かせた楽器。
（2）別荘　避暑などのため、ふだんの家とは別に設ける家。荘園とは語全体の意味が異なる。
（3）ウ　祈りの行為と、結果の確認を分けている。
（4）エ　自分たちの表現として加え、元の内容と取り違えないよう示した。

七　記述問題の考え方

（5）　結びの言葉を戻した理由 45〜55 字

（5）解答例　55 字

絵巻は幸福を祈る行為を示すだけで、その後の暮らしは不明なのに、最初の台詞は全員の幸福が実現したとしていたから。

（5）別解例　55 字

絵巻には幸福を祈るとあるだけで、その後の結果は書かれておらず、最初の台詞のように全員の幸福を確定できないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 元の絵巻では幸福を祈っていると示したか。
② その後の結果は不明だと、最初の台詞と比べたか。
③ 祈りそのものがなかったという説明にしていないか。

願いを否定する問題ではない。作品から確かめられる内容を、結果へ広げないことを説明する。

（6）　劇の紹介 70〜90 字

（6）解答例　85 字

絵巻にある幸福への祈りを残し、全員が幸福になったとはしない劇です。帰り道で音楽を聞く場面は自分たちの創作だと示しました。悲しみが消えるとは決めず、足を止める姿を描きます。

（6）別解例　86 字

絵巻の祈りを、願いが全てかなった結末へ替えずに演じます。墓参りの帰りに音楽を聞く場面は新しい創作として加え、原作と分けました。そこで人が何を感じるかを、一つには決めません。

☆（6）自分で確かめる点

①「祈り」「創作」を使ったか。
② 原作にあることと、加えた帰り道を区別したか。
③ 全員の幸福や、悲しみの消失を結果にしていないか。

新しい場面への評価は違ってよい。どこからが自分たちの表現かを明確にして紹介する。